



# Net Express

## エラーメッセージ

# 目次

第1章: 概説.....	1-1
1.1 マニュアルの内容.....	1-1
第2章: 構文チェック時のメッセージ.....	2-1
2.1 概説.....	2-1
2.1.1-1 エラーメッセージ.....	2-1
2.1.2-2 フラグ.....	2-3
2.1.3-3 メッセージの中の名前.....	2-4
2.2 メッセージ.....	2-4
第3章: コード生成時のメッセージ.....	3-1
3.1 概説.....	3-1
3.2 メッセージ.....	3-2
第4章: ランタイムシステム・メッセージ.....	4-1
4.1 概説.....	4-1
4.2 エラーの種類.....	4-3
4.2.1-1 例外.....	4-3
4.2.2-2 I/Oエラー.....	4-3
4.2.2.1 致命的エラー.....	4-4
4.2.2.2 回復可能エラー.....	4-4
4.2.3-3 エラーに対する処置.....	4-4
4.3 メッセージ.....	4-5
第5章: ファイル状態コード.....	5-1
5.1 概説.....	5-1

5.2	メッセージ.....	5-2
5.3	拡張ファイル状態コード.....	5-4
5.4	Microsoft COBOL V2のファイル状態コード.....	5-8
5.5	ファイル状態コードの表示方法の例.....	5-9
5.6	ファイル状態コードのチェック方法の例.....	5-10
5.7	拡張ファイル状態コードの例.....	5-11

# 第1章： 概説

このマニュアルは、次のような場合に表示されるメッセージについて、詳細に説明してあります。

- COBOL原始コードの構文チェックのとき
- 生成コードを作成するとき
- プログラムを実行するとき

## 1.1 マニュアルの内容

このマニュアルの構成は、以下の通りです。

### 第1章 概説

このマニュアルの内容について説明します。

### 第2章 構文チェック時のメッセージ

原始コードをCOBOLシステムへ受け渡したときに表示されるメッセージについて説明します。

### 第3章 コード生成時のメッセージ

固有コードを生成しているときに表示されるメッセージについて説明します。

### 第4章 ランタイムシステム・メッセージ

ランタイムシステムから出されるエラーメッセージについて説明します。また、これらのエラーの原因と、エラーを回復するためのコーディングについても説明します。

### 第5章 ファイル状態コード

表示されるファイル状態コードを列挙します。

## 第2章： 構文チェック時のメッセージ

### 2.1 概説

この章で説明するメッセージは、COBOLシステムがプログラムの構文をチェックするとき（中間目的コードを作成する前）に表示されます。メッセージは、COBOLの構文に誤りがあるか、またはプログラムに矛盾があることを示します。この章では、これらのメッセージを番号順に記述してあります。

#### 2.1.1 -1 エラーメッセージ

COBOLシステムは、これらのメッセージを次の形式で表示します。

```
LINE OF COBOL CODE.  
**nnnn-A****                               (mmmm) **  
**メッセージ
```

nnnn : メッセージ番号

mmmm : 前のメッセージが発生したページ

A : メッセージの重要度を、以下の文字で示します。

U : 回復不可能エラー。

回復不可能なエラーが発生すると、COBOLシステムは停止します。このメッセージは、実際にはランタイムシステムが作成します。このようなメッセージの詳細については、後述する第4章「ランタイムシステム・メッセージ」を参照してください。

S : 重大エラー。

重大なエラーがあると、エラーが発生した文に対する中間目的コードは生成されません。このため、この中間目的コードは、固有コードの生成には使用できません。また、このコードは実行できません。

しかし、エラースイッチ（E）をオンに設定しておけば、Sレベルのエラーがある中間目的コード上でもアニメートできます。詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

どちらの方法を使用しても、作成された中間目的コードを実行すると、予測できない結果とな

ります。

Sレベルのエラーが発生すると、エラーを起こした語と、次に来る動詞または次の文の先頭との間にある原始コードは、無視されます。このため、エラーを修正したプログラムを再度コンパイルしても、より多くのエラーが出ることがあります。

E : 一般エラー。

原始コード中でエラーが発生するたびに、COBOLシステムはエラーの回復を試み、意図されている動作を想定して、構文をチェックし、中間目的コードの生成を続けます。この結果が自分の意図するものと異なっている場合には、誤りがある原始コードを修正しなければなりません。

どちらの場合でも、エラーのない中間目的コードを生成するためには、原始コードを修正する必要があります。

エラースイッチ (E) をオンに設定しておくことによって、エラーがある中間目的コードも、アニメートしたり、固有コードを作成して実行したりできます。詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

W : 警告。

警告は、原始コードに誤りか矛盾があることを示します。しかし、その構文は、正しいものです。

警告された中間目的コードは、アニメートできます。また、固有コードを作成して、実行することもできます。

I : 情報。

情報は、原始コードの中に、知っておく必要がある情報が存在することを示しています。このメッセージは、エラーや、何かの処置を示すものではありません。情報が出された中間目的コードは、アニメートできます。また、固有コードを作成して、実行することもできます。

同じメッセージでも、異なる状況下では異なる重要度で表示されることもあります。

一般エラー (E)、警告 (W)、および情報 (I) は、WARNING指令の設定によって、表示される場合と表示されない場合とがあります。詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

重大な障害やエラーの多くには、単純なエラーが重なっている場合があります。原始コードの始めにエラーが発見されると、COBOLシステムが残りのコードを処理するにつれて、将棋倒しのように一連のエラーメッセージを作ります。終止符を打っていない、というような単純なミスが原因で、多量のメッセージが出るがよくあります。これらのメッセージはすべて、最初のエラーから始まったものです。このような場合、終止符を挿入するという非常に単純な変更をするだけで、重大な障害やエラーから回復できます。

## 2.1.2 -2 フラグ

上記のメッセージに加えて、COBOLシステムはフラグを作ります。COBOLシステムは、フラグをメッセージと同じような形式で表示します。

```
LINE OF COBOL CODE.  
* * nnnn- フラグの種類 * * * * *  
* * フラグメッセージ
```

nnnn : フラグ番号

フラグの種類 : 以下に述べる構文のレベルを示します。

FLAG指令を使用する場合、選択するレベルでサポートされていない構文は、この方法で示されます。フラグの種類は、この機能がサポートされる最も低いレベルを示します。また、使用するFLAG指令によって、次のどれかとなります。

LOW	GSA低レベル
L-1	GSA低中間レベル
H-1	GSA高中間レベル
HIGH	GSA高レベル
MF	ANSI COBOL標準 X3.23 1974に対するMico Focusの拡張
OSVS	IBM OS/VS COBOL
VSC2	IBM VS COBOL
ANS74	ANSI COBOL標準 X3.23 1974
ANS85	ANSI COBOL標準 X3.23 1985
SAA	IBM システム・アプリケーション体系 (SAA) のCOBOL定義全体

FLAG指令の詳細については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

FLAGSTD指令を使用する場合、ANSI85 COBOLサブセットおよび選択されたモジュールがサポートしない構文は、フラグによって示されます。フラグの種類はこの機能がサポートされる最も低いレベルを示します。また、使用するFLAGSTD指令によって、以下のどれかとなります。

MIN	最小レベル
INT	中間レベル
HIGH	高レベル
MF	ANSI COBOL標準 X3.23 1985に対するMicro Focusの拡張
OSVS	IBM OS/VS COBOL

VSC2 IBM VS COBOL

SAA IBM システム・アプリケーション体系 (SAA) のCOBOLの定義全体

FLAGSTD指令の詳細については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

COBOLシステムは、FLAGまたはFLAGSTD指令が有効な場合だけ、これらのフラグを作成します。これらのフラグは情報の提供が目的です。また、プログラムを異なる環境で使用しようとする場合、非互換となる可能性がある領域を示します。

フラグはプログラムの実行に影響を与えることはありません。また、固有コードの生成やデバッグツールAnimatorの使用を妨げることもありません。

原始プログラムが、FLAG指令で設定したメインフレームのコンパイラ実行の制限を超えた場合、フラグ404から451までが作成されます。

各メインフレームでのCOBOL言語に対する制限を、付録「SAA、OSVSおよびVSC2の実行制限に関するフラグ」に、表形式で説明してあります。メッセージ中で示される制限値は、SAAの実行時に与えられている制限です。

### 2.1.3 -3 メッセージの中の名前

表示されたメッセージ中に、実際にプログラムで使用した名前や、値、あるいは制限値が入ることがあります。

このマニュアルでは、その部分は、括弧で囲んでいます。

例えば、メッセージ1146は次のように記述します。

**1146** (手続き名)が複数のPERFORM文の範囲に存在する

この手続き名がCALCULATE-TAXならば、実際に表示されるメッセージは次のようになります。

1146 CALCULATE-TAXが複数のPERFORM文の範囲に存在する

## 2.2 メッセージ

### 0001 未定義エラー . テクニカル・サポートに問い合わせること

- プログラム中にCOBOLシステムが識別できないエラーがあります。
- テクニカル・サポートにCOBOL原始コードのコピーを送って、エラー原因を探してください。

**0002 予期できないSQLエラー . テクニカル・サポートに問い合わせること**

- プログラム中にCOBOLシステムが識別できないSQLエラーがあります。
- テクニカル・サポートにCOBOL原始コードのコピーを送って、エラー原因を探してください。

**0003 違法な形式がある:定数**

- 原始コード中の定数文字列が、定数であるための規則を満たしていません。定数は、文字または数字のどちらでも構いません。

数字の場合、長さは18文字以内（ただし符号文字は1文字まで、小数点は1桁まで）です。

文字の場合、コンピュータの文字セットで許される文字の組み合わせとし、手続き部では160文字以内、データ部で2048文字以内です。文字定数は、引用符で囲んでください。

表意定数を使用した場合、正しく書いてある適切な予約語（ZEROなど）によって参照されていることを確認してください。

表意定数と数字定数は、引用符で囲むことはできません。

また、文の前後関係からみて、誤った字類の定数を使用した可能性もあります。

あるいは、コードの中に表意定数ALLを使用した場合、この定数の使用規則に従っていない可能性もあります。ALLの後は、数字定数ではなく、文字定数でなければなりません。

- 上記の規則に従って、プログラムを変更してください。

表意定数についての詳細は、『言語リファレンス』を参照してください。

**0004 違法な文字がある**

- プログラム中に、COBOL言語セットではない文字があります。
- 使用できる文字の詳細は、『言語リファレンス』を参照してください。無効な文字を、有効な文字と置き換えてください。

**0005 利用者語（利用者語）が一意でない**

- 原始コード中で、複数のデータ項目または手続き名に、同じ利用者語を修飾なしで使用しています。
- 名前を変更するか、データ項目または手続き名を修飾して、参照が一意になるようにしてください。

**0007 カラム7に違法な文字がある、または空白である**

- カラム7の標識領域に無効な文字があります。
- 無効な文字とは、\*、D、-、/、または空白です。

**0008 COPYファイル（ファイル名）が見つからない**

- COPY文に関連して記述したファイル名を持つファイルが見つかりません。
- ファイル名を変更するか、そのファイルをCOBOLシステムで使用できるようにしてください。拡張子（.CBL）および（.CPY）の詳細については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

**0009 ピリオドがない**

- 原始コード中、COBOLの構文規則で決められた位置に終止符がありません。
- 適切な位置に終止符を打ってください。

**0010 行中の誤った領域に語を記述している**

- B領域から始まるべき語がA領域から始まっています。またはA領域から始まるべき語がB領域から始まっています。

**0011 予約語がない、または誤って使用している**

- 利用者語を使用すべき箇所で予約語を使用しています。または、予約語が必要な箇所で予約語を使用していません。
- 予約語を利用者語に変更するか、または、このメッセージが表示された部分に、予約語を挿入してください。

**0012 作用対象（データ名）が宣言されていない**

- まだ宣言していないデータ名か、または、誤ったスペルのデータ名を使用しています。
- このエラーは、宣言していないデータ項目の直後で起きるとは限りません。COBOLシステムはデータ項目が適切かどうかを探すため、原始コード全体の処理を続けているからです。誤ったデータ項目を見つけるには、原始コード中の最も近いデータ項目まで戻って探す必要があります。

データ項目を宣言したことを確認してください。

**0013 利用者語が必要である**

- 利用者語を、プログラム中の指定された箇所で使用していません。
- 利用者語を入れてください。COBOLの構文規則を満たしていることと、正しい形式の名前（システム名や条件名など）であることを確認してください。

**0014 無効な作用対象がある**

- 指定した作用対象（オペランド）が不正確で、COBOLシステムで処理できません。例えば、正の整数だけが使用できる箇所で、負の整数を指定しています。
- この構文で使用できる作用対象の詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。

**0015 手続き部が大きすぎる**

- プログラムの手続き部が、最大許容サイズを超えています。
- プログラムを、別の小さいプログラムと組み合わせて呼び出すように、作成し直してください。

**0016 データ部が大きすぎる**

- プログラムのデータ部が、最大許容サイズを超えています。
- プログラムを、小さなデータ部を持つ別のプログラムと組み合わせるように、作成し直してください。

**0017 予約語（語）を誤って使用している**

**0018 プリプロセッサの初期化中にエラーが発生した**

- COBOLシステムが起動した統合プリプロセッサの初期化中にエラーが発生したため、初期化が中断されました。
- プリプロセッサによりエラーの詳細が表示された場合には、問題を修正してコマンドを再度実行してください。

**0019 BASISの行番号に誤りがある**

- BASIS機構を実行する文中で、行番号の順序に誤りがあります。例えば、文DELETE100-60は誤りです。（BASISは数字順に表す必要があります。）
- 順序の誤りを修正してください。

**0020 数字定数が必要である**

- この文中では、数字定数を指定してください。
- 有効な数字定数についての詳細は、『言語リファレンス』を参照してください。数字定数が、数字定数の規則を満たしていることを確認してください。

**0021 修飾語が多すぎる**

- 修飾されたデータ名、手続き名、テキスト名を参照するとき、修飾語を多く使いすぎています。指定できる修飾語の数については、『言語リファレンス』を参照してください。
- 誤りのある参照を変更し、修飾語の数が許容範囲内であることを確認してください。

**0022 SKIP1/2/3,EJECT,TITLEは1行に1語とする**

- これらの語がある行には、他の語があってはなりません。
- プログラムを修正して、1行中にはこれらの語だけがあるようにしてください。

**0023 文字定数が必要である**

- この文中では、文字定数を指定してください。
  - 文字定数の詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。
- 指定した定数が、文字定数の規則を満たしていることを確認してください。

**0024 違法な修飾語がある**

- 修飾されたデータ名、手続き名、テキスト名を誤って指定しています。
  - 修飾方法の詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。
- 誤りのある修飾の参照を訂正してください。

**0025 修飾はできない**

- この文中ではデータ名、手続き名、テキスト名を修飾できません。
- 参照を、非修飾の参照に訂正してください。

**0026 定数が長すぎる**

- 指定した定数が、定数の最大サイズを超えています。
- 定数が数字の場合、長さは18文字以内です。

定数が文字の場合、手続き部で160文字以内、データ部で2048文字以内です。

指定した定数が、最大サイズ以下であることを確認してください。

**0027 数値が大きすぎる**

- 宣言した数値が大きすぎます。
- 最大値については、『言語リファレンス』を参照してください。

**0028 データ項目が長すぎる**

- 宣言したデータ項目が、指定したデータ形式としては長すぎます。
- 各形式のデータ項目の最大サイズについては、『言語リファレンス』を参照してください。

**0029 データ名ではない**

- 有効なデータ項目を指定すべき箇所に、データ項目ではない作用対象（オペランド）を指定しています。例えば、データ名の代わりにFD名や条件名を指定しています。
- 誤っていた項目に、データ名を指定し、それが宣言されていることを確認してください。

**0030 集団項目とする**

- MOVE CORRESPONDING文の中で、送り出しまたは受け取り項目として、基本項目を指定しています。
- 送り出し、および受け取り項目が、ともに集団項目となるように修正してください。

**0031 基本項目とする**

- 基本項目を使用すべき文の中で、集団項目名を指定しています。
- 基本項目に対する参照となるように、参照を変更してください。

**0032 添字付け、指標付けはできない**

- 使用できない箇所で、添字付き、または指標付きのデータ項目を指定しています。
- 単一の（添字なし、指標なし）データ項目に対する参照になるように、修正してください。

**0033 手続き名とする**

- この文中では、手続き名（段落または節の名前）が必要です。データ項目名が指定されている可能性があります。

- 手続き名が正しいことを確認してください。

**0034 作用対象（作用対象）は数字とする**

- この文中では、数値が必要です。文字が指定されています。
- 数値を使用してください。

**0035 整数値が必要である**

- この文中では、整数値が必要です。整数でない値が指定されています。
- 整数値を使用してください。

**0036 英数字が必要である**

- この文中では、英数字の値が必要です。数値が指定されています。
- 英数字の値を使用してください。

**0037 USAGE DISPLAYとする**

- データ項目には、USAGE DISPLAYが含まれていなければなりません。
- データ項目のUSAGE指定をDISPLAYに変更してください。

**0038 違法に重複している段落または句がある**

- 段落または句を1回だけ許されるところで2回以上指定しています。
- 段落または句の繰り返し部分を、削除してください。

**0039 COPY... REPLACING文が多すぎる**

- プログラム中のCOPY REPLACING文が、255回以上使用されています。
- プログラムを修正して、COPY REPLACING文の回数を255回より少なくしてください

**0040 ファイル名がない . またはファイル名に誤りがある**

- 指定したファイル名が、ファイル名の規則に従っていないか、またはファイル管理（FILE-CONTROL）段落で宣言されていません。ファイル名のスペルを誤った可能性があります。
- ファイル名を修正してください。または必要であれば、ファイル管理段落にファイル記述項目を追加してください。

**0041 指標名にゼロは指定できない**

**0042 ゼロは指定できない**

- 指定する数値は、ゼロ以外の数にしてください。
- ゼロ以外の値を指定してください。

**0043 定数または表意定数が必要である**

- ここでは、定数値または表意定数を指定しなければなりません。
- 指定した値を、定数または表意定数に変更してください。

**0044 定数が必要である**

- ここでは、定数値を指定しなければなりません。
- 指定した値を定数値になるように変更してください。

**0045 作用対象（データ名）の長さに誤りがある**

- この文中の作用対象（オペランド）の長さが誤っています。例えば、1文字長より長いプロンプト文字を指定しています。
- 作用対象の正しい長さについては、『言語リファレンス』を参照してください。

**0046 符号系名が必要である**

- ここでは、定義してある符号系名を指定しなければなりません。
- 特殊名段落（SPECIAL-NAMES）で定義した符号系名を指定してください。

**0047 数字定数またはZEROが必要である**

- ここでは、数字定数または表意定数ZEROを指定しなければなりません。
- 数字定数および表意定数ZEROの詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。

数字定数が、またはZEROを指定してください。

**0048 右側のかっこがない．または余分である**

- 算術式の左側の括弧と右側の括弧の数が異なります。
- 算術式の形式を確認し、左側の括弧に対応する右側の括弧があることを確認してください。

**0049 指標名または指標名付きデータ名を違法に使用している**

- 使用できない文中で、USAGE INDEXの付いた項目を使用しています。このような項目の使用方法についての詳細は、『言語リファレンス』を参照してください。
- この項目のUSAGE指定を変更するか、またはUSAGE INDEXを指定しない項目を使用してください。

**0050 POINTERデータ項目,ADDRESS OF,NULLを違法に使用している**

- USAGE POINTER句を指定したデータ項目について、違法な処理を実行しています。あるいは、作業場所節 (Working-Storage section) または連絡節 (Linkage Section) の中の、01レベルまたは独立データ記述項 (77レベル) でない項目に対して、ADDRESS OF句を使用しています。
- POINTER項目で実行できる処理についての詳細は、『言語リファレンス』を参照してください。

**0051 報告書名ではない**

- 文中で報告書名を使用しなければなりません。有効な報告書名のスペルを誤っている可能性があります。
- 誤りのある参照を訂正してください。

**0052 順ファイルだけに許される**

- 順ファイル (SEQUENTIAL) だけに許される処理 (例:CLOSE REEL/UNIT) をしようとしています。
- ファイル編成を、順編成に変更してください。

**0053 無効な指令である . または指令はここには使用できない**

- 誤った場所にCOBOLシステム指令を指定しています。または、プログラムの\$SET文で無効なCOBOLシステム指令を指定しています。

COBOLシステム指令の正しい形式については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

- 例えば、\$SET LISTはどこにでも、\$SET OSVSはCOBOLプログラムの前にだけ、\$SET PREPROCESSは最初の行にだけ指定できます。

**0054 字類名が必要である**

- 特殊名段落 (SPECIAL-NAMES) で、字類名を定義するのに失敗しています。または、字類名のスペルを誤っています。
- 特殊名段落 (SPECIAL-NAMES) で、条件名を定義するか、『言語リファレンス』で指定されているCOBOLの字類名をどれか1つ使用してください。

**0055 指標名の値が表サイズより大きい**

- 構文SET (指標名) TO (定数)で、OCCURS句に属する指標名にOCCURS句の数よりも大きい値を指定しようとしています。

**0056 COPYに誤りがある**

- すでに複写を始めているファイルを、COPY文で実行しようとしています。または、すでに複写を始めたファイルが現在複写したいファイルの名前のスペルを、誤っています。
- すでに複写を始めたファイルの処理が完了してから同じファイルに対して再び複写を試みるようにプログラムを修正してください。  
スペルの誤りを修正してください。

**0057 報告集団ではない**

- この文中では、報告集団を使用しなければなりません。報告集団名のスペルを誤っている可能性があります。
- 誤りのある参照を修正してください。

**0058 報告書名または報告集団ではない**

- GENERATE文で使用できる報告書名または報告集団の、どちらも指定してありません。報告書名または報告集団名のスペルを誤っている可能性があります。
- GENERATE文で許される構文の詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。報告書名または報告集団名に対する参照を修正してください。

**0059 この報告書名はGENERATEできない**

- 指定する報告書名は、以下のすべてを含まなければなりません。
  - CONTROL句
  - 1つのDETAIL報告集団
  - 少なくとも1つの本体集団
- GENERATE文の中で報告書名を使用するときに必要な内容の詳細については、『言語リファレンス』を参照してください。

**0060 明細集団ではない**

- TYPE DETAILでない報告集団を指定しています。
- 報告集団をTYPE DETAILに修正してください。

**0061 仮原文の指定に誤りがある**

- 仮原文に付ける2文字の区切り記号(=)が、REPLACE文またはCOPY REPLACINGに指定されていません。
- 適切な箇所に、抜けている仮原文区切り記号(=)を挿入してください。

**0062 REPLACEの内部でCOPY REPLACINGを使用できない。また逆も同様である**

- すでに原文を置き換えている場合、原文を置き換える指定はできません。
- プログラムを変更してください。

**0063 入れ子のプログラム内では使用できない**

- 入れ子のプログラム中に無効な文または句があります。
- 入れ子のプログラムの有効な構造については、『言語リファレンス』を参照してください。

**0064 ファイルがEXTERNALの場合、PADDING CHARACTER句も同様にする**

- ファイルをEXTERNALとして定義してある場合、関連するPADDING CHARACTER句で指定するデータ項目も、EXTERNALとして定義しなければなりません。
- プログラムを変更してください。

**0065 符号なしの整数が必要である**

- 符号なし整数があるべきですが、指定されていません。
- 符号なし整数を指定してください。

**0066 データ項目は固定の位置にあること**

- OCCURS ... DEPENDING ONの表の記述項の一部である項目が、この表、または集団の始めの方にある別の表に対して、添字として使用されていますが、これは許されません。
- この項目をOCCURS...DEPENDING ONの外の箇所に移動させて、この文中で使用してください。

**0067 LINKCOUNT指令にもっと大きな値を指定して再コンパイルすること**

- プログラムが必要とする連絡節 (Linkage Section) の項目数が、省略時の制限を超えています。
- LINKCOUNT指令を使用して、この制限を増やしてください。詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

**0068 SQL構文エラー**

- コンパイラは、画面に表示されているSQL構文に対してエラーを検出しました。
- 有効なSQL構文の詳細については、SQLのマニュアルを参照してください。

**0069 SQLのリモートコンパイル中にエラー (コード) が検出されたため、プリコンパイルが中断された**

- コンパイラは、SQLのリモートプリコンパイル中にエラー (コード) を検出しました。
- 有効なSQL構文の詳細については、SQLのマニュアルを参照してください。

**0070 無効な引数である**

- プログラムの\$SET文中で、無効な引数を持つCOBOLシステム指令を指定しています。または、組み込み関数に対して、誤った引数の形式を指定しています。
- この指令に対して有効な引数については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

**0071 PROCEDURE DIVISIONがない . または文が間違っている**

- PROCEDURE DIVISIONの見出しが抜けています。また、動詞なしで開始しています。

**0072 無効なFUNCTION名である**

- 語FUNCTIONの後に指定した名前は、関数名として認められていません。語FUNCTIONはデータ名として使用できます。この語は予約語です。
- 組み込み関数が必要であれば、使用した名前が正しいことを確認してください。FUNCTIONをデータ名として使用したい場合は、予約語のリストから語FUNCTIONを除くために、REMOVE"FUNCTION"指令を指定して、プログラムを再度コンパイルしてください。

**0073 左側のかっこがない**

- パラメータが必要な組み込み関数が指定してありますが、パラメータリストに左側の括弧がありません。
- 組み込み関数の形式を確認し、右側の括弧と組になった左側の括弧があることを確認してください。

**0074 数字の引数が必要である**

- 数字の引数を指定すべき組み込み関数に対して、文字の引数を指定しています。
- 引数を数字にしてください。

**0075 英数字の引数が必要である**

- 英数字の引数を指定すべき組み込み関数に対して、数字の引数を指定しています。
- 引数を英数字にしてください。

**0076 引数の組み合わせが違法である**

- 組み込み関数について指定した引数の組み合わせが、この関数に必要な形式と一致していません。
- 引数の形式の規則と一致するように、プログラムを修正してください。

**0077 EXEC文の内部でプログラムが終了している**

- 原始プログラムの終わりにEXEC文がきました。END-EXECが抜けている可能性があります。
- 各EXECに対応する、END-EXECがあることを確認してください。

**0078 数字関数は使用できない**

- 数値が許されない場所に、数値を返り値とする組み込み関数を指定しています。

- 組み込み関数を文字にしてください。

**0079 引数の長さは1とする**

- 指定した引数の長さが、1ではありません。
- 引数を変更して、長さ1を指定してください。

**0080 ACCEPT文に対するプロンプト文字が矛盾している**

**0081 LOCALCOUNT指令にもっと大きな値を指定して再コンパイルすること**

**0082 部または節の見出しの順序に誤りがある**

- COBOLの部または節の見出しが、原始コード中で誤った順序になっています。例えば、SCREEN SECTION (画面節) が読まれた後に、LINKAGE SECTION (連絡節) が見つかりました。

**0083 予約語がない-(語)が必要である**

- あるべき予約語が見つかりません。

**0084 SQL文は手続き部だけに使用できる**

**0085 SQL文はデータ部だけに使用できる**

**0086 定数名(語)は予約語と同じである**

**0087 SIZEの値は、正の整数にすること**

- 構文CALL BY VALUE (サイズ) に無効なサイズを指定しています。
- 有効な正の整数を指定してください。

**0088 SQLホスト変数名に下線(無効なCOBOL文字)が含まれている**

- SQL文のホスト変数名に下線文字が含まれているため、処理できません。
- 下線文字を削除してください。通常このメッセージは、ハイフン(-)を指定すべきところに下線が使用された、ということを示します。

**0089 SQR文が二つ以上のSQLDAを持っています。**

- COBOLシステムが、一つのSQL文にSQL記述領域として使用される二つ以上のCOBOLデータを見つけました。これは不正です。

- 正しいデータ項目が使用されていることを確認してください。このメッセージは、コンパイル指令SQL(NODB2)が設定され、SQL DECLARE SECTION中にホスト変数が宣言されていない時に出されます。

**0090 エラーが多すぎる**

- 出力されたメッセージの数がMAXERROR指令で指定された限界に達しました。

**0091 構文がFILETYPE(11)と矛盾している**

**0092 定数が原文名として使われている**

**0093 利用者語が一意ではない . 01レベルのレコードで修飾されているとみなす**

- 指定された利用者語は一意ではなく、01レベルの項目によって修飾されています。

**0094 名前がCOBOL語ではない**

- 指定された語句はCOBOLの予約語ではありません。
- 予約語のリストについては『言語リファレンス』を参照してください。それに従って語句を変更してください。

**0095 COPY名に定数を使用している**

**0096 小文字を使用している (このメッセージは以後表示されない)**

- 大文字を使わなければいけない箇所で小文字を使っています。
- プログラムを変更してください。

**0097 シングルとダブルの引用符を使用している (このメッセージは以後表示されない)**

**0098 シングルの引用符を使用している (このメッセージは以後表示されない)**

**0099 COPYファイルが入れ子になっている**

**0100 一連番号の順番に誤りがある**

- 原始コード中の一連番号に誤りが1つ以上あります。
- 一連番号が、数字で、かつ正しい順序になっているかどうか確認してください。

**0101 割り当て名はデータ名である**

- 0102 RELATIVE KEY句はACCESS句の直後に続けること
- 0103 RECORDがない
- 語RECORDがありません。
  - 語RECORDを加えてください。
- 0104 IDENTIFICATIONがない
- 0105 PROGRAM-IDがない
- 語PROGRAM-IDがPROGRAM-ID節にありません。
  - 語PROGRAM-IDをPROGRAM-ID節に付け加えてください。
- 0106 PROGRAM-IDが違法な形式である
- PROGRAM-ID節に無効なプログラム名が指定されています。
  - プログラム名の正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。
- 0107 第2ステータス・エリア
- FILE STATUS句に複数の一意名は使用できない。
- 0108 OPTIONAL句は順編成ファイル以外には使用できない
- 0109 段落か句に順序の誤りまたは重複がある
- 段落を、誤った順序で、または重複して指定しています。あるいは、SPECIAL-NAME句を標準ではない順序で指定しています。
  - 段落、句、およびSPECIAL-NAMES句の正しい順序については『言語リファレンス』を参照してください。繰り返して指定した場合は、繰り返した部分を削除してください。
- 0110 ENVIRONMENTがない
- 語ENVIRONMENTがありません。
  - 語ENVIRONMENTを付け加えてください。
- 0111 CONFIGURATIONがない
- 語CONFIGURATIONがありません。
  - 語CONFIGURATIONを付け加えてください。

**0112 SOURCE-COMPUTERがない**

- 語SOURCE-COMPUTERがありません。
- 語SOURCE-COMPUTERを付け加えてください。

**0113 SPECIAL-NAMES段落に誤りがある**

- 段落SPECIAL-NAMESが正しく指定されていません。
- 段落SPECIAL-NAMESの正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。

**0114 OBJECT-COMPUTERがない**

- 語OBJECT-COMPUTERがありません。
- 語OBJECT-COMPUTERを付け加えてください。

**0115 OBJECT-COMPUTER段落が認識できない**

- 段落OBJECT-COMPUTERが正しく指定されていません。
- 段落OBJECT-COMPUTERの正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。

**0116 ALPHABET句に同じ文字が2回指定されている**

- ALPHABET句中に、2度指定された文字があります。例えば、ある文字が範囲指定された中に含まれ、定数としても指定されています。
- 原始コードを修正して、ALPHABET句中に指定される文字が1度だけ参照されるようにしてください。

**0117 SWITCH句に誤りがある。またはシステム名か呼び名に誤りがある**

- 環境部 ( Environment Division ) の特殊名 ( SPECIAL-NAMES ) 段落のSWITCH句に誤りがあります。
- この句の正しい構文の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。また、それによってプログラムを修正してください。この句で名付けた各条件が、データ部 ( Data Division ) で宣言されていることを確認してください。

**0118 COMMAが必要である**

- DECIMAL-POINT句に、語COMMAがありません。
- 語COMMAを付け加えてください。

**0119 CRTが必要である**

- 予約語CRTが必要な箇所にCOBOL語、または利用者語が使用されています。
- 原始コードを修正して予約語CRTを使用してください。

**0120 違法な通貨編集用文字である**

- 特殊名 ( SPECIAL-NAMES ) 段落のCURRENCY SIGN IS句に指定されている定数は、COBOL構文の規則で許されていないか、または、引用符で囲まれていません。定数は1文字の文字定数でなければなりません。定数は、次に示すもの以外の文字とします。

A B C D L P S V X Z \* + - , . ; ( ) " / = または空白 ( ANS85およびVSC2ではLは有効)。

- 定数を許された文字に変更し、引用符で囲まれていることを確認してください。

**0121 定数のファイル名にDYNAMICやEXTERNALは指定できない**

- ファイル名が定数ではなく、データ項目に含まれる場合のみ、ファイル記述項のASSIGN句にDYNAMIC、またはEXTERNALを指定できます。
- ファイル名がデータ項目に含まれるようにプログラムを再設計してください。

**0122 符号系や字類の定義内に2バイト文字は使用できない**

- 符号系または字類を定義する場合、2バイト文字を使用することはできません。
- 符号系または字類定義が2バイト文字を含まないように、プログラムを再設計してください。

**0123 I-O-CONTROLがない**

- 頭書きI-O-CONTROLがありません。
- 頭書きI-O-CONTROLを付け加えてください。

**0124 INPUT-OUTPUTがない**

- 頭書きINPUT-OUTPUTがありません。
- 頭書きINPUT-OUTPUTを付け加えてください。

**0125 FILE-CONTROLがない**

- 頭書きFILE-CONTROLがありません。
- 頭書きFILE-CONTROLを付け加えてください。

**0126 ASSIGN句がない**

- SELECT句を使用してプログラムが認識するファイル名をファイルに与えていますが、そのファイルに作成者語（システムが認識する名前）を与えるために関連付けをするASSIGN句を使用していません。
- SELECT句の後に適切なASSIGN句を挿入してください。

**0127 [LINE]SEQUENTIAL,RELATIVE,INDEXEDがない**

- FILE-CONTROL段落のORGANIZATION IS句で、ファイルの論理的構成が指定されていません。
- レコードの格納やアクセスの方法によって、この句の中に LINE SEQUENTIAL、INDEXED、またはRELATIVEを挿入してください。

**0128 索引/相対ファイルにACCESS MODE句がない**

- この句の形式はデータファイルの編成によって決まります。ORGANIZATION句でINDEXED、またはRELATIVEを指定した場合、ACCESS MODE句によって、呼出し法を示さなければなりません。呼出し法を指定していない場合、順呼出しとみなされます。
- この句の使用についての詳細は『言語リファレンス』を参照してください。

**0129 キーまたはキーの構成要素が多すぎる**

- 索引ファイルのレコードキーと副レコードキーを作るデータ項目の数が多すぎます。
- プログラムを単純化して、レコードキー、またはレコードキーを作るデータ項目が少なくなるようにしてください。

**0130 ORGANIZATION/ACCESS/KEY句の組合わせが違法である**

- プログラムの中でこれらの句を指定した場合、その組合せに矛盾がないようにしなければなりません。このプログラムでは矛盾が生じています。
- 許される組合せの詳細については『言語リファレンス』を参照してください。これらの句が両立していることを確認してください。

**0131 SELECT句に認識できない語がある**

- COBOLシステムはSELECT句を受け入れることができませんでした。このメッセージは、SELECT句で指定したファイル名が、COBOLのファイル名の規則に従っていない場合に表示されます。

- SELECT句の正しいコーディング方法については『言語リファレンス』を参照してください。

**0132 SET文で(条件名) TO TRUE/FALSE指定が重複している**

- 1つのSET文で(条件名) TO TRUE/FALSE指定が重複しています。これは、選択したフラグ仕様を満たしていません。
- SET文を2つに分けてください。

**0133 SAME AREA句の構文エラー**

- この選択句は、複数のファイルの中央記憶領域の共用を指定するものですが、構文上の誤りがあります。
- この句の正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。

**0134 FILE SECTIONがない**

- 頭書きFILE SECTIONがありません。
- 頭書きFILE SECTIONを追加してください。

**0135 DATA DIVISIONがない**

- 頭書きDATA DIVISIONがありません。
- 頭書きDATA DIVISIONを追加してください。

**0136 NATIONAL LANGUAGEを違法に使用している**

- プログラムに以下のCOBOL句が1つ以上含まれています。

PROGRAM COLLATING SEQUENCE IS

ALPHABET IS

CURRENCY SIGN IS

DECIMAL-POINT IS COMMA

さらに、NLS（多国語支援）指令の設定を認めていないプログラムに、その指令を設定してコンパイルしました。

- NLS指令を解除するか、または原始コードを修正して上記の句を削除してください。

**0137 プログラムの文字の大小順序が定義されていない**

- プログラムの実行用計算機 ( OBJECT-COMPUTER ) 段落に、PROGRAM COLLATING SEQUENCE 句が含まれていますが、特殊名 ( SPECIAL-NAMES ) 段落に、対応する ALPHABET-NAME 句がありません。PROGRAM COLLATING SEQUENCE 句を含める場合は、ALPHABET-NAME 句も含めなければなりません。
- 必要な ALPHABET-NAME 句を挿入し、そこに SEQUENCE 記述項で使用されたのと同じ利用者定義名が使われていることを確認してください。これらの句を共に指定しているのに、このメッセージが表示された場合、両方の句に同じ利用者定義名を使用したこと、両方とも同じスペルであることを確認してください。スペルの誤りはすべて修正してください。

**0138 EXCLUSIVE,AUTOMATIC,MANUALがない**

- 環境部 ( Environment Division ) のファイル管理 ( FILE-CONTROL ) 段落中の LOCK MODE 句に、EXCLUSIVE、AUTOMATIC、または MANUAL のいずれかの語が含まれていないか、または含まれていてもスペルの誤りなどのため、COBOL システムがその語を認識できませんでした。LOCK MODE 句は、マルチユーザー環境の下で複数のユーザーが共有するファイルへのアクセスを制御します。形式は使用するファイルの種類によって決まります。
- LOCK MODE 句の使用に関する詳細は『言語リファレンス』を参照してください。

**0139 LOCK MODE/ファイルの種類のコラボレーションが違法である**

- LOCK MODE 句の形式はファイルの種類によって決まります。指定されたファイルの種類と矛盾する LOCK MODE 句が指定されています。非共有ファイルには EXCLUSIVE のロック・モードを指定し、共有ファイルには AUTOMATIC または MANUAL のロック・モードを指定しなければなりません。
- この句の使用についての詳細は『言語リファレンス』を参照してください。

**0140 索引ファイルの場合、PASSWORDはKEYに続けること**

- 索引順ファイル記述項については、KEY 指定に続けて PASSWORD 指定をしなければなりません。
- プログラムを修正して、PASSWORD 指定が KEY 指定に続くようにしてください。

**0141 同じファイル名が同形式の複数のSAME句に指定されている**

- ファイル名は SAME AREA 句または SAME RECORD 句に1回だけ指定することができます。
- プログラムを修正してください。

**0142 入れ子のプログラムの中でのみ使用可能である**

- 指定した句は入れ子構造のプログラム中でだけ使用することができます。例えば、COMMON句がANSIで定義されています。
- プログラムを修正してください。

**0143 見出し部の段落見出しに認識できないものがある**

- 指定された段落見出しは、見出し部 (IDENTIFICATION DIVISION) に指定するものとしては適切ではありません。少なくとも、選択したCOBOL仕様には定義されていません。
- プログラムを修正するか、または別のCOBOL仕様を選択してください。

**0144 OCCURS指定に従属するOCCURS DEPENDING指定にはODOSLIDE指令が必要である**

- OCCURS句を指定したレコード集団中に、OCCURS DEPENDING ON句を指定したレコードが含まれています。
- ODOSLIDE指令を設定してください。

**0145 構文SET (条件名) TOが使用された**

- 構文SET (条件名) TOは、選択したフラグ仕様には定義されていません。

**0146 条件名にFALSEが指定されている**

- 条件名にFALSEを指定しようとした。これは選択したフラグ仕様には定義されていません。

**0147 データ項目は符号なし整数とする**

- 構文RECORD VARYING IN SIZE DEPENDING ON (符号付きデータ項目) が使用されています。これは選択されたフラグ仕様を満たしていません。
- 符号なしデータ項目を使用してください。

**0148 状態条件がない**

- SPECIAL-NAMES段落の (関数名) IS (呼び名) 句の後に状態条件が指定されていません。これは、選択されたフラグ仕様を満たしていません。
- 少なくとも1つの状態条件を指定してください。

**0149 SQL指令が指定されていない**

- EXEC SQL文にSQL指令が指定されていません。SQL指令が指定されているかどうかによって文の処理が変わるため、SQLまたはNOSQLのどちらかを明示的に指定する必要があります。

**0150 BEGIN DECLARE SECTIONとEND DECLARE SECTIONが対応していない**

- SQL BEGIN DECLARE SECTIONがすでにDECLARE SECTIONにあるのに指定されたか、END DECLARE SECTIONがDECLARE SECTIONにないのに指定されました。

**0151 最大要素数を超えた**

- SQLヌル指示変数の表に256以上の記述項があります。

**0152 ヌル指示変数の表ではない**

- SQLヌル指示変数の表が必要でしたが、記述項の表のデータ型がヌル指示変数に合っていないか、指定されたデータ項目が表ではありません。

**0153 データ項目がホスト変数ではない。それを宣言するか、SQLDB2指令を使用する**

**0154 COPY文内でCOPY REPLACINGが入れ子になっている**

- COPY文内でCOPY REPLACING文が入れ子になっています。

**0155 PICTURE句では、数字項目はPのつかない整数とする**

- STRING文の一意名が基本数字項目の場合、PICTURE句では一意名をPのつかない整数で記述する必要があります。

**0156 行中の誤った領域にピリオドがある**

**0157 適切なSQLエンジンがない**

- COBOLシステムがSQLエンジンをインストールしようとしたが、失敗しました。
- 適切なエンジンをインストールし、SQL指令は使わないでください。

**0158 コンパイラはインストールされたSQLエンジンの機能のすべてはサポートしていない**

- インストールされたSQLエンジンにはCOBOL製品からはアクセスできない機能があります。将来のリリースでのサポートを計画しています。
- 前版のCOBOL製品以降にSQLエンジンに追加された機能は使わないで下さい。以前からある機能は引き続きサポートされています。

- 0159 複数のSQLオプションがインストールされたSQLエンジンと矛盾している
- インストールされたSQLエンジンは複数のオプションをSQLコンパイラ指令に指定することをサポートしていません。
  - 複数のオプションを指定しないでください。また、SQLエンジンを更新するかメッセージを無視してください。
- 0160 不正な複合SQL文の形式
- 0161 段落内でのみ使用可能である
- 0162 節内でのみ使用可能である
- 0163 DISPLAY ... UPON SYSERRには作用対象（オペランド）を1つだけ指定できる
- 0164 USE文の数が20を超えている
- プログラム中のUSE文の数が20を超えています。システムでは、1つのプログラムで処理できるUSE文を20に制限しています。
- 0165 NEXT SENTENCEの後に実行不可能な無条件文または条件文が続いている
- 0166 送り出し側と受け取り側の長さが一致しない (integer1 <> integer2)
- 0167 WRITE ... ADVANCING構文および<>WRITE ... POSITIONING構文を同一ファイル上で使用している
- 0168 RECORD VARYING句のDEPENDING ON項目がWORKING STORAGE/LINKAGEにない
- 0170 文の引数が無効である
- 0172 修飾名（名前）が一意でない、削除される
- 0173 ここでは空白は無効である
- 0174 上記のファイルのRECORDING MODEはSとみなす
- 0175 スライディング項目にVALUE句が指定された
- 0176 RENAMESオブジェクト（オブジェクト）はレベル番号01の項目である
- 0177 RENAMESオブジェクト（オブジェクト）が直前のレコードにない
- 0178 DEPENDINGがない、固定長とみなす
- 0189 指令ファイル(ファイル名)が見つからない

- 0190 指標名にゼロは指定できない . 1とみなす
- 0191 追加した句がOCCURS DEPENDING ON指定を二分した
- 0192 CALLパラメータがレベル番号01以外の集団項目である
- 選択されたフラグ仕様では、CALLパラメータをレベル番号01以外の集団項目にすることはできません。
  - パラメータが基本項目またはレベル番号01の集団項目になるようにプログラムを修正してください。
- 0193 Z定数を使用している
- 選択されたフラグ仕様では、Z定数はサポートされていません。
  - プログラムを修正してください。
- 0194 CALL Procedure Pointerを使用している
- 選択されたフラグ仕様では、これはサポートされていません。
  - プログラムを修正してください。
- 0195 ASCENDING/DESCENDING KEY句はINDEXED BY句の前に記述すること
- 選択されたフラグ仕様では、OCCURS指定でこれらの句の順序を逆にすることはサポートされていません。
  - プログラムを修正してください。
- 0196 OCCURS DEPENDING ON句を含む項目を再定義している
- 選択されたフラグ仕様では、これはサポートされていません。
  - プログラムを修正してください。
- 0197 修飾が無効なREDEFINES項目を参照している . 修飾は無視される
- 0199 LINE句が集団項目内にも記述されている
- 基本項目に従属する集団中にすでにLINE句がある場合、LINE句を基本項目に記述することはできません。

**0200 段落内に何も記述されていない**

- 段落内に何も記述されていません。

**0201 整列用ファイルにACCESS句またはORGANIZATION句は指定できない**

- SDファイルのファイル管理記述項に、ACCESS、またはORGANIZATION句を指定することはできません。SDファイルの呼出し法と編成は固定です。
- 誤りのある句を削除してください。

**0202 OCCURS句の指定が多すぎる**

- 表項目の定義中で、OCCURS句を許容回数を超えて指定しています。
- 指定できるOCCURS句のレベル数の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。余分なOCCURS句は削除してください。

**0203 CODE句は全報告書に指定するか、全くしないかのどちらかとする**

- 報告書定義中に、CODE句を指定しています。複数の報告書を定義する場合は、すべての報告書に対してCODE句を指定するか、または、まったく指定しないかのどちらかにしなければなりません。
- 定義したほかの報告書にもCODE句を加えるか、またはすべての報告書定義にCODE句が含まれていないことを確認してください。

**0204 間違った項目に指定されているREDEFINES句がある**

- REDEFINES句を指定した項目のレベル番号と、再定義する項目のレベル番号は同じでなければなりません。
- 誤りのあるレベル番号を変更してください。

**0205 RECORDがない、またはサイズがゼロである**

- 環境部 ( Environment Division ) でSELECT文を使用してファイルを宣言していますが、データ部のFD記述項でファイルを定義していないか、または、スペルの誤りなどのため、FD記述項で異なるファイル名を使用しています。両方のファイル名が一致していない場合、必要な領域が作成されていても、このファイルに関するレコードは存在しません。
- FD記述項を追加または修正してください。

**0206 01か77のレベル番号が必要である**

- このデータ項目のレベル番号は01、または77でなければなりません。

- 項目のレベル番号を01か、77に変更してください。

#### 0207 FD,CD,SDの構文エラー

- これらの記述項は、指定されたファイルの構造を説明するものです。FD、CD、またはSD形式をとり、ファイル名とレコード記述が後に続きます。ファイル名は、FILE-CONTROL段落で定義したものでなければなりません。
- この構文の形式を修正してください。構文の形式の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

#### 0208 WORKING-STORAGEがない

- 語WORKING-STORAGEが、データ部に関係する節の見出しにないか、または、存在していてもCOBOLシステムが認識していません。スペルまたは位置の誤りが原因と考えられます。
- エラーを修正してください。データ部の構造の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

#### 0209 PROCEDURE DIVISIONがない．または文を認識できない

- 手続き部の見出しがプログラムにないか、または、存在していてもCOBOLシステムが認識していません。スペルまたは位置の誤りが原因と考えられます。

あるいは、手続き部にCOBOLシステムが認識できなかった文が含まれている可能性があります。これは、予約語を使用する際のスペルの誤りが原因ではないかと考えられます。

- 手続き部の見出しをデータ部の最終記述項の直後に挿入してください。スペルの誤りを修正してください。

#### 0210 データ記述修飾語に誤りがある．または終止符がない

- 修飾語（例:JUST、COMP）が、データ項目の記述の際に誤ったスペルになっています。

あるいは、PICTURE句の終わりに必要な終止符がありません。

- 使用可能な修飾語については『言語リファレンス』を参照してください。修飾語のスペルを確認してください。

終止符を加えてください。

**0211 PICTURE句と修飾語の組み合わせが矛盾している**

- 誤った種類の修飾語をともなうPICTURE句があります。例えば、データ項目をPIC XX USAGE COMPのように定義するのは誤りです。英数字項目を定義するPICTURE句に数字項目の修飾語を指定しているからです
- PICTURE句とその修飾語を同じ種類にしてください。

**0212 BLANK句に違法なデータ項目を使用している**

- BLANK WHEN ZERO句は数字 ( PICTURE句に9を含むもの )、または数字編集のデータ項目 ( 見やすい形式で表示するために、特殊文字を加えて編集したもの ) に関するデータ記述項に使用することができます。この句が、数字または数字編集以外のデータ項目に使用されているか、または 'P'、'S'、'V' を含む数字データ項目に使用されています。
- この句を削除するか、またはデータ項目を数字項目か数字編集項目に再定義してください。あるいは、'P'、'S'、'V' を取り除いてください。

**0213 項目がUSAGE句で許される長さを越えているか数字データが18桁を越えている**

- データ部のPICTURE句で定義されているPICTURE文字列が、COBOLシステムが認める最大値を越えています。最大値は、数字データ項目は18文字、数字編集データ項目は512文字、英数データ項目は256Mバイトです。
- 範囲内におさまるようにPICTURE句を修正してください。

**0214 データ項目に対するVALUE句が長すぎる、または小数部の桁数が多すぎる**

- VALUE句で指定した値が大きすぎるか、または小数部の桁数が多すぎるので、データ項目に適合しません。例えば、PIC 99 VALUE 123とした場合、123は大きすぎるので受取り側項目に移される際に切り捨てられてしまいます。
- データ項目の桁数を大きくして、値を受け取れるようにしてください。

**0215 VALUE句にエラーがあるかPICTURE句の形式に対して違法がある**

- VALUE句のコーディングに誤りがあります。例えば、数字データ項目にVALUE句で数字以外の値を指定しています。あるいは、VALUE句を違法な箇所、例えば、再定義したデータ項目に使用しています。
- VALUE句の使用に関する規則については『言語リファレンス』を参照してください。

**0216 集団データ項目にJUSTIFIED句またはBLANK句を使用している**

- これらの句はデータ部のデータ記述項で使用できますが、必ず基本データ項目に使用しなければなりません。基本データ項目は、これ以上高レベルのデータ項目によって分割されない、レコードの最も基本的な分割部分です。これらの句の中のいずれかが、集団データ項目（さらに高レベルのデータ項目を含む項目）に使用されています。
- これらの句は、基本データ項目にだけ使用するようになさってください。

**0217 このレベルの前述項目の長さがゼロである**

- データ項目を定義した際に、大きさが指定されていません。原因は、PICTURE句を使用していない、またはデータ項目が集団項目の場合、それに含まれる基本データ項目を定義していない、のどちらかです。

たとえば、

```
01 my-data-item.
```

```
01 prog-data-item pic x.
```

とした場合、prog-data-itemの後にこのメッセージが表示されます。その理由は、誤っているのがmy-data-itemでも、エラーは、誤りのあるデータ項目と同レベルにある次のデータ項目が現れた場合にだけ検出されるからです。

- 必要なPICTURE句を追加するか、またはレベル階層に基本項目を追加してください。

**0218 演算子が違法である**

- 算術式に無効な演算子が指定されています。
- 算術演算子と算述式の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

**0219 レベル番号が違法である**

- データ記述項に違法なレベル番号が指定されています。
- レベル番号の指定方法の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。レベル番号を修正してください。

**0220 定数値とデータ項目の形式が一致しない**

- データ項目のPICTURE句と矛盾する定数値が指定されています。
- 定数値がデータ項目に適合するようになさってください。

**0221 データ記述修飾語が不適当である . または重複している**

- PICTURE句と矛盾するデータ記述修飾語が使用されています。例えば、PIC XXのデータ項目に対してBLANK WHEN ZERO句を使用した可能性があります。データ項目は英数字タイプであるのに、修飾語は数字項目だけを参照するので、これは無効です。

あるいは、1つのデータ項目の定義に、PICTURE句を2回以上使用しています。

- 修飾語がデータの形式を訂正して、矛盾が生じていないことを確認してください。

各データ項目に対してPICTURE句は1つだけになるように、余分なPICTURE句を削除してください。

**0222 REDEFINES句のデータ名が宣言されていない**

- REDEFINES句に使用するデータ名が宣言されていません。
- データ記述項でデータ名が宣言されており、また適切なREDEFINES句が、記述されたデータ名の直後に置かれていることを確認してください。

**0223 USAGE句に誤りがある**

- データ記述項に無効なUSAGE修飾語が指定されています。
- USAGE修飾語の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。USAGE修飾語を訂正してください。

**0224 SIGN句にはLEADINGまたはTRAILINGが必要である**

- この選択句は、PICTURE句に文字Sを含む数字記述項に対してだけ指定できます。SIGNの後には、演算符号の位置によってLEADING、またはTRAILINGを指定しなければいけません。
- これらの語のどちらかを加えてください。

**0225 レベル階層に誤りがある**

- 集団データ項目のレベル番号の構造に誤りがあります。
- レベル番号の階層を確認し、訂正してください。

**0226 OCCURS句内の集団項目を可変長で定義している**

- OCCURS句内で可変長集団データ項目を宣言することはできません。
- 集団項目を固定長にしてください。

**0227 ZEROがない**

- BLANK句の後には、語ZERO、ZEROS、またはZEROESを指定しなければなりません。
- ZEROを指定する位置にある他の語を削除し、スペルに誤りがないことを確認してください。

**0228 集団項目に指定されたVALUE値は切り捨てられる**

- 集団項目について指定した値が、定義された長さを超えています。
- 集団項目の長さ、または値を定義し直してください。

**0229 修飾語に矛盾がある**

- データ項目の記述で指定した修飾語が矛盾しています。
- データ記述の修飾語に関する規則については『言語リファレンス』を参照してください。

**0230 PICTURE文字列の順序に誤りがある、または違法な文字を使用している**

- PICTURE句に、COBOLシステムが認識できない文字、または特殊な型のPICTURE文字列についての違法な文字が使用されています。
- 使用可能な文字のリストは『言語リファレンス』を参照してください。関連するPICTURE句を修正してください。

**0231 INDEXED句のデータ名がない、またはすでに宣言されている**

**0232 編集されたPICTURE文字列が大きすぎる**

- 編集、または数字編集データ項目を定義したPICTURE文字列が、COBOLシステムで許容される最大値を超えています。数字編集データ項目は、数字の先頭の0を取り除いたり、通貨符号を挿入したりして、よりわかりやすい形式で数字データ項目を表すものです。

一つの列は32個の 'スロット ( 枠 )' で構成され、各スロット ( 枠 ) には16文字が入ります。列の連続する2つの文字が異なる場合、新しいスロット ( 枠 ) が各文字に割り当てられます。たとえば、

X ( 32 ) B ( 480 )

は、可能ですが、



**0240 01レベルだけに指定できる**

- 報告書記述項でNEXT句またはTYPE句を使用したか、報告書ファイル記述項でGLOBAL句またはEXTERNAL句を使用していますが、項目が01レベルではありません。
- NEXT、TYPE、GLOBAL、およびEXTERNALの各句を指定したすべての箇所の項目が、01レベルになるように修正してください。

**0241 WORKING-STORAGE節だけに使用できる**

- この構文は作業場所節 ( Working-Storage Section ) だけで使用できます。
- この構文を作業場所節だけで使用するように修正してください。

**0242 WORKING-STORAGE節またはFILE節だけに使用できる**

- この構文は作業場所節 ( Working-Storage Section )、またはファイル節 ( File Section ) だけで使用できます。
- この構文を作業場所節、またはファイル節だけで使用するように修正してください。

**0243 集団項目のVALUE句の値は文字または表意定数にすること**

- 集団項目にVALUE句を指定する場合は、VALUE句の値は非数字定数、または表意定数でなければなりません。
- VALUE句の値を修正してください。

**0244 ファイル ( ファイル名 ) に対するFD記述項がない**

- ファイル管理 ( FILE-CONTROL ) 段落中で指定したすべてのファイルに対して、FD記述項を指定しなければいけません。
- ファイル管理段落のSELECT句で指定した各ファイルに対して、FD記述項を指定していることを確認してください。

**0245 DEPENDING ON句で指定した項目 ( データ名 ) がない . または違法である**

- OCCURS句でDEPENDING指定したデータ項目が宣言されていません。
- データ項目の宣言を加えてください。

**0246 KEY ( キー名 ) がない . または違法である**

- 索引順ファイルのファイル記述項にRECORD KEY句が指定されていません。
- ファイル記述項にRECORD KEY句を加えてください。

**0247 指標名を明示的に宣言している**

- 指標データ項目が明示的に宣言されています。この項目はINDEX句で暗黙指定されているので、実際には同じ項目が2度宣言されています。
- 指標データ項目の明示的宣言を削除してください。

**0248 ISAMキー（キー名）が長すぎる**

- 索引順ファイルのキーとして使用されるデータ項目が、許容される最大長より大きくなっています。
- 索引順ファイルのキーの長さについては、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。キーを定義し直してください。

**0249 複数の副キーが同じエリアを参照している**

- 索引順ファイルの2つの副キーが重複しています。副キーは、完全に別個のものでなければいけません。
- 重複しないように副キーを定義し直すか、または重複可能な分割キーとして定義してください。

**0250 STATUS項目（データ名）がない。または違法である**

- ファイル管理記述項のFILE STATUS句で指定したデータ項目が宣言されていないか、または誤って宣言されています。
- FILE STATUSデータ項目の正しい形式の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。FILE STATUSデータ項目の定義を加えるか、または修正してください。

**0251 CURSOR項目（データ名）がない。または違法である**

- 特殊名（SPECIAL-NAMES）段落のCURSOR IS句で指定したデータ項目が宣言されていないか、または誤って宣言されています。
- カーソルデータ項目の正しい形式の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。CURSOR IS句のデータ項目の宣言を加えるか、または修正してください。

**0252 PASSWORD項目（データ名）がない。または違法である**

- ファイル記述項のPASSWORD句で指定したデータ項目が宣言されていないか、または誤って宣言されています。

- PASSWORDデータ項目の正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。PASSWORD句のデータ項目の宣言を加えるか、または修正してください。

**0253 LABEL RECORDまたはDATA RECORD（レコード名）がない．または違法である**

- ファイル記述項のLABEL RECORD句、またはDATA RECORDで指定したレコード項目が宣言されていないか、または誤って宣言されています。
- ラベルレコード項目、またはデータレコード項目の正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。LABEL RECORD句、またはDATA RECORD句のレコード項目の宣言を加えるか、または修正してください。

**0254 VALUE OF項目（データ名）がない．または違法である**

- ファイル節FD記述項のVALUE OF句で指定したデータ項目が宣言されていないか、または誤って宣言されています。
- このようなデータ項目の正しい形式については『言語リファレンス』を参照してください。VALUE OF句のデータ項目の宣言を加えるか、または修正してください。

**0255 利用者語（データ名）が特殊レジスタと同じである**

- 特殊レジスタと同じ名前のデータ項目を宣言しています。特殊レジスタはCOBOLシステムが自動的に宣言するデータ項目です。
- 特殊レジスタの名前については『言語リファレンス』を参照してください。誤っているデータ項目名を修正してください。

**0256 先行レコードの長さがゼロである**

- 長さゼロのファイルレコードを定義しています。レコードの定義で、すべての基本項目の記述が誤っている可能性があります。
- レコードの記述を修正してください。

**0257 KEYデータ名がない．またはすでに宣言されている**

- OCCURS句でKEY指定したデータ項目が宣言されていないか、または2度宣言されています。
- データ項目を宣言するか、または余分な宣言を削除してください。

**0258 ASSIGNデータ名(データ名)が違法である**

- SELECT ... ASSIGN句で複数のASSIGNデータ名が指定されています。すなわちデータ定義の中にOCCURS句があります。
- ASSIGNデータ項目がOCCURS句を含まないように修正してください。

**0259 報告書名が違法である．またはRD句に誤りがある**

- 定義した報告書名は一意でないか、または利用者語の規則に従っていません。あるいは、RD記述項に誤った句を指定しています。
- RD記述項の正しい構文については『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0260 ページ記述が矛盾している**

- PAGE LIMIT句で指定した値が矛盾しています。例えば、LAST DETAIL指定の整数が、FIRST DETAIL指定の整数より小さくなっています。
- PAGE LIMIT句の規則については『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0261 REPORT SECTIONだけに記述できる構文である**

- データ部の報告書節 ( Report Section ) 以外で、報告書の構文を指定しています。
- 報告書節で記述できる構文については『言語リファレンス』を参照してください。誤っている構文を削除するか、または報告書節の中へ構文を移動してください。

**0262 CONTROL句でデータ名を指定していない**

- TYPE CH、またはTYPE CF句のデータ名は、関係するRD記述項のCONTROL句で指定しなければなりません。データ名のスペルが誤っているおそれがあります。
- TYPE CF/CH句およびCONTROL句の両方に正しいデータ名が指定されていることを確認してください。

**0263 RD記述項にPAGE句の指定が必要である**

- RD記述項でPAGE句を指定しないで、TYPE PH、またはTYPE PF句を指定しています。または、RD記述項でPAGE句を指定しないで、LINE NUMBERに絶対行番号を指定しています。
- RD記述項にPAGE句を加えてください。

**0264 このTYPE句は1つのRD記述項に1回だけ指定できる**

- TYPE句の指定が重複しています（例えば、TYPE PF句を2度指定しています）。RD記述項で指定できるのは、1つのTYPE句だけです。
- 重複したTYPE句を削除してください。

**0265 このTYPE句は指定できない**

- 修飾語を使用してはならない、またはこのような特定の修飾語を使用してはならない文の中で修飾語を使用しています。
- この文で使用できる修飾語については『言語リファレンス』を参照してください。プログラムを修正してください。

**0266 TYPE句を指定していない**

- 報告書節のすべての01レベル記述項には、TYPE句を指定しなければなりません。
- TYPE句を加えてください。

**0267 LINE句の指定がない、または矛盾している**

- このメッセージが表示される原因は3つ考えられます。
  - NEXT PAGE句を指定できるのは、報告集団記述項の最初のLINE句だけです。
  - 報告集団記述項のLINE句にある絶対行番号が昇順になっていません。
  - 特定の報告集団記述項にLINE句が指定されていません。
- 原因によって、次のように対処してください。
  - 最初のLINE句以外のすべてのLINE句からNEXT PAGE句を削除してください。
  - 絶対行番号が昇順になるように、LINE句を再配列してください。
  - LINE句を加えてください。

**0268 報告書名を複数のFD項に記述している**

- 複数のFD項に同じ報告書名を指定しています。
- 重複している報告書名を削除してください。

**0269 CONTROLフィールドが重複している**

- 複数のRD記述項に同じCONTROL項目値を指定しています。
- 重複したCONTROL項目値を削除してください。

**0270 カラム指定が重複している．または左から右へ指定していない**

**0271 DETAIL報告書集団だけに指定できる GROUP INDICATE句は、DETAIL報告集団にだけ指定できます。**

- GROUP INDICATE句を削除してください。

**0272 CONTROL FOOTING集団だけに指定できる**

- SUM句は、制御脚書き（control footing）報告集団の記述だけに指定できます。
- SUM句を削除してください。

**0273 非基本項目に無効な修飾語がある．またはPICTURE句がない**

- 基本項目だけに使用できる修飾語が、集団項目中に指定されています。あるいは、その項目は基本項目であるのに、PICTURE句を指定していません。
- 正しい構文の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。誤っている句を削除するか、またはPICTURE句を挿入してください。

**0274 GROUP INDICATEにCOLUMN句の指定がない**

- GROUP INDICATE句が指定されているのに、同じ報告集団記述にCOLUMN句がありません。
- COLUMN修飾語を挿入してください。

**0275 NEXT GROUP句はこのTYPE句の集団項目には指定できない**

- TYPE RF、またはPHの報告書集団にNEXT GROUPが指定されています。
- NEXT GROUP句を削除してください。

**0276 NEXT GROUP/NEXT PAGE句はこのTYPE句の集団項目には指定できない**

- TYPE PFの報告書集団にNEXT GROUP、またはNEXT PAGE句を指定しています。
- この句を削除してください。

**0277 LINE NEXT PAGE句はこの集団TYPEには指定できない**

- LINE NEXT PAGE句は、TYPE CH、CF、またはDEの報告書集団と共にだけ指定できます。
- LINE NEXT PAGE句を削除してください。

**0278 RESET項目が報告書集団より低いレベルの制御である**

- 合計カウンタをリセットする制御集団は、合計カウンタと同じか、またはそれより低いレベルでなければなりません。
- 合計カウンタのリセットを制御する規則については『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0279 報告書行が長すぎる**

- 指定した構文は、許容最大値を超えた長さの報告書行を作成しようとします。
- すべての報告書行が許容長を超えていないことを確認してください。

**0280 THRU句はDBCSフィールドに指定できない**

- DBCSは2バイト文字セットです。
- DBCSの使用を制御する規則については『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0281 DBCSフィールドを違法に使用している**

- DBCSは2バイト文字セットです。
- DBCSの使用を制御する規則については『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0283 EXTERNALファイルはSAME RECORD AREA句の対象にならない**

- SAME RECORD AREA句に、FD記述項でEXTERNAL句を記述したファイルが指定されています。
- SAME RECORD AREA句から、誤りのあるEXTERNALファイルの指定を削除してください。

**0284 報告書節では指定できない**

- 指定した構文は報告書節 ( Report Section ) では使用できません。
- 報告書節からその構文を削除してください。

- 0285 ページ脚書き集団の最初のLINE NUMBER句が相対指定である
- 0286 RD記述項のCONTROL句に指定されていない
- 0287 報告書ファイルにデータ・レコードを指定している
- 0288 SYNC句をUSAGE IS INDEX句と共に指定している
- 0289 SYNC句を集団項目のレベルに指定している
- 0290 索引キー（キー名）が英数字ではない
- 英数字キー項目を指定すべき箇所、索引キー句に英数字でないキー項目を指定していません。
  - 英数字キー項目を指定してください。
- 0291 集団項目がFILLERである
- 0292 SIGN句が集団項目レベルの指定と異なっている
- 0293 SYNC句を01以外の集団項目のレベルに指定している
- 0295 ファイル節または連絡節にVALUE句がある．注記とみなす
- VALUE句を、指定すべきでないファイル節、または連絡節で、指定しています。
  - VALUE句を削除してください。指定したままでもプログラムに影響はありません。
- 0296 BLANK WHEN ZERO句をゼロ制御と共に指定している
- 0297 "整数 TO"指定のないOCCURS . .DEPENDING句がある . "1 TO"とみなす .
- 0298 01または77レベルにOCCURS句がある
- 0299 FILLERがない
- 語FILLERがありません。
  - 語FILLERを加えてください。
- 0300 LABEL RECORDS句がない
- 頭書きLABEL RECORDSがありません。
  - LABEL RECORDS句を加えてください。

**0301 認識できない動詞がある**

- プログラムの手続き部で、COBOLシステムが正しいCOBOL動詞として認識できない動詞を使用しているか、またはCOBOL動詞のスペルに誤りがあります。
- COBOL言語で使用できる動詞については『言語リファレンス』を参照してください。さらにスペルが正しいことを確認してください。動詞がシステムの標準COBOL言語でない場合、言語が使用できるようにする指令を設定する必要があります。

**0302 IF... ELSEまたは範囲の区切りが一致しない**

- プログラムの手続き部で、IF文の分岐に誤りがあります。

あるいは、範囲区切り文字（例:END-ADD）を使用する構文のコーディングに誤りがあります。範囲区切り文字の数と範囲を定める文とが対応していません。

- IF文よりELSE文が多くないことを確認してください。

プログラムを修正してください。

**0303 作用対象が誤ったデータ形式である**

- 構文の中に誤った種類のデータ項目が使用されています。例えば、WRITE文でレコード名の代わりにファイル名を使用しています。
- 関係する項目を修正してください。

**0304 手続き名（名前）が一意ではない**

- 手続き部の複数の節の名前、または節の複数の段落の名前が同じです。
- 間違いのある節または段落を、ほかの名前にするかまたは修飾して、一意参照ができるようにしてください。

**0305 手続き名（名前）がデータ名と同じである**

- 手続き部の段落名が、データ部で宣言されたデータ項目と同じです。
- 段落が、または関係するデータ項目の名前を変更し、一意参照ができるようにしてください。

**0306 入口名が一意ではない**

- 同じ名前の入口点を重複して使用しています。（入口点の名前がプログラム名と同じことが原因と考えられます。）

- 誤りのある入口点の名前を変更するか、またはそれを修飾してください。

**0307 データ形式の組合わせに誤りがある**

- 矛盾するデータ項目を処理しようとしています。
- データ項目が同じ型であることを確認してください。

**0308 条件文はこの文に使用できない**

- 手続き部で、無条件文を使用しなければならない箇所に、条件文が使用されています。条件文とは、ある条件の真理値が実行時に決定される文です。
- この文を無条件文で置き換え、実行時の無条件な動作の記述を後に続けてください。

**0309 添字に誤りがある**

- 一次元の表に対して、2つの添字を指定している可能性があります。
- プログラムを修正して、一次元の表は、添字を1つだけ指定するようにしてください。

**0310 ACCEPT/DISPLAY文の構文に誤りがある**

- ACCEPT、またはDISPLAY文で無効な構文を使用したか、または通信構文のコーディングに誤りがあります。最も多いのは、スペルの誤りです。
- スペルの誤りを訂正してください。

**0311 I-O命令に違法な構文を使用している**

- 入出力動詞（例:READ、またはWRITE）を用いた文に、構文上の誤りがあります。
- このエラーメッセージの原因となった、特殊な動詞の使用についての詳細は『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってコードを修正してください。

**0312 無効な算術文である**

- 手続き部で使用した算術文に、COBOL構文上の誤りがあります。これらの文は算術動詞（例:SUBTRACT、またはDIVIDE）で始まり、適切な数字定数、または一意名が後に続かなければなりません。プログラムが実行されると、これらの定数や一意名に動詞が作用します。指定した文は有効ではありません。
- 算術文の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。使用する算術文が関連する規則に従っていることを確認してください。

**0313 無効な算術式である**

- 手続き部で使用した算術式は有効ではありません。
- 複雑な算術計算に関するCOBOL構文の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

**0314 違法なキーである**

- ファイル処理、またはSEARCH文のキー値の大きさに誤りがあります。
- キーの定義について確認し、キー値を訂正してください。

**0315 無効な条件式である**

- 手続き部で指定した条件式が、COBOL構文の規則に従っていません。例えば、IFの直後に続く文は、後に続く2つの文のうち1つを、真値に応じて実行します。
- 使用した文のコーディングについては『言語リファレンス』を参照してください。それに従ってプログラムを修正してください。

**0316 PERFORM文にAFTER句が多すぎる**

- PERFORM文に続くAFTER指定の回数は7回までです。プログラムで指定した回数がこの制限を超えています。
- PERFORM文にAFTER指定を8回以上行わないように、プログラムを修正してください。

**0317 手続き部の構造に誤りがある**

- 手続き部のコーディングに誤りがあります。例えば、節の見出しの1つがありません。
- 手続き部が論理的な順序に従っていること、またその中の各節に見出しがあることを確認してください。

**0318 ファイルにACCESS SEQUENTIAL指定が必要である**

- この文で名付けられたファイルには、順呼び出し法を使用しなければなりません。ファイルの呼び出し法は、SELECT文に記述されます。呼び出し法は、ファイルの編成によって暗黙指定されるか、またはACCESS MODE句によって指定されます。
- ファイルの呼び出し法を、順呼び出しに変更してください。

**0319 この形式には指標名だけが指定できる**

- 行おうとしている処理には指標名が必要となります。

- 指定した名前が指標名となるようにプログラムを修正してください。

#### 0320 1つの命令文の作用対象が多すぎる

- 手続き部の文の作用対象（オペランド）が多すぎるか、または作用対象が長すぎます。
- 作用対象の数を減らすか、または長すぎる作用対象を短くしてください。

#### 0321 INDEXED BY指定が重複している

- 表にINDEXED BYを複数指定しています。これは、選択されたフラグ仕様を満たしていません。

#### 0322 宣言節以外でDEBUG-ITEMは参照できない

- プログラムの手続き部の宣言節以外で、COBOLシステムが生成したデータ項目、DEBUG-ITEMを参照しています。DEBUG-ITEMを参照するのは宣言節の中だけで可能です。
- DEBUG-ITEMに対する参照を削除するか、または参照を宣言節の中へ移動してください。

#### 0323 同じファイルに対して複数のUSE手続きがある

- 2つ以上のUSE手続きを同じファイルに使用していますが、使用できるのは1つだけです。
- 余分にUSEを参照している箇所を削除してください。

#### 0324 同じオープン・モードに対して複数のUSE手続きがある

- 2つ以上のUSE手続きを同じファイルオープンのモードに使用していますが、使用できるのは1つだけです。
- 余分にUSEを参照している箇所を削除してください。

#### 0325 デバッグ手続きの組み合わせが違法である

- 宣言節でUSE FOR DEBUGGING手続きの無効な組合せを指定しています。
- デバッグ手続きの詳細については『言語リファレンス』を参照してください。宣言節を修正してください。

#### 0326 定数は受け取りフィールドに指定できない

- 暗示または明示の転記を行う処理で、受取り項目として定数値を指定しています。受取り項目はデータ項目でなければなりません。
- 定数値を、データ項目の参照に変更してください。

**0327 指標データ項目は指定できない**

- MOVE文で、送り出し、または受取り項目として指標データ項目を指定していますが、これは許されません。
- 値を指標データ以外の項目に転記し、このデータ項目をMOVE文の中で使用してください。

**0328 OPTIONALには使用できない**

**0329 SEARCH文にWHEN句がない**

- SEARCH文をWHEN指定なしで使用しています。SEARCH文の中には、WHEN指定を行わなければなりません。
- SEARCH文にWHEN指定を加えてください。

**0330 レコード名ではない**

- この文脈では（ファイル節のFD記述項で定義されているように）ファイルレコードの名前を指定しなければなりません。レコード名のスペルが誤っている可能性があります。
- ファイルレコードを参照するように修正してください。

**0331 プログラムが入れ子になっている-NESTCALL指令でコンパイルすること**

- プログラムの中に入れ子構造のプログラムがあります。
- プログラムをコンパイルするときNESTCALL指令を指定してください。

**0332 AFTER句は内PERFORM文に指定できない**

- 内PERFORM文にAFTER指定を行うことはできません。
- AFTER指定を削除してください。

**0333 変更可能な段落ではない**

- ALTER文で指定した段落は、変更できる段落ではありません。変更できる段落は、（DEPENDING句なしで）単一のGO TO文だけを含むものでなければなりません。
- ALTER文の参照を変更して変更可能な段落を参照するか、または指定した段落を編集して変更可能な段落になるようにしてください。

**0334 WHEN OTHER句の後に続けることはできない**

- WHEN OTHER指定を行う場合は、EVALUATE文の最後に指定しなければなりません。

- すべてのWHEN指定が、WHEN OTHER指定に先行していることを確認してください。

**0335 選択目的語が選択主体と一致していない**

- EVALUATE文の選択主体とそれに対応する選択目的語との間に不一致があります。
- EVALUATEの正しい構文については『言語リファレンス』を参照してください。EVALUATE文を修正してください。

**0336 可変長項目はINITIALIZEできない**

- 可変長項目をINITIALIZEすることはできません。
- INITIALIZE文から項目名を削除してください。

**0337 同じ項類を繰り返すことはできない**

- INITIALIZE文のREPLACING指定で同じ項類が繰り返されています。
- INITIALIZE文から繰り返された項類を削除してください。

**0338 報告書をFD記述項に指定していない**

- 報告書節の中にFD記述項がない報告書を参照しています。報告書記述項の指定が行われていないか、または報告書名のスペルに誤りがあります。
- 報告書名を修正するか、または報告書節に必要な報告書定義を加えてください。

**0339 順ファイルには指定できない**

- 順呼出し法で開いたファイルには実行できない処理を指定しています。
- 順ファイル上で実行できる処理の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

**0340 乱呼び出しファイルには指定できない**

- 乱呼出し法で開いたファイルには実行できない処理を指定しています。
- 乱呼出し（相対、または索引順）ファイル上で実行できる処理の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

**0341 行順ファイルには指定できない**

- 行順ファイル上では実行できない処理を指定しています。

- 行順ファイル上で実行できる処理の詳細については『言語リファレンス』を参照してください。

**0342 LINAGE句を指定したファイルには指定できない**

- LINAGE句（例:WRITE AFTER CO1）を使用して定義したファイルに違法な処理を指定しています。
- 違法な処理を削除するか、またはLINAGE句を使用しないでファイルを定義しなおしてください。

**0343 内PERFORM文内部だけで使用できる**

**0344 01または77レベルにすること**

- 01レベルか77レベルのデータ項目を指定すべき箇所に、そうでないデータ項目を指定しています。
- データ項目を01レベルか、または77レベルに定義しなおしてください。

**0345 パラメータ・リストのUSING句に同じデータ項目名を2回指定している**

- 手続き部の見出しのUSING句に同じデータ項目名を2度指定しています。USING指定の中のデータ項目名はすべて異なっていなければなりません。
- 余分な参照を削除してください。

**0346 SEARCH ALL文には1つのWHEN句だけ指定できる**

- ALLオプションを使用したSEARCH文の中でWHEN句を2度指定しています。この形式にはWHEN句は1度だけ指定できます。
- 余分なWHEN指定を削除してください。

**0347 MERGE命令のUSING句には少なくとも2つのファイルが必要である**

- MERGE文のUSING指定でファイル名が1つしか指定されていません。
- MERGE文のUSING指定には、少なくとも2つのファイル名があることを確認してください。

**0348 (行番号) 行目で最初に使用される手続き名(手続き名)を宣言していない**

- 存在しない段落、または節を参照しています。手続き名のスペルの誤りが考えられます。
- 参照する手続きが存在し、またその手続き名のスペルが正しいことを確認してください。

**0349 LOCK句が必要である**

- READ文に、LOCK句を指定していません。
- READ文に、LOCK句を挿入してください。

**0350 NO LOCK句を違法に使用している**

- レコードロックが不要なファイルに、NO LOCK指定を行ったREAD文を使用しています。
- NO LOCK指定を削除してください。

**0351 LOCK句をEXCLUSIVEファイルに指定している**

- ファイル管理 ( FILE-CONTROL ) 段落でEXCLUSIVEのロックモードを指定したファイルに対して、READ文でLOCK句を指定しています。
- 実行単位がEXCLUSIVEモードでロックしたファイルは、レコードのロックはできません。ロック指定の矛盾をなくすには、READ文中のLOCK記述項を削除するか、またはFILE-CONTROL段落中のLOCK MODE IS記述項を変更しなければなりません。

**0352 単一レコード・ロックのファイルにWITH KEPT LOCK句を指定している**

- このメッセージはマルチユーザー構文だけに適用されます。マルチレコード・ロックをサポートしないファイルにアクセスするREAD文に、WITH KEPT LOCK句を指定しています。
- ファイルタイプを変更するか、またはWITH KEPT LOCK指定を削除して2つの記述項が矛盾しないようにしてください。

**0353 合計カウンタではない報告書節項目を参照できない**

**0354 MOVE CORRESPONDING文に複数の受け取りフィールドがある**

**0355 ポインタ・データ項目の比較には '='と 'NOT ='だけが使用できる**

- ポインタ・データ項目を含む比較に使用できるのは、「=」と「NOT=」です。
- 比較を訂正してください。

**0356 報告書ファイルには使用できない**

- FD記述項に報告書であることを示しているファイル上で、ファイル処理 ( READ、WRITE、REWRITE ) を実行しようとしています。
- 入出力文を削除してください。

**0357 画面が表示専用である**

- 表示項目だけを持つ画面をACCEPT文で指定しています。
- 正しい画面を指定するようにしてください。

**0358 コンマがない**

- COBOL構文では、この位置にコンマを必要とします。正しい構文については『言語リファレンス』を参照してください。
- コンマを加えてください。

**0359 表定義の次元数に不一致がある**

- ACCEPT/DISPLAY文の中のデータ項目の次元数と対応する画面節項目との間に不一致があります。  
  
画面節項目の次元数と、USINGまたはTO句の対応するデータ項目との間に不一致があります。
- 2つの項目の定義を一致させてください。

**0360 ファイルにはACCESS DYNAMICを指定すること**

- ファイルの呼出しモードが動的呼び出しの場合だけ実行可能なファイル上の処理を、指定しています。
- このファイルに対するファイル制御記述項を変更して、呼出し法が動的呼び出しになるようにしてください。

**0361 演算命令がCOMP形式を超えている**

- プログラムの中に、COMPサブセット命令となるようにコンパイルすることができない文が含まれています。

**0362 (データ名)をファイルに定義していない、またはCODE-SET句の形式に誤りがある**

- CODE-SET句で指定したデータ名は、そのファイルのレコードに属していません。
- 原始コードを修正して、CODE-SET句中のデータ名がそのファイルのレコードを参照するようにしてください。

**0363 (データ名)をCODE-SET句の最初の項目として同一レコードに指定していない**

- CODE-SET句で、複数のレコードに属するデータ名を指定しています。この句の中で指定するデータ名はすべて、ファイル中の単一レコードに属さなければなりません。
- 原始コードを修正して、CODE-SETデータ名を1つ以上削除し、すべてのデータ名が1つのレコードだけに属するようにしてください。

**0364 (データ名)はCODE-SET句の他の項目と重複する**

- CODE-SET句で指定したデータ名の中のいくつかを、再定義しているか、またはCODE-SET句のレコードに含まれる個々のデータ名ではなくレコード全体を指定しています。
- 原始コードを修正して、データ名は1度だけ指定されるようにしてください。

**0365 可変長の表が集団項目の最後でない、またはOCCURS句に従属している**

- OCCURS DEPENDING ON項目は、集団中の最後の項目でなければなりません。
- データ項目を再構築して、OCCURS DEPENDING ON項目がその集団の最後の項目になるようにしてください。

**0366 可変長の区切り文字は使用できない**

- この文脈では、OCCURS DEPENDING ON句が含まれる部分参照項目または集団を使用できません。
- 参照修飾項目を置き換えるか、またはOCCURS DEPENDING ON句の中に有効な項目を指定してください。

**0367 作用対象の記述にINDEXED BY句が含まれていない**

- 作用対象(オペランド)の記述にINDEXED BY句が含まれていないので、SEARCH文は指定できません。
- 作用対象の記述にINDEXED BY句を追加してください。

**0368 例外を表す句が不適当である**

- この文で指定された例外条件は、指定された呼出し法に対して不適切です。例えば、乱呼出しでAT ENDが指定されたか、または順呼出しでINVALID KEYが指定されています。

**0369 LINAGE句を定義したファイルにOPEN EXTENDを指定している**

- OPEN EXTENDは、LINAGE句を使って定義したファイルには指定できません。

- 0370 この作用対象は表にすること
- この状況で使用される作用対象（オペランド）は、表だけです。
  - 作用対象が表になるようにコードを修正してください。
- 0371 データ・サイズが大きすぎる
- プログラムのデータの大きさが、許容最大値を超えています。
  - プログラムを再設計して、データを小さくしてください。
- 0372 SORTファイルを違法に使用している
- SORTファイルの指定に誤りがあります。
  - 正しい構文については『言語リファレンス』を参照してください。
- 0373 PICTURE文字列の数字の桁数が18桁より多い
- PICTURE文字列で表現できる数字の桁数は、最大18桁です。
  - PICTURE文字列を変更して、数字の桁を18桁以内にしてください。
- 0374 浮動小数点項目を違法に使用している
- 浮動小数点項目の指定に誤りがあります。
  - この文脈では、浮動小数点項目を使用することはできません。
- 0375 定数が繰り返し文字を含んでいる
- 0376 作用対象の高次元テーブルを指標付けしていない
- 0377 SORTテーブルは複雑なOCCURS DEPENDING ONテーブルをサポートしていない
- 0378 AFTER句を8回以上使用している
- PERFORM文の中では、AFTER指定ができるのは最高7回です。
  - 余分なAFTER指定を削除してください。
- 0379 非表示データ項目は英数字定数と比較することはできない
- 0380 CALL文のパラメータの数が手続き部の見出しと異なる
- 0381 ALLなどのTALLYINGオプションを複数の一意名に割り当てている

- 0382 GO TO... DEPENDINGには手続き名を1つだけ指定すること
- 0383 ALSOがない
- 語ALSOがありません。
  - 語ALSOを加えてください。
- 0384 NEXT SENTENCEがON,IF,ELSE,SEARCH WHENの直後にない
- NEXT SENTENCEはIF文の分岐、またはSEARCH文のWHEN分岐でだけ使用することができます。
  - これらの規則に従うようにコードを修正してください。
- 0385 初期化の順序が変更になる
- 0386 手続き部の始まりに節または段落がない
- 0387 AFTERとBEFOREのオプションを同時に使用している
- 0388 キーが条件の右側にある
- 0389 EXITが段落を分割する箇所にない
- 0390 順ファイル以外のファイルにOPEN EXTENDを指定した
- 0391 Micro Focus形式のACCEPTまたはDISPLAY文を指定した
- 0392 AFTER句を3回以上使用している
- プログラムに最大値2回を超えるAFTER指定があります。
  - 余分なAFTER句を削除してください。
- 0393 内PERFORM文を指定した
- 0394 END DECLARATIVESの後に節の見出しがない
- 0395 FROMに定数を指定した
- 0396 適切な条件文も有効な宣言文もない
- 0397 先行する節がない
- 0398 相対番地は指標名だけに指定できる

- 0400 指標データ項目を添字として使用できない
- プログラム中で添字として指標データ項目を使用しています。
- 0401 制限を越えている-手続き部の命令文の数>(制限値)
- 0402 制限を越えている-ファイル数>(制限値)
- 0404 制限を越えている-REPLACING作用対象の組合わせ数>(制限値)
- 0406 制限を越えている-ファイル名/コピー名/ライブラリ名の長さ>(制限値)
- 0409 制限を越えている-SELECT句で指定したファイル名の数>(制限値)
- 0410 制限を越えている-SAME RECORD AREA句の数>(制限値)
- 0411 制限を越えている-MULTIPLE FILE句で指定したファイルの数>(制限値)
- 0412 制限を越えている-ファイルのALTERNATE RECORD KEY句の数>(制限値)
- 0413 制限を越えている-RECORD KEY長>(制限値)文字
- 0414 制限を越えている-データ部の長さ>(制限値)
- 0415 制限を越えている-節のデータ長>(制限値)
- 0419 制限を越えている-BLOCKサイズ>(制限値)文字
- 0420 制限を越えている-RECORD長>(制限値)文字
- 0421 制限を越えている-FD項で記述したファイル名の数>(制限値)
- 0422 制限を越えている-SD項で記述したファイル名の数>(制限値)
- 0424 制限を越えている-連絡節の01レベルと77レベルの項目数>(制限値)
- 0425 制限を越えている-ファイル節の集団項目の長さ>(制限値)文字
- 0426 制限を越えている-集団項目の長さ>(制限値)文字
- 0427 制限を越えている-データ項目長>(制限値)文字
- 0428 制限を越えている-編集項目長>(制限値)文字
- 0429 制限を越えている-可変長テーブル長>(制限値)文字
- 0430 VALUE定数の長さの合計>(制限値)-メインフレーム上で起こりうる問題

- 0431 制限を越えている-PICTURE文字列長>(制限値)文字
- 0432 制限を越えている-PICTURE繰返し長>(制限値)
- 0433 制限を越えている-整列レコード長>(制限値)文字
- 0434 制限を越えている-テーブル長>(制限値)文字
- 0435 制限を越えている-表要素の長さ>(制限値)文字
- 0436 制限を越えている-ASC/DESC KEY句の数>(制限値)
- 0437 (データ名)で制限を越えている-ASC/DESC KEY長>(制限値)文字
- 0438 制限を越えている-INDEXED BY句の数>(制限値)
- 0440 制限を越えている-段落のラベル数>(制限値)
- 0441 制限を越えている-PERFORMの数>(制限値)
- 0442 制限を越えている-OCCURSの入れ子>(制限値)
- 0443 制限を越えている-GO TO DEPENDING ON名の数>(制限値)
- 0444 制限を越えている-IF文の入れ子のレベル数>(制限値)
- 0445 制限を越えている-CALL文のパラメータ数>(制限値)
- 0446 制限を越えている-SORT/MERGE入力ファイル数>(制限値)
- 0447 制限を越えている-SORT/MERGEキー数>(制限値)
- 0448 制限を越えている-SEARCH ALL文の条件数>(制限値)
- 0449 制限を越えている-UNSTRING文の区切り文字数>(制限値)
- 0450 制限を越えている-INSPECT TALLYING/REPLACING文の作用対象数>(制限値)
- 0451 制限を越えている-SORT/MERGEキー長>(制限値)文字
- 0452 制限を越えている-PROCEDURE DIVISION USINGパラメータ数>(制限値)
- 0453 制限を越えている-ENTRY USINGパラメータ数>(制限値)
- 0460 前述の項目で64Kを越えた．区分チェック・コードを生成する
- 0461 テーブルで64Kを越えた．区分チェック・コードを生成する

- 0462 パラメータで64Kを越えた．副プログラムのコンパイル時はNOSMALLDDを使用する
- 0463 数字による呼び出しルーチンのパラメータが作業場所節の先頭の64Kにない
- 0465 ファイル節が64Kを越えた．CALLFH指令を使用して再コンパイルすること
- 0499 構文DISPLAY ALL (表意定数)が使用している
- 構文DISPLAY ALL (表意定数)を使用しています。これは、選択されたフラグ仕様を満たしていません。
- 0500 構文DISPLAY ALL (定数)が使用している
- 構文DISPLAY ALL (定数)を使用しています。これは、選択されたフラグ仕様を満たしていません。
- 0501 機能は選択モジュールの一部である- (モジュール名)
- 0502 この節全体が選択モジュールの一部である- (モジュール名)
- 0503 USAGE COMPは01レベル以外で使用する
- 0504 整列用ファイルのSELECT文にORGANIZATION句がある
- 0505 SDまたはCD記述項にVALUE OF句がある
- 0506 REDEFINES句がデータ名の直後にない
- REDEFINES句が、データ名の直後にきていません。
  - REDEFINES句が、データ名の直後にくるようにプログラムを変更してください。
- 0507 数字定数のVALUE句が編集項目にある
- 0508 NEXT句を順ファイルのREAD文に使用している
- 0509 指標のないデータ項目にSET命令を指定した
- 0510 BLANK WHEN句にZEROSまたはZEROESを記述している．ZEROとみなす
- 0511 FILE STATUS (データ名) が英数字ではない
- FILE STATUSに非英数字データ項目を指定しています。
  - コードを修正してデータ項目を英数字にしてください。
- 0512 データ名が修飾されている

- 0513 フラグが全部の節を参照している
- 0514 "CHANGED"andまたはor "NAMED"がない
- CHANGED、またはNAMEDのいずれかがありません。
  - プログラムにCHANGEDおよび/またはNAMEDを加えてください。
- 0515 語が重複している
- 0516 SAME AREA句に1つのファイルしか指定していない
- 0517 内PERFORMの外に飛び出している
- 0518 >か<の後にTHANかTHENがある．または=の後にTOがある
- コードの中に不要な語THANおよびTOが含まれています。
  - これらの語を削除してください。
- 0519 修飾レベルが5レベルより大きい
- 0520 順ファイルにINVALID KEY句を使用している
- 0521 USING 定数/LENGTH OF 一意名 (この項目にはBY CONTENTを前提とする)
- 0522 BY CONTENT 定数/LENGTH OF 一意名
- 0523 宣言節にUSE文がない
- 0524 ALPHABETがASCIIコードである
- 0525 EOPまたはEND-OF-PAGEをLINAGE句のないファイルに使用している
- 指定されているEOPは、LINAGE句のないファイルに対しては無効です。
  - EOPを削除してください。
- 0526 記述の順序に誤りがある
- 0527 REDEFINES句がFILE節の01レベルにある
- 0528 ASC/DESCキー句のデータ名 (データ名) が一意でない
- 0529 句は注記として扱われる

- 0530 索引ファイル・キーに使用されているデータ項目が英数字ではない
- 索引ファイルキーとして指定したデータ項目は英数字ではありません。
  - コードを変更してデータ項目を英数字にしてください。
- 0531 添字が多すぎる
- 0532 INTO句のデータ名が集団項目である
- 0533 START... LESS/NOT GREATER THAN...
- 0534 記述項は注記として扱われる
- 0535 ALPHABETがEBCDICコードである
- 0537 BASISメカニズム ( BASIS,DELETE,INSERT )
- 0538 Picture文字列が続いている
- 0539 この項目はANSI85では廃止された
- 使用された構文はANSI85ではサポートされていません。
  - この構文を削除してください。
- 0540 送り出し側の項目が編集される
- 0541 編集フィールドとCOMPフィールドを比較している
- 0542 COMP指定の集団項目にVALUE句がある
- 0543 可変長の集団項目にVALUE句がある
- 0544 VALUE句がOCCURS句を指定した項目にあるかOCCURS句の集団項目内にある
- 0545 ALTERNATE RECORD KEYがSAAにない
- 0546 PICTURE句の記号Pは相対キーには使用できない
- 相対キーにPICTURE記号Pが含まれています。
  - Pを削除してください。
- 0547 END-IFをNEXT SENTENCEと共に使用している
- 0548 プログラムが入れ子になっている

- 0549 USING句の一意名は再定義できない
- 0550 仮原文をコンマかセミコロンの1つの分離符だけで構築している
- 0552 注記行が見出し部の前にある
- 0553 (構文):ANSI85に従っているが選択レベルではサポートされない
- 言語要素はANSI85に含まれているものですが、選択したフラグレベルを超えています。
- 0554 構文がANSI85に従っていない。または規格に含まれていない
- 言語要素はANSI85に含まれていません。これはOSVS、VSC2、MFその他の拡張のものです。
- 0555 (構文):ANSI85では廃要素語になっている
- この言語要素はANSI85で廃要素として定義されています。次のANSI標準からは削除されません。
  - この構文を削除してください。
- 0556 複数の原始プログラムがある
- プログラム・ファイル内に複数の原始プログラムがあります。入れ子構造になっていない独立したプログラムが2つ以上ある状態です。
- 0557 GIVING句に複数のファイルを指定している
- SORT、またはMERGE文でGIVING句に複数のファイルを指定しています。
- 0558 指標名と算術式を比較している
- 0559 命令文は実行されない
- 0560 ALPHABET句を記述しないで符号系を宣言している
- 0561 NOT句に対応する動詞を指定していない。この文を無視する
- NOT指定を宣言していますが、それに対応する動詞が宣言されていません。
  - 適切な動詞を加えてください。
- 0562 ELSE句に対するIFを指定していない。この文を無視する
- ELSE指定を宣言していますが、それに対応するIFが宣言されていません。
  - IFとELSEが対応するように修正してください。

- 0563 **WHEN句に対応する動詞を指定していない。この文を無視する**
- WHEN指定を宣言していますが、それに対応する動詞が宣言されていません。
  - 適切な動詞を加えてください。
- 0564 **範囲区切り文字に対応する動詞を指定していない。この文を無視する**
- 範囲区切り文字を宣言していますが、それに対応する動詞を宣言していません。
  - 条件動詞と対応するようにしてください。
- 0565 **RECORDING MODE句を索引ファイルか相対ファイルに使用している**
- 0566 **この文脈での浮動小数点の使用はサポートしていない**
- 0567 **USAGE DISPLAY-1がない**
- USAGE DISPLAY-1の指定がありません。
  - USAGE DISPLAY-1を指定してください。
- 0568 **EVALUATE文に符号条件を指定している**
- 0569 **データ項目が固定番地でない**
- 0570 **領域BにSO/SI文字を挿入するスペースがない**
- 2バイト文字項目に対して挿入されるSO/SI文字のための領域Bの空間が不十分です。原始プログラムがSO/SI文字を必要とする環境へ移植されると、原始プログラム行は原形を損なわれる可能性があります。
- 0571 **混合定数が連続している**
- 0572 **INITIALIZEの作用対象が固定番地でない**
- 0573 **REPLACING句を2回以上使用している**
- 0574 **条件文が範囲区切り文字で終了していない**
- 0575 **ゼロ抑制と浮動挿入を両方指定している**
- 0576 **前にある文が無条件文ではない**

- 0577 集団項目のUSAGEがPICTURE句の形式と一致しない-USAGEを無視する
- PICTURE句が宣言されていますが、集団項目のUSAGE指定がPICTURE句の型に合っていない。
  - USAGE句を削除するか、またはPICTURE句を変更してください。
- 0578 プログラム名を定数として指定している
- 0579 プログラム名が2バイト文字名である
- 0580 利用者語を2バイト文字名として使用している
- 0581 END-SEARCHをNEXT SENTENCEと共に使用している
- 0582 再定義項目にOCCURS句がある
- 0583 GLOBAL宣言内部にEXIT PROGRAMがある
- 0584 内PERFORM文がEND-PERFORMで終了していない
- 0585 無条件文がない
- 無条件文が指定されていません。
  - 無条件文を指定してください。
- 0586 最小レコードサイズ(サイズ1)>RECORD句で指定した最小値(サイズ2)
- レコード定義について最小のサイズが指定されていますが、定義したレコードがそのサイズではありません。
  - 指定した最小サイズと最小のデータレコードが同じになるように、プログラムを変更してください。
- 0587 最大レコードサイズ(サイズ1)<RECORD句で指定した最大値(サイズ2)
- レコード定義について最大のサイズが指定されていますが、定義したレコードがそのサイズではありません。
  - 指定した最大サイズと、最大のデータレコードが同じになるように、プログラムを変更してください。
- 0588 作用対象にUSAGE DISPLAYがない
- 0589 手続き部が完全な文で終了していない

- 0590 USING/GIVING句に指定されたファイルが順編成でない
- 0591 USING/GIVING句に指定されたファイルが乱呼び出しになっている
- 0592 USING/GIVING句に指定されたファイルが動的呼び出しになっている
- 0593 一連番号に数字以外の文字がある
- 0594 可変長集団項目がINITIALIZE文の作用対象になっている
- 0595 整列用ファイルにFILE STATUS句がある
- 0596 報告書節の01レベルのレコードが基本項目である
- 0597 SUM句の項目が他の報告書に属している
- 0598 割り当て名は英数字定数である
- 0599 CODE句の定数形式である
- 
- 0600 名前が暗黙的に修飾されている
- 0601 DETAIL集団についてのUSE BEFORE REPORTING文である
- 0602 LINE句もLINES句も指定していない
- 0603 報告書節にSIGN句がある
- 0604 GLOBAL句をデータ名なしで記述項に指定している
- 0605 1つの項目に対して複数のSUM句を指定している
- 0606 プログラムに手続き部がない
- 0607 手続き部の見出しがない
- 0608 仮原文区切り記号の前か後に違法な文字がある
- COPY ... REPLACING、およびREPLACE中で使用される仮原文区切り記号の前は空白、また、後ろは分離符でなければなりません。システムはそのように記述されたと想定しています。
- 0609 QUOTE指令にアポストロフィを発見した(以後このメッセージは表示されない)
- 0611 行番号:(行番号) カラム番号:(カラム番号)

- 0612 EXIT PROGRAMが個々の段落にない
- 0613 無効なプログラム名である
- 0614 前にあるLINE句に同じ行番号を指定している
- 0615 浮動小数点データ項目である
- 0616 このEXIT文の形式はCODASYL COBOL開発報告で定義されている
- 0617 データ項目を66レベルで定義している
- 0618 データ項目を連絡節に定義していない
- 0619 利用者語に1バイトと2バイトの文字が混在している
- 0620 2バイト文字利用者語が14文字を越えている
- 0621 2バイト文字利用者語が1バイト文字 ' 'に相当する2バイト文字で始まっている
- 0622 2バイト名が違法な文字を含んでいる
- 0623 2バイト名が1バイト文字に相当する2バイト文字だけを含んでいる
- 0624 連絡節で定義したレコードを手続き部の見出しに指定していない
- 0625 英字編集項目を英字として扱っている
- 0626 編集項目は使用できない
- 0627 節の見出しの後に段落名または他の節の見出しがない
- 0628 記号定数の使用を78レベルまたはCONSTANT指令で定義している
- 0629 符号付きか整数以外の数字定数を使用している
- 0630 INTO句はこのファイルに対して適切ではない
- 0631 GLOBAL句を連絡節で指定している
- 0632 FUNCTIONは受け取り項目になることはできない
- 0634 機能が選択したCOBOL水準においてサポートされていない
- 0635 VALUE句を外部浮動小数点データ項目に指定している
- 0636 88レベルを外部浮動小数点データ項目に定義している

- 0637 ACCEPT文が内部浮動小数点データ項目を参照している
- 0638 浮動小数点データはREMAINDER句を使用するDIVIDE文では違法である
- 0639 予約語ORがない
- 0640 浮動小数点データ項目をSEARCH ALL文で使用している
- 0642 送り出し側と受け取り側の項目が同じ番地から始まっている
- 0643 送り出し側と受け取り側が一部重複している．送り出し側が高いアドレスにある
- 転記において、送り出し項目と受取り項目とが一致している場合、転記の結果は定義されません。
- 0644 仮数が16桁より大きい
- 0645 浮動小数点の値が範囲外である
- 0647 CURSORデータ項目はLOCAL-STORAGE句に指定できない
- 0648 LOCAL-STORAGE項目を違法に使用している
- 0649 レコード長がシステムの制限値を越えている
- 0650 対応するIFがない-無視する
- END、またはELSE条件付きコンパイル文の前にIFが見つかりません。この行は無視されます。
- 0651 整列キーはOCCURS句のある項目やそれに属する項目を含むことはできない
- 0654 NEXT GROUPをLINE NUMBER句のない集団項目に指定した
- 0655 NEXT GROUP NEXT PAGEをPAGE記述のない報告書に指定した
- 0656 送り出し側と受け取り側が一部重複している．送り出し側が低いアドレスにある
- 0657 連絡節で宣言されるべきである
- 0658 英数字項目を数字字類検査した
- 0659 画面名は画面節の01レベルに必ず指定する
- 0660 正符号付き整数を相対添字に使用している
- 0661 MOVE文に余分なTOがある．無視する

- 0662 表意定数やALLはここには使用できない
- 0663 標準以外の文にLENGTH関数がある
- 0664 入出力節が構成節の前にある
- 0665 通信構文に誤りがある
- 0666 予約語をデータ名として使用している。またはデータ記述修飾語に誤りがある
- 0667 ODOオブジェクト(データ名)は決まったロケーションを持たなければならない
- 0668 JUSTIFIED句が編集項目に指定されている
- 0669 EVALUATE文に不完全な条件式を使用している
- 0670 選択の右辺が選択の左辺に対応していない
- 0671 PERFORM UNTIL EXIT
- 0672 COPY REPLACING句内部でCOPY文が入れ子になっている
- 0673 矛盾するオプションが指定されている
- 0674 添字と指標を同じ一意名に使用している
- 0675 数字の関数をMOVE文の送り出し側項目に使用している
- 0676 THENをTHANの代わりに使用している
- 0678 報告書に対するCONTROL句の数が多すぎる
- 0679 漢字定数では引用符は2バイト文字にすること
- 0680 N"形式の定数である
- 0681 関数の引数は正の値にすること
- 0682 関数の引数は正の値かゼロにすること
- 0683 関数の引数はゼロ以外にすること
- 0684 関数の引数は-1から+1までの値にすること
- 0685 関数の引数は-1より大きい値にすること
- 0686 関数の引数は1から文字の最大値までにすること

- 0687 PROCEDURE-POINTERデータ項目を使用している
- 0688 通貨記号として 'C'または 'R'を使用している
- 0689 条件名がFALSEに設定できない(指定された値のFALSEにならない)
- FALSEに88レベル項目を設定しようとしていますが、その項目のデータ記述において、WHEN SET TO FALSE句を指定していません。
  - WHEN SET TO FALSE句を指定してください。
- 0690 浮動小数点定数を違法に使用している
- 0691 同じプログラム内でCOPY文と修飾したCOPY文の両方を使用している
- 同じプログラムの中に、コピーライブラリの2つの異なるコピーが混在しました。同じプログラムの中で、修飾したCOPY文と修飾していないCOPY文を使用してはいけません。
- 0692 2つ以上のFD文にREPORT句を指定している
- 0693 EXTERNAL項目として定義できない
- 0694 一意名が部分参照である
- 0695 EXTERNALプログラムである
- 0696 データ名はTYPEDEF句で指定しなければならない
- 0697 データ項目がKEY自体ではなくKEYの再定義である
- 0698 AFTER ADVANCING句に正の定数を指定している
- 0699 ADVANCING PAGEおよびEND-OF-PAGEを同一WRITE文で使用している
- ANS85では、ADVANCING PAGEおよびEND-OF-PAGEを同一WRITE文で使用することはできません。
- 0700 関数に誤った形式の引数が指定されている
- 組み込み関数に対して誤った形式の引数を指定しています。例えば、INTEGER-OF-DAYにはある決まった形式の日付を指定する必要があります。
  - 引数の形式がマニュアルに反していないかチェックしてください。
- 0701 符号系名はALPHABET句を前に指定しなければならない
- 0702 英字の字類が英小文字を含んだ字類に拡張されている

- 0703 ON OVERFLOW句はもっと上位環境で実行される指定である
- 0704 型整数と英字との比較は間違いである
- 型整数を数字編集項目または英数字項目と比較しようとしています。
- 0705 コロンは分離符とみなす
- 0706 COBOLでは使用できない文字（文字）がある．結果が違ってくる可能性がある
- COPY REPLACING BY操作を行おうとしたときに、COBOLシステムがCOBOLでは使用できない文字を発見しました。結果は環境によって異なる可能性があります。
- 0707 暗黙のEXIT PROGRAMはプログラムの最後に実行される
- 0708 PICTURE句の文字列が文字 "A"と "B"から成っている．英数字編集項目とみなす
- 0709 PERFORM... VARYING... AFTERの初期設定の順序が間違っている
- 0710 受信側の最大長（受信側）が使用される
- 0711 1桁の整数をRECORD CONTAINSに指定すると間違ったサポートをする
- 0712 ファイル状態値が間違っている
- ファイル操作に対するファイル状態値は、環境間で異なります。
- 0713 UNSTRING文中の項目の添字付けとODOは命令文の開始時に値が判定される
- 0714 終止符の次にある空白以外の文字を無視する
- 0715 EXITは終止符の後に指定できない
- 0716 EXIT PROGRAMは終止符の後に指定できない
- 0717 SHIFT OUT文字は有効な2バイト文字の後に指定できない
- 0718 SHIFT OUT文字はSHIFT IN文字と同じ値ではない
- 0719 入出力管理段落に複数の文がある
- 0720 順編成ファイルをCALLパラメータとして使用している
- 0721 非順編成ファイルをCALLパラメータとして使用している
- 0722 データ項目が小さすぎる（最低16文字は必要である）
- 0723 USE... GIVINGオプション

- 0724 終止符がSKIP1/2/3またはEJECTの後ろにある
- 0725 関数の引数が無効である．年は160よりも大きい数字とする
- 0726 関数の引数が無効である．月は1から12までの整数とする
- 0727 関数の引数が無効である．日は1から31までの整数とする
- 0728 関数の引数が無効である．日は1から366までの整数とする
- 0729 00: (パラメータ) がUSINGに記述されていない
- ユーザー定義構文へのパラメータが、プログラムのPROCEDURE DIVISION USING句にリストされていないと見なされます。
- 0730 00: 定義が長すぎる
- ユーザー定義構文の定義のサイズは制限されています。
  - 構文定義を短くして下さい。例えば、ノイズワード等を削除します。
- 0731 00: 構文が (定義) の複数のサインと一致する - 最初のものを想定
- プログラムの構文定義が複数のユーザー定義構文の定義と一致しているため、コーディングが多くの意味に受け取れます。コンパイラは、最初のものを一致する定義と見なして、処理します。
- 0732 00: サイン (サイン) が一致しない。または、データ名 (データ名) が宣言されていない
- プログラムのコードが、どのユーザー定義構文の定義とも一致しません。
- 0733 00: FUNCTIONは行えない - RETURNING/GIVING句がない
- ユーザー定義構文FUNCTIONは、PROCEDURE DIVISION中にRETURNING句またはGIVING句を持つメソッド用にだけ定義できます。
- 0734 00: FUNCTIONはRETURNING/GIVINGをパラメータ (パラメータ名) として使用できない
- ユーザー定義構文FUNCTIONは、ファンクションへのパラメータとしてRETURNING句またはGIVING句を持つことはできません。
- 0735 00: 不正な文または関数の構文 (定義)
- ユーザー定義構文の定義として、予約語を使用しようとしています。
  - 別の文または関数を使用してください。

**0736 00: FACTORY (ファクトリ名) が宣言されていない**

- (ファクトリ名) が、プログラムのSPECIAL-NAMES段落でFACTORYとして宣言されていません。この定義は指定した継承の結果として必要とされることがあります。
- 適切なFACTORY文をSPECIAL-NAMES段落に入れて、再度実行してください。

**0737 00: オブジェクトタイプが合わない (タイプ1, タイプ2)**

- 継承階層で定義されたOBJECT REFERENCEとの互換性のないタイプと関連している操作を行おうとしています。

このようなオブジェクトは、不適合と言われます。

**0738 00: 構文は<SELF>または<OBJECT>を一回含まなければならない**

- ユーザ定義構文の定義はSELFまたはOBJECTを一回含んでいなければなりません。

**0739 00: サインがパラメータの後にOFか” (“ を含んでいる。**

あいまいである

- ユーザ定義構文の定義での” OF ” または括弧の使用は、多くの意味に受取れるため、予期しない結果を起こします。例えば、パラメータの後の括弧は添え字であると解釈されたりします。

**0740 00: (定義) の構文が多すぎる**

- 同じ動詞または関数で一度に解釈できるユーザー定義構文の数には、制限があります。例えば、同じ動詞で多すぎる定義を行っている場合などが考えられます。
- 各動詞で定義されている数を減らすか、または定義を短くしてください。

**0741 00: インスタンスメソッド内でだけ可能**

- インスタンスメソッド内でだけ許されている構文を使用しようとしています。

**0742 00: SELFの暗黙の使用はMETHOD内でだけ可能**

- INVOKE文で最初の参照オブジェクトが省略され、SELFの参照オブジェクトが暗黙に使用されているかもしれません。これはMETHOD内でだけ可能で、プログラムでは行えません。

**0743 SQL文の式にARITHMETIC指令は作用しない**

- SQLエンジンがSQL文の算術式を処理するため、ARITHMETIC指令は作用しません。

- 0744 入れ子のプログラムにBY VALUEは使用できない
- 入れ子のプログラムの呼び出し時にBY VALUEパラメータを渡そうとしています。
- 0745 END DECLARATIVESがない
- 0746 WHEN OTHERはWHEN指定に続けること
- 0747 SUM...UPON節のオブジェクトがこの報告書の明細集団ではない
- 0748 標識名に負の値を指定している
- 0749 標識名に+0を指定している
- 0750 標識名に0を指定している
- 0751 標識名に0が渡された
- 0752 サブスクリプトに複雑な算術式を使用している
- 0753 INSPECT BEFORE/AFTERにOR指定がある
- 0754 負の整数は使用できない
- 0755 ACCEPT/DISPLAY/EXHIBIT文またはCALL文で特殊レジスタを使用している
- 0756 TYPEDEF名がない
- 0757 POINTER名が必要である
- 0758 不正なタイプのPOINTER項目
- 0759 論理演算子を違法に使用している
- 0760 INITIALIZE TO VALUE文を使用している
- 0761 DELIMITED BY SIZEがない
- 0770 00: サインがパラメータの後にINかOFか”( “を含んでいる
- ユーザ定義構文で、パラメータの後に ” OF ” または ” IN ” または括弧を使用することはできません。
- 0771 00: 必須語または任意語は動詞ではない
- ユーザ定義構文の定義で、COBOL動詞を、必須のユーザ定義語または任意語として使用することはできません。

- 0772 不正なALLOW句の組み合わせ
- 0773 数字項目にCLASS句は使用できない
- 0774 COBOL語が31文字である
- 0775 データ項目が小さすぎる（最低4桁は必要である）
- 0776 不完全な語の置き換えである
- 0777 1語のみ不完全な置き換えが許される
- 0778 余分なメッセージが抑制された
- 0779 intlevelセットで中間コードを移植することはできない
- 0781 レベル番号01の集団項目にはEXTERNAL-FORM句が必要である
- 0790 00: 不正なメソッド名である
- 0791 プリコンパイルされた見出し（見出し）がない
- 0792 ポインタ項目でMOVEを使用している
- 0793 基本英数字項目にPICTUREを指定していない
- 0794 KEY指定でSOURCE構文を使用している
- 0795 END PROGRAM（値）がない
- 0796 再定義された集団項目がSYNCにより再割当された．これは許されない
- 0797 COBOLでは使用できない文字（文字）がある
- 0799 COLUMN句にはSOURCE/SUM/VALUE句も必要である
- 0800 外部コンパイラモジュールからの要求に誤りがある
- 0801 外部コンパイラモジュールのメッセージである
- 0802 SQL構文で定義されたデータ名が長すぎて修正できない
- 0803 統合プリプロセッサのメッセージである
- 0804 ソース行の整数値が限界に達した

- 1001 **コラム7に\* , D , / , - , \$以外の文字がある . 空白とみなす**
- コラム7に記述されている文字に誤りがあります。COBOLシステムがコラム7の文字を翻訳できないので、空白として扱います。
- 1002 **この場所での継続文字は無効である . 空白とみなす**
- コラム7にハイフンがあります。しかし、構文を継続する必要はありません。継続文字は無視されます。
- 1003 **継続された定数の最初の文字が引用符でない . 引用符とみなす**
- コラム7に継続文字がありますが、引用符を使用して定数を継続することを行っていません。COBOLシステムは、引用符が含まれているものと想定します。
- 1004 **継続文字が必要である . 定数の終わりとみなす**
- 原始コードの1つ前の行にある定数が引用符によって区切られていません。COBOLシステムは、コラム7に継続文字を記述して定数を継続することを要求しています。COBOLシステムは、1つ前の行で定数の記述が完了したと想定しました。
- 1005 **名前の最後にハイフンがある . 記述どおり処理する**
- 利用者定義の名前にハイフンを最後の文字として使用していますが、これはCOBOL構文の規則に従っていません。COBOLシステムはこれを有効な名前として受け入れましたが、名前の変更は行っていません。
- 1006 **COBOL語が31文字以上ある . 30文字で切り捨てる**
- 指定した名前の長さが30文字を越えています。COBOLシステムは、これを最初の30文字からできている名前として取り扱います。
- 1007 **VALUE句の定数サイズ ( サイズ1 ) > データ項目サイズ ( サイズ2 ) . 定数を切り捨てる**
- VALUE句で指定した定数は長すぎてデータ項目に格納されません。COBOLシステムは、データ項目が満たされるまで、定数からデータ項目に文字を挿入します。
- 1008 **2バイト定数は偶数バイトでなければならない . 1バイト定数を切り捨てる**
- すべての2バイト文字セット ( DBCS ) 記号は2バイト ( 2文字 ) の長さです。奇数の文字数で構成される定数が指定されています。COBOLシステムは、定数の最後の1文字を無視します。

**1009 2バイト定数の終了区切り文字がない．区切り文字があるとみなす**

- 2バイト文字セット（DBCS）定数の終わりを示す引用符が含まれていません。COBOLシステムは、ここで定数が終わると想定しています。

**1010 文字定数の長さがゼロである．空白1文字があるとみなす**

- 原始コードで定義した英字、または英数字の定数が空です。すなわち、1組の引用符で囲まれた中に文字がありません。COBOLシステムは、定数にスペース1文字が含まれると想定しています。

**1011 2バイト定数の長さがゼロである．2バイト定数が1文字あるとみなす**

- 原始コードで定義した2バイト文字セット（DBCS）定数が空です。すなわち、1組の引用符で囲まれた中にDBCS文字がありません。COBOLシステムは、定数は2文字で、空白の値を持つと想定しています。

**1012 DIVISIONがないかスペルに誤りがある．DIVISIONがあるとみなす**

- 語DIVISIONが、部の見出しにないか、またはスペルに誤りがあります。COBOLシステムは、語DIVISIONがあると想定しています。

**1013 SECTIONがないかスペルに誤りがある．SECTIONがあるとみなす**

- 節の見出しに語SECTIONがないか、またはスペルに誤りがあります。COBOLシステムは、語SECTIONがあると想定しています。

**1014 終止符がない．終止符があるとみなす**

- COBOL構文の規則が要求する箇所に終止符がありません。COBOLシステムは、終止符があると想定しています。

**1015 OCCURS句の整数-1がOCCURS句の整数-2より大きい．整数-1をゼロとみなす**

- 原始コードに、OCCURS 整数-1 TO 整数-2 DEPENDING句が含まれています。しかし、整数-1の値は整数-2の値より大きくなっています。これはCOBOL構文の規則に従っていません。COBOLシステムは、整数-1の値を効率の良い変更を行ってゼロにします。

**1016 SIGN句のCHARACTERの前にSEPARATEが必要である．SEPARATEがあるとみなす**

- SIGN句のコーディングに誤りがあります。不要な語CHARACTERが含まれていますが、必要な語SEPARATEがありません。COBOLシステムは、SIGN句が、SIGN IS LEADING（またはTRAILING） SEPARATE CHARACTERと記述されたものとみなします。

**1017 ファイル節または通信節の01レベルの項目に対してのREDEFINESは無視する**

- ファイル節、または通信節で01レベルのデータ項目を再定義しようとしています。FD項、またはCD項に記述した01レベル項目は、暗黙的に再定義したことになります。

**1018 VALUE句はここには使用できない。句を注記として処理する**

- ファイル節、または連絡節で定義したデータ項目に初期値を指定しようとしています。VALUE句は無視されます。

**1019 符号なしの数字定数が必要である。符号を無視する**

- 不要な箇所に符号を指定しようとしています。例えば、AFTER ADVANCING+1句、またはBEFORE ADVANCING-2句をWRITE文に対して使用しています。COBOLシステムはその符号を無視し、さらに数字を正の値として処理します。

**1020 符号なしの数字項目である。VALUE句の符号を無視する**

- PIC 9の形式で数字データ項目を定義していますが、符号付き数字を初期値として指定しています。COBOLシステムは指定された符号を無視します。負の数値を数字項目に転記しようとすると、正しい結果にはなりません。

**1021 COMP-6からCOMPへの変換で遊びバイトを追加する**

- COMP数字データ項目へ変換されたCOMP-6数字データ項目を含む、RM/COBOLから変換されたプログラムを使用しています。変換の結果、数字データ項目へのデータ領域の割り当てがさらに減少したのでCOBOLシステムは、必要に応じてその領域を補填するために先行2進ゼロを追加します。

**1022 表項目が添字付けまたは指標付けされていない。1回の反復とみなす**

**1023 WORKING-STORAGE SECTIONが必要である。作業場所節の始まりとみなす**

- プログラムが01レベル記述項で始まっています。これは作業場所節の最初の項目であると想定されます。

**1024 VALUE句の定数がPICTURE句に対応していない。値を空白に変更する**

- 文字データ項目に対して数値が指定されています。データ項目は空白で初期化されます。

**1025 編集項目から編集項目への転記である-英数字項目の転記として扱う**

- 編集項目から別項目への転記は、英数字の転記として処理されます。

**1026 送り出し側が文字定数である-代わりにゼロを転記する**

- MOVE文が、文字定数を数字データ項目へ転記しようとしています。これは不可能です。不正確な結果になるのを回避するため、ZEROが受取り側データ項目へ転記されます。

**1027 数字定数である-文字定数として扱う**

- 数字定数が文字データ項目に関して使用されています。例えば、88レベル文字データ記述項の値として使用されています。定数は英数字定数に変換されます。

**1028 命令文は英字データ項目を参照してはいけない**

- 無効なデータを英字データ項目に含めてしまう文があります。COBOLシステムは記述されたとおりに文を実行します。

**1029 非整数を英数字項目に転記している**

- MOVE文が、非整数項目を英数字データ項目へ転記しようとしています。小数点は無視され、整数項目であるように転記されます。

**1030 同じ領域を共有している2つのファイルを整列または併合することはできない**

- SORT、またはMERGE文で指定された2つのファイルは、同じ領域を共有するものとして定義されています。ファイルは異なる領域を割り当てられます。

**1031 整列用ファイルを複数のSAME SORT (-MERGE) AREA句に指定している**

- SORTファイルは2つ以上のSAME SORT (-MERGE) AREA句で参照されています。ファイルは異なる領域を割り当てられます。

**1032 2つのファイル名を同じSAME RECORD AREA句に違法に指定している**

- SORT、またはMERGE文で指定された2つのファイルは、同じレコード領域を共有するものとして定義されています。ファイルは異なるレコード領域を割り当てられます。

**1033 2つのファイル名を同じSAME SORT (-MERGE) AREA句に違法に指定している**

- SORT、またはMERGE文で指定された2つのファイルは、同じSORT (-MERGE) 領域を共有するものとして定義されます。ファイルは異なるSORT-MERGE領域を割り当てられます。

**1034 送り出し側項目が英字または英数字編集項目である-英数字として扱う**

- 英字、桁よせ英字、編集英字、または編集英数字の項目を、数字表示の項目へ転記しました。送り出し項目は、数字項目のように処理されています。

- 1035 キーが最小レコード長より大きい
- 指定されたキーの長さが、レコードの最小サイズより大きくなっています。
- 1036 入り口名が違法である
- 1037 外部レコードにはデータ名を指定しなければならない-EXTERNALを無視する
- 1038 RECORDキーまたはALTERNATEキーが他のキーと同じ開始位置にある
- 指定されたキーは、ファイルのレコードの開始位置が1つ前に定義されたキーに対するものと同じです。
- 1039 構造情報にエラーがある．構造図を作成しない
- PERFORM THRU文が宣言部の節を実行するプログラムの構造を、アニメートしようとしています。
  - 通常のアニメートは実行されますが、構造のアニメートは実行されません。
- 1040 ALL句はここに指定できない-ALLを無視する
- 1041 データ項目のサイズがゼロであるか集団項目が完全でない．初期値ゼロとみなす
- 1042 数字項目を英字データ項目に転記しようとしている
- 1043 PERFORM文が再帰的である
- 1044 SLOADのロードに失敗した-STRUCTを無視する
- 1045 POINTERの容量を越えてしまう可能性がある
- 1046 ホスト変数名が一意でない場合、修飾したとしても問題を引き起こす可能性がある
- 1047 文を無視する-CHAIN文の実行が不成功の場合、プログラム終了の原因になる
- 1048 2バイト文字定数が無効なデータを含んでいる
- 1049 KEY句は順ファイルのREAD文に指定できない-KEY句を無視する
- 1050 IF文に無効な条件がある
- 1051 左から右に評価した値が正常な算術式の優先順位と異なる
- 1052 ALLが複数指定されている-重複している指定を無視する
- 1つのALL定数に語ALLが複数指定されています。

- 実際には余計な記述は無視されますが、語ALLの繰り返し部分を削除したほうがよいでしょう。

- 1053 複数の01レベルのEXTERNALレコードが同じ名前である-同一レコードとみなす
- 1054 可変長集団項目を再定義しているか再定義されている
- 1055 要求されたSQLSTDVLはDBMのバージョンに適合しない-指令を無視する
- 使用しているデータベース管理プログラムに対して、効力のない指令を設定しています。
- 1056 CALL-CONVENTIONが一般形式の記述と一致しない
- 1057 REFERENCE/CONTENT/VALUE句が一般形式の記述と一致しない
- 1058 パラメータの数が一般形式の記述より多い
- 1059 パラメータが一般形式に定義された形式で成り立っていない
- 1060 DELIMITED句は英数字項目にだけ使用できる
- 1061 前述のCALL文は一般形式に対応するパラメータより数が少ない
- 1062 EXTERNALプログラムでは使用できない
- 1063 EXTERNAL指定はINITIAL句やCOMMON句と一緒に使用できない
- 1064 定数を違法に使用している
- 1065 OOPS: SELFはFACTORYプログラム内部でだけ使用できる
- 1066 OOPS: SUPERは使用できない-FACTORYはINHERITING句を指定できない
- 1067 OOPS: RETURNING句はMETHODに使用できない
- 1068 OOPS: FACTORY-NAME (FACTORY名)がSPECIAL-NAMESにない
- 1069 A領域にある一意名が手続き名とみなされた。前に終止符がない
- 1070 OOPS: FACTORYプログラムの構造が間違っている
- 1071 OOPS: 継承に対して要求されたOBJECT-STORAGE節がない
- 1072 OOPS: PROGRAM-IDに使用できない、OBJECT
- 1073 LOCAL-STORAGEはPERFORM-TYPE (MF)にだけ使用できる。PERFORM-TYPE (MF)とみなす

- 1074 OOPS: INVOKE<データ項目>はOOPSランタイムではまだサポートされていない
- 1075 RECORD句とRECORDING MODE句の無効な組合せ
- 1076 部分参照の長さは実行時には8191を越えてはいけない
- 1077 ホスト変数名がデータベース・エンジンの許す長さを越えている-切り捨てる
- 1078 内部指令および条件付きコンパイルを設定している
- 内部指令（\$SET文）および条件付きコンパイルが選択したフラグ仕様と矛盾しています。
  - コードが選択されたフラグ仕様を満たすようにコメント内に埋め込み指令を設定できます。この機能を使用するには、DIRECTIVES-IN-COMMENTSコンパイラ指令を設定する必要があります。
- 1079 正の整数が必要である．正の整数とみなす
- 正の整数が必要な箇所で負の整数を使用しています。
- 1080 奇数個の16進数字を指定している
- 16進定数はペアで指定しなければなりません。奇数個の文字で構成された定数が指定されています。先行ゼロとみなします。
- 1081 255を超えるBLLセルを指定している
- 1082 ソース行が長すぎる
- ソース行が80文字を超えています。選択されたフラグ仕様では、これをサポートしていません。
- 1083 可変長のレコード構造にRECORDING MODE IS Fを指定している
- 1084 00:OBJECT-STORAGE SECTIONがない．クラス拡張には必要である
- 1085 従属データ項目（項目）が作成された
- 1090 定数にSBCSカタカナ文字が含まれている
- 1091 定数にDBCSまたはSBCSカタカナ文字が含まれている
- 1092 ソースで使用しているSBCSカタカナ文字は移植できない

**1101 終止符と終止符の間にCOBOL文がない**

- 終止符の直後にもう一つ終止符を打っています。これは、COBOL構文の規則に反してはいませんが、プログラムの誤りを表示している可能性があります。例えば、この箇所に原始コードが1行記述されることになっていたのかもしれませんが。

**1102 原始文が空白行である．この行を無視する**

- カラム7にハイフンが置かれていますが、その行の残りの部分にはコードが入っていません。正しく継続するには、次の行にもカラム7にハイフンがなければなりません。

**1103 一連番号の順番を誤っている．または番号がない**

**1104 ファイル節に77レベル項目がある．01レベルとして処理する**

- ファイル節でデータ項目にレベル77が割り当てられていますが、これはCOBOL構文の規則に反しています。COBOLシステムは01レベルでコーディングしたものとして処理をしています。

**1105 CORRESPONDING項目がない．この文を無効とする**

- COBOLシステムはCORRESPONDING句に対応するデータ項目を見つけることができませんでした。したがって、この文に対する中間コードは作成されません。

**1106 BYの作用対象にゼロが指定されている．記述どおり処理する**

- PERFORM動詞に対してBY指定を行っていますが、増分値にゼロを指定しています。COBOLシステムはこの文を実行するコードを作成しますが、値は増加しません。

**1107 命令文がCOMP形式を超えている**

- 記述されたCOMPサブセットコードは、さらに効率よく実行できるよう書き直すことができます。効率のよいコードの記述については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

**1108 符号付き数字と集団項目を比較している．英数字項目の比較として処理する**

- 符号付き数字項目を集団項目と比較するようにコーディングされています。COBOLシステムは、符号付き数字項目を英数字項目として取り扱って比較をします。符号付き数字項目を基本項目と比較してもさしつかえありません。

**1109 WITH DEBUGGING MODEが指定されていない . この節を無視する**

- 手続き部の宣言部分の節に、USE FOR DEBUGGING文が含まれています。しかし、WITH DEBUGGING MODE句が翻訳用計算機 (SOURCE-COMPUTER) 段落に含まれていません。COBOLシステムは、この節のすべてのコードを無視します。

**1110 最初の定数が2番目の定数より大きい . 記述どおり処理する**

- ALPHABET句において、指定された最初の定数が2番目の定数より大きい値を持っています。例えば、P THRU Dです。COBOLシステムはそのまま受け入れ、文字は逆の順序で処理されます。

**1111 区域外書き出しである . 記述どおり処理する**

- 表の範囲を超えて項目にアクセスしようとしています。COBOLシステムは、表の範囲を超える行にアクセスするコードを生成します。しかし、この結果は定義されません。

**1112 標準にない機能を強制実行する適合性指令である**

**1113 無条件文がない-CONTINUEとみなす**

- プログラムに条件文があり、その後に無条件文がありません。COBOLシステムはこのコードを実行しますが、この結果は定義されません。

**1114 句を注記として扱う**

- 2つ以上の外部ファイルの参照を、SELECT ... ASSIGN句に割り当てています。COBOLシステムは最初の外部ファイル参照を受け入れますが、この句のそれ以外の外部ファイル参照は注記として扱います。

**1115 SAME AREAをSAME RECORD AREAとして扱う**

- DG対話型COBOLからこのCOBOLに変換された、SAME AREA句を持つプログラムが使用されています。COBOLシステムは、この句をSAME RECORD AREA句として使用したと想定します。

**1116 ACCEPTの修飾語を表示だけの項目に使用している-修飾語を無視する**

- DISPLAYだけの項目、またはDISPLAY文に使用された修飾語は、ACCEPT文にだけ使用できます。これは無視されます。

**1117 浮動挿入とゼロ抑制の両方を指定している-浮動挿入として扱う**

- 例えば、PIC++Z .ZZは、PIC+++ .++として扱われます。

**1118 指標名が違う表のものである**

- 表項目に添字を付けるために使用する指標は、この表に対するINDEXED BY句の中で使用されるものではありません。結果は予測できません。

**1119 レコード・サイズ(サイズ1) < FD文で定義された最小サイズ(サイズ2)**

- FD句に続くレコードの定義が、そのFD句のRECORD CONTAINS指定の中で指定された最小サイズより小さくなっています。

**1120 レコード・サイズ(サイズ1) > FD文で定義された最大サイズ(サイズ2)**

- FD句に続くレコードの定義が、そのFD句のRECORD CONTAINS指定の中で指定された最大サイズより大きくなっています。

**1121 ファイル,連絡,LOCAL-STORAGE節のVALUE値である-注記として処理する**

- ファイル節または連絡節のデータ項目に初期値を設定することはできません。指定されたVALUE句は無視されます。

**1122 終止符の後は空白にすること**

- どんな場合でも終止符の後は空白でなければなりません。

**1123 NAMEDもCHANGEDも指定していない . 定様式の表示として扱う**

- EXHIBIT文が、NAMED指定またはCHANGED指定なしで使用されています。その結果は、各々の項目をスペースで分割させる形式で表示されます。

**1124 CALL文のパラメータが定数(またはLENGTH OF)である . BY CONTENTとみなす**

- RM/COBOLからこのCOBOLに変換されたCALL ... USING 定数の文を持つプログラムが使用されています。COBOLシステムは、この文をCALL ... USING BY CONTENT 定数であると想定します。

**1125 句読文字の後に空白がない . 空白があるとみなす**

- 句読文字の後には、空白がなければいけません。

**1126 句読文字の前に空白がない . 空白があるとみなす**

- ANS185に従うと、比較演算子「=」は、COBOLの予約語とみなされます。予約語はすべて、その前後を空白にしなければいけません。

- 1127 **このMOVE文を使用すると2バイト文字を破壊する可能性がある**
- このMOVE文は、2バイトデータ項目の中の1バイトを変換することにより、その項目値を破壊する可能性があります。
- 1128 **原始プログラムにSTOP RUN,GOBACK,EXIT PROGRAMのどの文も存在しない**
- 原始コードにSTOP RUN、GOBACK、またはEXIT PROGRAM文がありません。COBOLシステムは、プログラムの最後の行の後に、EXIT文とそれに続くSTOP RUN文を自動的に挿入しますが、影響はありません。
- 1129 **命令文の実行が完了しない**
- プログラムの流れが、フラグで示された文の実行を妨げています。
- 1130 **ファイル名の接頭語を注記として扱う**
- 1131 **命令文は実行可能コードが生成されない**
- このエラーは、例えば、INITIALIZE文からコードが何も作成されなかった場合に起きます。これは、この文をプログラムから除去できることを示しています。エラーを無視しても、影響はありません。
- 1132 **2バイト文字定数の内容を確認することはできない**
- COBOLシステムは、DBCS(2バイト文字)定数の内容が有効かどうかチェックできません。内容が無効な場合、予測できない結果になります。
- 1133 **SQL警告または回復可能なエラー**
- SQLプロセッサが生成した警告です。詳細についてはSQLマニュアルを参照してください。
- 1134 **記述項名を次のOS/VS COBOLおよびVS COBOL IIの規則に従って変換する**
- 1135 **ファイルにOPEN文がない**
- 1136 **ファイルにCLOSE文がない**
- 1137 **複数レコードをロックするファイルにKEPT句がない**
- KEPT指定が、複数のレコードをロックするファイルに対して行われていません。
- 1138 **名前を(文字)文字で切り捨てる**
- 1139 **SQLホスト変数が適切なデータ形式でない**

- 1141 名前が8文字より長い
- 1142 名前がOS/VS COBOLやVS COBOL IIによって変更される文字を含んでいる
- 1143 名前がOS/VS COBOLやVS COBOL IIでは違法となる文字を含んでいる
- 1144 文字列はSQLから戻ってきたときはNULLになっている
- 1145 キーのDUPLICATES句指定は整列を低速にする:可能ならば除去すること
- 1146 (手続き名)が複数のPERFORM文の範囲に存在する
- 1147 PERFORM (手続き名) THRU (手続き名) の手続き名の指定が逆である
- THRUの後の手続き名が、THRUの前の手続き名よりも原始プログラムの中で先に現れます。
- 1148 区分化を入れ子のプログラム内に指定している-無視する
- 1149 作用対象(データ名)が受け取り側において二つの意味にとれる
- MOVE文、ADD文、SUBTRACT文のCORRESPONDING指定において、送出し側集団は項目であり、データ名でもあって、受取り側集団において二通りに解釈できます。
  - データ名は送り側と受取り側との両方に存在しますが、MOVE、ADD、SUBTRACTの生成には関係がありません。これはANSIで定義された機能に従っています。
- 1150 内部浮動小数点項目の再定義は移植できない
- 1151 送り出し側と受け取り側の開始位置が重複している転記の結果は予測できない
- 指定したMOVEは、受け取り側項目の開始位置が送り出し側項目の終了位置の前にあります。そのために、項目が重複しています。
- 1152 浮動小数点データをともなう比較は移植できない
- 1153 このデータ形式のメインフレーム値はPC上では取扱うことはできない
- 1154 PCはメインフレーム上で扱えないこのデータ形式の値を扱うことができる
- 1155 PANVALETとLIBRARIANの両方を指定している-メインフレームとの互換性はない
- 1156 SD項にBLOCK句やLABEL句は指定できない。無視する
- 1157 編集項目にJUSTIFIEDを指定している
- 1158 CBL PROCESS \*CBL,\*CONTROLレコードに遭遇した。指令を無視する

- 1159 先頭のハイフンの次にある名前の一部を注記とみなす．注記を無視する
- 1160 先頭の命令文の前にある変更文はチェックできない．無視する
- 1161 段落か節の定義が変更されている．無視する
- 1162 手続きとして（項目）を定義しようとしている．無視する
- 1163 ANIMATORの制限-この命令文をチェックできない
- 1164 GNTANLZ（COUNT）指令ではブロック定義が多すぎる-GNTANLZ（TICK）で再コンパイルする
- 1165 GIVINGオプションを注記として処理する
- 1166 BLANK WHEN ZEROを無視する
- 1167 COMP-5のデータ形式を使用している
- 1168 COMP-5を再定義している
- COMP-5データ項目を再定義しています。他の環境にプログラムを移植すると、矛盾が生じる可能性があります。
- 1169 COMP-5項目を再定義している
- COMP-5データ項目で参照修正を使用しています。他の環境にプログラムを移植すると、矛盾が生じる可能性があります。
- 1170 非整数の作用対象は数字以外の作用対象と比較できない
- 1171 符号付き数字項目を含む集団項目で数字クラスをテストしている
- 1172 BLLセル項目が不正である
- 1173 BLLセルのアドレス可能性が無効である
- 1174 数字定数同士を比較している
- 1175 同期化が最適ではない
- 1176 S定数の長さがデータ項目よりも大きい
- 1201 ゼロ抑制のPICTURE文字列がBLANK WHEN ZERO句を上書きしている
- 1202 元の項目が再定義した項目より大きい（サイズ1>サイズ2）

- 1203 LABEL句を注記として処理する
- 1204 BLOCK CONTAINS句を注記として処理する
- 1205 前の段落または節に命令文がない
- 1206 手続き部が節で始まっていない
- 1207 元の項目が再定義した項目より小さい(サイズ1<サイズ2)
- 1208 USE句がない
- 1209 COMP-5は環境に依存する(このメッセージは以後表示されない)
- 1210 COMPを表示として処理する(このメッセージは以後表示されない)
- 1211 COMP-6をCOMPとして処理する(このメッセージは以後表示されない)
- 1212 COMP-1をPIC S9(4) COMPとして処理する(このメッセージは以後表示されない)
- 1213 COMP-0フィールドをDISPLAY形式に変換するとS9(5)を超える
- 1214 COMP-0をPIC S9(4) COMPとして処理する(このメッセージは以後表示されない)
- 1215 UNIT句を注記として処理する
- 1216 定数が160文字を越えている
- 1217 (手続き名)が78レベル項目名と同じである
- 1218 RERUN句を注記として処理する
- 1219 REPLACEが実際にはない
- 1220 COMP-4をPIC S9(9) COMPとして処理する(このメッセージは以後表示されない)
- 1221 COMP-4フィールドをDISPLAY形式に変換するとS9(10)を超える
- 1222 符号の付かないCOMP-3を符号付きのCOMP-3に変換する
- 1223 BLANK WHEN ZERO句がゼロ抑制のPICTURE文字列を上書きしている
- 1224 MEMORY SIZE句を注記として処理する
  - MEMORY SIZE句は、注記として扱われます。

- 1225 **MULTIPLE FILE TAPE句を注記として処理する**
- MULTIPLE FILE TAPE句は、注記として扱われます。
- 1226 **COMMONは入れ子のプログラムだけに使用できる-注記として処理する**
- COMMONとして定義されたプログラムは、主プログラムであって入れ子構造のプログラムではありません。
- 1227 **(値)暗黙的な範囲符を生成する**
- 1228 **移植不可能な語である;OS/400での予約語**
- 1229 **移植不可能な語である;VSC2(3)での予約語**
- 1230 **移植不可能な語である;OS/2 COBOLでの予約語**
- 1231 **構文がSAAに適合しない**
- 1232 **使用しているMicro Focus構文は以前の製品のものである**
- 1233 **指令またはパラメータ(項目)は以前の製品のものである**
- 1234 **(データ名)は文の中のCORRESPONDING項目である**
- 1235 **78レベル項目(データ名)の定義が矛盾している**
- 1236 **78レベル項目(データ名)の定義が重複して等価になっている**
- 1237 **REENTRANT指令にファイル操作を使用している**
- 1238 **REENTRANT指令およびユーザーコードまたは他の指令と矛盾している**
- 1242 **VALUE句を含む集団項目の記述項のUSAGEはDISPLAYとする**
- 1243 **正の値ではない値が1に変わった**
- 1244 **コンソールデバイスでは、WITH NO ADVANCING指定は無効である**
- 1245 **大文字でなければならない**
- COBOLランタイム・ライブラリ・ルーチン(名前がCBL\_で始まる)の呼出しが部分的にまたはすべて大文字で指定されています。これは移植不可能なルーチンであり、名前を大文字小文字で区別するオペレーティングシステム上では動作しません。

- 1246 作用対象が複数ない．デフォルト値が1である
- 参照する表項目に次元数よりも少ない数の添字が指定されています。すべてのデフォルト値を1にして添字を追加します。
- 1247 MOVEを切り捨てる．送り出し側の長さ（長さ）が受け取り側の長さ（長さ）を超えている
- 1248 関数の引数が無効である．日付YYYYMMDDは15821014以後とする
- 1249 関数の引数が無効である．日付YYYYDDDは1582287以後とする
- 1250 組み込み関数モジュールまたは関数を選択された仕様で使用できない
- 1251 src表の長さがdest表の長さより大きい場合、結果はSNIと矛盾する
- 1252 このデータ宣言にはレベル4以上の抽象マシンが必要である
- 1253 論理項目ではTHRUは許されない
- 1300 インタフェース名が必要である
- 1301 クラス名が必要である
- 1302 クラス名またはインタフェース名が必要である
- 1303 OBJECTまたはFACTORYには、PROPERTY句だけ指定できる
- 1304 リポジトリーにメソッドがない
- 1305 普遍オブジェクト参照は使用できない
- 1306 オブジェクト参照の再定義は不正である
- 1307 REDEFINES句のオブジェクト参照は不正である
- 1308 オブジェクト参照またはポインタではVALUE句は不正である
- 1309 INPUT-OUTPUT節は使用できない
- 1310 FACTORYまたはOBJECT定義では使用できない
- 1311 METHOD定義では使用できない
- 1312 クラス定義の外部レベルでは使用できない
- 1313 INTERFACE定義では使用できない

1314 LOCK MODE句はファイル制御記述項で指定すること

2nnn 指令がフラグ仕様と矛盾している

- 指令設定により、選択されたフラグ仕様の指令とは異なる動作になっています。指令は要求どおりに処理されます。
- このタイプのメッセージは、FLAGCD指令を設定している場合に出力されます。通知される各指令には、2000から2199までの異なるエラー番号が振られています。

# 第3章：コード生成時のメッセージ

## 3.1 概説

この章で説明するメッセージは、コード生成時に表示されます。メッセージの中には、環境に左右されるものもあるので、ご使用の環境によりサポートされていない場合があります。

コード生成時に表示されるメッセージは、次の形式をとります。

NCG Error at INT Code Address - アドレス

\*nnn-S メッセージ

**アドレス** : チェッカーによって生成された中間コードでのアドレスです。これは、REF指令でプログラムをチェックし、チェッカーのリストを参照することで、プログラムソースと関連付けられます。ただし、通常これは必要ありません。この種のエラーの大部分は、プログラムがANIM指令でチェックされ、IDYファイルとソースファイルが現行ディレクトリにある間、ジェネレータにエラーのあるソース行を表示させるからです。

**nnn** : メッセージ番号

**S** : メッセージの重要度を示します。

**F** : 致命的エラー。

エラーを修正することはできません。コード生成を停止します。

**R** : 回復可能エラー。

回復可能なエラーは、コード生成の前に修正しなければならないので、コード生成を停止します。エラーを修正した後、プログラムを再度コンパイルして、コードを生成しなければなりません。

**C** : 警告。

無効な指令の組合せを指定したか、またはPERFORM文の最適化を実行できないことを示します。このメッセージが表示されても、コード生成は停止しません。また、生成コードの実行も停止しません。

## 3.2 メッセージ

### 002 中間コードファイルのオープンエラー（回復可能）

- 中間コードファイルが使用できません。ファイル名の指定に誤りがあります。
- 正しいファイル名を指定したことを確認してください。

### 003 生成コードファイルのオープンエラー（回復可能）

- ファイルを開くことができません。ディスクまたはディレクトリがいっぱいか、あるいは同じ名前の読取り専用ファイルがあります。
- ディスクまたはディレクトリがいっぱいの場合は、不要なファイルを削除してください。同じ名前の読取り専用ファイルがある場合は、そのファイルを削除してください。

### 004 リストファイルのオープンエラー（回復可能）

- ファイルを開くことができません。ディスクまたはディレクトリがいっぱいか、あるいは同じ名前の読取り専用ファイルがあります。
- ディスクまたはディレクトリがいっぱいの場合は、不要なファイルを削除してください。同じ名前の読取り専用ファイルがある場合は、そのファイルを削除してください。

### 005 一時ファイルのオープンエラー（回復可能）

- ファイルを開くことができません。ディスクまたはディレクトリがいっぱいか、あるいは同じ名前の読取り専用ファイルがあります。
- ディスクまたはディレクトリがいっぱいの場合は、不要なファイルを削除してください。同じ名前の読取り専用ファイルがある場合は、そのファイルを削除してください。

### 006 入力ファイルの読込みエラー . 中間コードではないかバージョンの誤り（回復可能）

- 1.指定した入力ファイルは中間コードファイルではありません。
- 2.中間コードファイルが、現在のバージョンと互換性のないCOBOLシステムで作成されました。
- 3.入力ファイルが破壊されています。
- 1.中間コードファイルを指定したことを確認してください。

### 007 生成コードファイルの書込みエラー（回復可能）

- ディスクがいっぱいになった可能性があります。
- 不要なファイルを削除してください。

**008 リストファイルの書込みエラー（回復可能）**

- ディスクがいっぱいになった可能性があります。
- 不要なファイルを削除してください。

**012 ディクショナリまたは動的ページングエラー（致命的）**

- ディスクがいっぱいになった可能性があります。
- ディスクがいっぱいの場合、不要なファイルをすべて削除してください。ご使用のマシンがサポートしている場合は、新しいディスクをフロッピーディスク・ドライブに入れ、プログラムのファイル操作を、このフロッピーディスクへ切り替えてください。ディスクがいっぱいではないのに、このメッセージが表示された場合は、テクニカル・サポートに連絡してください。

**013 違法な中間コードである（回復可能）**

- 誤りのある中間コードから生成コードを作成しようとしています。  
  
nnnnnnは中間コードのアドレス、mmは中間コードの区分番号を表します。
- 有効な中間コードを得るために、原始コードを再コンパイルしてください。

**014 IF文のレベルが多すぎる（回復可能）**

- IF文の入れ子構造が、64レベルを超えています。
- 入れ子が64レベルを超えないようにプログラムを変更してください。

**016 内部エラー．テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**

- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
- テクニカル・サポートに連絡してください。

**018 動的な障害である（項目を探索したが見つからない）（致命的）**

- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
- テクニカル・サポートに連絡してください。

**023 桁よせエラー．テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**

- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
- テクニカル・サポートに連絡してください。

- 027 **BY VALUEパラメータは8バイトより長くはいけない(回復可能)**
- 指定したBY VALUEパラメータが、8バイトより長くなっています。
  - CALL...USINGの並びのBY VALUE指定は、8バイト長以下の項目だけを参照するようにしてください。
- 028 **区分化されたプログラム-GNTANIMを無視する(警告)**
- 区分のあるプログラムから生成された .gntファイルをアニメートしようとした。
  - 元のプログラムから区分を除いてください。
- 035 **中間コードがANIM指令を使用して作成されていない(警告)**
- 中間コードを作成するときは、ANIM指令を指定しなければなりません。
- 038 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること(致命的)**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 039 **中間コード生成中にエラーが検出された(回復可能)**
- コンパイル時に重大なエラーが発見された中間コードから、コードを生成しようとしています。
  - 原始コードの重大なエラーをすべて修正してください。
- 040 **プログラム名または入口名が間違っている(回復可能)**
- PROGRAM-ID句、ENTRY...USING指定、または入力ファイル名のルートとして定義した名前を、システムアセンブラが正しく取り扱うことができません。
  - オペレーティングシステムの機能名に関する規則に従うように名前を変更してください。
- 041 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること(致命的)**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 042 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること(致命的)**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。

- 043 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 044 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 045 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 046 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 047 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 049 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 050 **内部エラー・テクニカル・サポートに連絡すること（致命的）**
- コード生成中に、COBOLシステムに内部エラーが発生しました。
  - テクニカル・サポートに連絡してください。
- 054 **BY VALUEまたはGIVING句で指定した項目が長すぎる（回復可能）**
- BY VALUEによって引き渡すことができるのは、4バイト以下のCOMP-5項目だけです。
  - COMP-5項目が4バイト以下であることを確認してください。

- 055 OPコードファイルが壊れている . またはマシンのタイプが不明である (回復可能)
- \$COBDIR/ncg .ops ファイルが壊れています。
  - ncg .ops ファイルをもう一度インストールしてください。
- 056 オプションは実行されない:"オプション名" (回復可能)
- この言語オプションは、このコードジェネレータではサポートされていません。
- 063 DEFFILEはOMF (OBJ) 指定だけに有効である . OMF (OBJ) があるとみなす (警告)
- 無効な組合せの指令を使用すると、COBOLシステムは適当な指令を想定して、無効な指令を有効にしようとします。
  - このメッセージを表示しないようにするには、NOWARNING指令を使用してください。
- 066 .IDYファイルの書き込みエラー (回復可能)
- ディスクがいっぱいか、または、チェックによって生成された .IDYファイルが読み込み専用と明示されています。
  - 不要なファイルを削除するか、または、.IDYファイルを読み書き用と明示してください。
- 068 IDYファイルが見つからない-GANIM,EANIM,SOURCEASMを無視する (警告)
- 069 原始ファイルが見つからない-SOURCEASMを無視する (警告)
- 070 指令ファイルのオープンエラー (回復可能)
- 075 CALL適用規則がサポートされていない (警告)
- 076 この命令文は効率の悪いコードを生成する (警告)
- 077 生成されたデータモジュールが大きすぎる (制限値=16Mバイト) (回復可能)
- 078 コードの再配置が多すぎる (制限値=(値)、実際値=(値)) (回復可能)
- 079 データの再配置が多すぎる (制限値=(値)、実際値=(値)) (回復可能)
- 080 記号テーブルの項目が多すぎる (制限値=(値)、実際値=(値)) (回復可能)
- 081 内部エラー . テクニカル・サポートに連絡すること . 一時レジスタの範囲外である (回復可能)

# 第4章： ランタイムシステム・メッセージ

## 4.1 概説

この章で説明するエラーは、ランタイムシステム (RTS) によって検出されるものです。エラーが発生するのは、中間コードを作成するために原始コードをコンパイルするとき、ANIMATORを実行するとき、生成コードを作成するとき、またはCOBOLプログラムを実行するときです。

これらのメッセージの中には、環境に左右されるものもあるので、ご使用の環境によりサポートされていない場合があります。

RTSエラーは、正しい構文のプログラムであっても、実行しているときに問題が生じた場合に検出されます。誤ったモードでファイルにアクセスしようとしたり、壊れているファイルを使用したりするときに、エラーが検出されます。ランタイムシステム・エラーは、このように環境に依存するので、対処の方法も、エラーが発生した状況によって、かなり変わってきます。

### メッセージの形式

- DOS、OS/2、Windowsのもとで、COBOLシステムを使用する場合

メッセージは、次の2つの形式のいずれかで表示されます。

```
Run time error number: nnn
または
[Error accessing file: filename      programname
segment: ss error nnn at COBOL PC   xxxxH
[Description: textdescription]
```

nnn	:	エラー番号。
filename	:	エラーが発生したデータファイルの名前。"?"の場合は、ファイル名が不明。
programname	:	実行中のプログラムの名前。
ss	:	実行中の区分の番号 (ROOTに対してはRT)。
xxxx	:	プログラム・カウンタの位置 (16進数)。
textdescription	:	エラーの説明。

2番目の形式では、最初のオプション行は、COBOL I/Oエラーの場合だけ出力されます。次のオプション行は、RTS .ERRファイルをオープン・ライブラリで使用できる場合だけ出力されます。

- UNIXのもとでCOBOLシステムを使用する場合

メッセージは、次の2つの形式のいずれかで表示されます。

```

action error   :   file 'file-name'
error code    :   yyy, pc=nnnnnnnn, call=m, seg=x
999 message-text
または
rts 32       :   message

```

action : メッセージが発生したときにランタイムシステムが行っていた処理。  
(例:実行、入出力、ロード、書込み)

file-name : ランタイムシステムが処理をしていたファイル名。

yyy : ランタイムシステム・メッセージの番号。

または、入出力エラーの場合のファイル状態値。

ファイル状態値が示されている場合は、その時点のファイル状態のマップも表示。

nnnnnnnn : プログラムカウンタのアドレスを示す16進数。

コンパイラ・オプションREFを使用することにより、  
原始プログラムへの関連づけが可能。

M : エラーのあるプログラムを識別するために  
内部で使われる数。

0の場合      主プログラム内のエラー

1以上の場合   副プログラム内のエラー

x : エラーのある区分を識別する数。

0の場合      ルート内のエラー

51~99の場合   オーバレイ内のエラー

999 : ランタイムシステム・メッセージの番号。

message-text : メッセージ番号に対応するメッセージ。

message : 「メッセージのためのメモリ空間が不十分である」

または

「エラーyyyを処理する際の致命的エラー」

(yyyはメッセージの番号)

## 4.2 エラーの種類

ランタイムエラーには「例外」と「I/Oエラー」の2種類があります。「I/Oエラー」には致命的な場合と、回復可能な場合があります。回復可能なエラーは、オペレーティングシステムによって報告されるので、エラーを割り出し、修正して回復させることができます。「例外」は、報告されない致命的なエラーなのでエラーを割り出すことはできません。

### 4.2.1 -1 例外

致命的なエラーです。算術的オーバーフロー、PERFORMの入れ子レベル数が多すぎる、範囲外の添字、などが該当します。

### 4.2.2 -2 I/Oエラー

致命的エラーと回復可能エラーとがあり、次のいずれかの動作が行われます。

- エラーが発生したファイルにFILE STATUS句を指定しなかった場合は、致命的エラーとして扱われます。すなわち、ランタイムシステムが、4.1「概説」で述べた形式でコンソールにメッセージを表示して、プログラムはただちに終了します。ファイル状態の定義については第5章「ファイル状態コード」を参照してください。
- 関係するファイルにFILE STATUS句を指定してある場合、値"9" (オペレーティングシステム・エラーメッセージを受け取ったことを意味します) が状態キー1に入れられ、オペレーティングシステム・エラー、またはランタイムシステム・エラーの番号が状態キー2に入れられます。

各ファイル処理の後に、状態キー1を検査して、処理が成功したかどうかを確認しなければなりません。状態キー1の値がゼロであれば、ファイル処理が成功したことを示します。ほかの値の場合は、なんらかのエラー状態を示します。

エラー状態が報告された場合、プログラムの処置は、すべて利用者が行わなければなりません。エラーが報告されてもプログラムを終了しない場合、プログラムの動作は、予測していた結果にはなりません。

#### 4.2.2.1 致命的エラー

致命的エラーが起きると、エラーメッセージがコンソールへ出力され、プログラムはただちに終了します。

プログラム実行中にこのようなエラーを修復することはできませんが、プログラムが終了すれば、エラーの原因を修正することができます。ランタイムシステム・エラーメッセージの説明の中には、それぞれのエラーに対する処置のための手がかりが述べられています。

#### 4.2.2.2 回復可能エラー

プログラム中の回復可能なエラーを割り出すことはできますが、エラーに対する処置は利用者が行われなければなりません。

#### 4.2.3 -3 エラーに対する処置

ファイルエラーが表示された場合、利用者は多くの対処方法の中から1つを選ぶことができます。利用者は、プログラムにエラーメッセージを表示させ、（可能なら）すべてのオープンファイルをクローズさせて終了させることができます。これにより、ファイルに書込まれたデータを保存することができます。エラーを割り出さないと、このデータは失われます。

エラーを修復し、プログラムの実行を続ける場合は、特定のエラーを報告する処置を取るようにコーディングしてください。例えば、「ファイルが見つかりません」というエラーを受け取ったとき、オペレーティングシステムがサポートしていれば、指定したドライブに、必要なファイルが入っているディスクを挿入するように、プログラムから促すことができます。

この章の後の部分に、エラーを修復する方法の手がかりが述べられていますが、手がかりに従うことができるのは、プログラムがそれらを利用できるようにコーディングされている場合だけです。

回復可能なエラーを取り扱うプログラムをコーディングする方法を、以下に示します。

- AT END句（状態キー1が値1かを検査する）か、またはINVALID KEY句（状態キー1が値2かを検査する）を適切な箇所で使用してください。この場合、FILE STATUS項目を宣言する必要はありません。

- 状態キー1が、AT ENDまたはINVALID KEY句を持たないすべてのファイル処理について、ゼロではない（処理が正しく行われなかった）ことを検査する宣言部分を使用してください。この場合、FILE STATUS項目を宣言する必要があります。
- FILE STATUS項目を宣言し、状態キー1の値を検査してください。値が9であればランタイムシステム・エラーを示し、ゼロでなければファイル処理が正しく行われなかったことを示します。各ファイル処理の後で、状態を示すバイトを明示的に検査してください。
- FILE STATUS句、AT END句、またはINVALID KEY句を使用しないでください。この場合、ファイルエラーを受け取ると、ランタイムシステムはただちに終了します。この状況では、すべてのエラーメッセージは致命的なエラーとして扱われ、関係するランタイムシステム・エラーメッセージがコンソールへ表示されます。

## 4.3 メッセージ

### 001 バッファ・スペースが足りない(エラー001)

- (回復可能)
- ファイルを直接または間接に開こうとしている時に、システムのファイル制限を超えてはいますが、十分なメモリ空間を割り当てることができていません。
  - このエラーを割り出すことはできませんが、このエラーが報告されたらすぐにSTOP RUNを実行しなければなりません。

### 002 アクセス時にファイルがオープンしていない(エラー002)

- (回復可能)
- 最初にファイルを開かないで、ファイルにアクセスしようとしています。
  - 必要なモードでファイルを開いてから、再度処理を試みてください。このエラーメッセージはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますから、実行を終了してプログラムを修正してください。

### 003 逐次モードエラー(エラー003)

- (回復可能)
- 装置を相対ファイル、または索引ファイルとして開こうとしています。

プログラムでなく、装置を実行しようとしています。

- 正しいモードで装置を開くか、または開いているファイルを閉じてください。STOP RUNを実行してプログラムを修正してください。

利用者のプログラム名は、オペレーティングシステムによって有効な装置として認識されます。プログラム名を変更してください。

**004 違法なファイル名である (エラー-004)**

- (回復可能)
- ファイル名に違法な文字が含まれています。この文字は許容されている文字集合に含まれていないか、またはシステムに依存する区切り文字 (ほとんどのシステムでは空白) です。
  - 正しいファイル名を使用して、ファイル処理を再度試みてください。

**005 違法な装置指定である (エラー-005)**

- (回復可能)
- COBOLプログラムが書き込むことができる装置は、オペレーティングシステムによって定義されます。オペレーティングシステムによって定義されていない装置に書き込みをしようとしています。
  - システムが認識する装置名を使用して、処理を再度試みてください。

**006 INPUTモードでオープンされたファイルに書込もうとしている (エラー-006)**

- (回復可能)
- 入力用だけに開かれているファイルに、書き込みをしようとしています。
  - ファイルを閉じ、ファイルに書き込みができるI-Oのようなモードで、ファイルを開いてください。このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味していますので、実行を終了して、プログラムを修正してください。

**007 ディスク空間がない (エラー-007)**

- (致命的)
- ディスクがいっぱいです。
  - このエラーは割り出すことができますが、エラーが報告された場合は、直ちにSTOP RUNを実行してプログラムを終了してください。プログラムが終了したら、不要ファイルをすべて削除してください。あるいは、オペレーティングシステムがサポートしていれば、新しいディスクをフロッピーディスク・ドライブに挿入し、プログラムのファイル処理をこのディスクへ切り換えてください。

**008 OUTPUTモードでオープンされたファイルから入力しようとしている (エラー-008)**

- (回復可能)
- 出力用だけに開いたファイルを読込もうとしています。
  - ファイルを閉じ、ファイルの読み込みができるI-Oのようなモードでファイルを開いてください。このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味していますので、実行を終了しプログラムを修正してください。

#### 009 ディレクトリに領域がない(エラー009)

- (回復可能)
- 次のいずれかの理由により、システムは指定されたディレクトリに書き込みできません。
    - ディレクトリが存在しない
    - ディレクトリがいっぱいである
    - プログラムがディレクトリを見つけられない
  - ディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリを作成してください。ディレクトリがいっぱいの場合は、不要ファイルをすべて削除するか、またはオペレーティングシステムがサポートしていれば、新しいディスクをフロッピーディスク・ドライブに挿入し、プログラムのファイル処理をこのディスクへ切り換えてください。あるいは、ファイル処理用に別のドライブか、ディレクトリを指定してください。

#### 010 ファイル名を指定していない(エラー010)

- (回復可能)
- 外部ファイルとして宣言したファイルを開こうとしていますが、名前が指定されていません。
  - 外部ファイル名を指定してください。

#### 011 プロセスの制限に達した

- (致命的)
- 次のどちらかが発生しました。
    - 1ユーザーあたり、またはシステム全体のプロセス数がオペレーティングシステムの制限を超えたため、ランタイムシステムが新しいプロセスを作成できない。
    - 操作を完了させるのに使用できるメモリが足りない。
  - 不要なプロセスを終了するか、使用可能なメモリを確保してください。
  - オペレーティングシステムで処理可能なプロセス最大数を増やすこともできます。詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

#### 012 すでにオープンしているファイルをオープンしようとしている(エラー012)

- (回復可能)
- すでに開いているファイルを開こうとしていますが、再度開くことはできません。
  - 二度目にファイルを開こうとする試みをキャンセルしてください。ファイルを開いた状態のままであれば、プログラムの実行を続けてください。

**013 ファイルが見つからない(エラー013)**

- (回復可能)
- プログラムからアクセスしようとしたファイルを、オペレーティングシステムが見つめることができません。
  - ディレクトリが正しいこと、および関係するファイルへのパスが存在することを確認してください。その後、ファイル処理を再度試みてください。スペルの誤りの場合は、正しいファイル名に修正して、ファイル処理を再度試みてください。

**014 同時にオープンできるファイルの制限数を越えている(エラー014)**

- (回復可能)
- 同時に開くことができるファイルの最大数よりも多いファイルを開こうとしています。これは、ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの制約であり、従わなければなりません。
  - 現在アクセス中ではないファイルを閉じ、それから関係するファイルを再度開いてみてください。そうすれば、プログラムの実行を続けられます。オペレーティングシステムにもよりますが、開くことができるファイルの最大数を増やすことができます。

**015 オープンできる索引ファイルの制限数を越えている(エラー015)**

- (回復可能)
- 同時に開くことができる索引ファイルの最大数よりも多い索引ファイルを開こうとしています。これは、ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの制約であり、従わなければなりません。
  - 現在アクセス中ではない索引ファイルを閉じ、それから関係するファイルを再度開いてみてください。そうすれば、プログラムの実行を続けられます。索引ファイルは、データ用と指標用の2つのファイルとして数えるので注意してください。

**016 オープンできる装置ファイルの制限数を越えている(エラー016)**

- (回復可能)
- 同時に開くことができる装置ファイルの最大数よりも多い装置ファイルを開こうとしています。これは、ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの制約であり、従わなければなりません。
  - 現在アクセス中ではない装置ファイルを閉じ、それから関係するファイルを再度開いてみてください。そうすれば、プログラムの実行を続けられます。

**017 レコード・エラー:レコード長がゼロの可能性(エラー017)**

- (回復可能)
- 転記された値のないレコードにアクセスしようとした可能性があります。

- 割り出すことができるという意味では、このエラーは回復可能ですが、このエラーが報告されたらすぐにSTOP RUN文を実行し、COBOLレコード長がゼロでないように、プログラムを修正してください。

#### 018 レコード部分読みエラー: EORの前にEOFがあるかオープンモードの誤り (エラー018)

- (回復可能)
- ファイルの終わりにレコードの一部が見つかりました。その結果、ランタイムシステムはデータファイルを1つのレコードとして扱い、完全なレコードを見つけられないので、このエラーが報告されます。
  - ファイルを読み書きするときのレコードの大きさが一致していることを確認してください。

#### 019 再書きしエラー: オープンモードかアクセスモードに誤りがある (エラー019)

- (回復可能)
- この処理のための正しい呼出し法で開かれていないファイルに対して、REWRITEを実行しようとしています。
  - ファイルを閉じ、そのファイルにREWRITEできるI-Oのようなモードでファイルを再度開いてください。このエラーは、プログラムのロジックに誤りがあることを意味していますので、開いているファイルを閉じ、そのあとでSTOP RUNを実行してください。そして、プログラムを修正してロジック・エラーを取り除いてください。

#### 020 装置または資源が使用中である (エラー020)

- (回復可能)
- この時点では使用できない装置、または資源 (例: ラインプリンタ) に割り当てられたファイルを開こうとしています。
  - オープン操作が返したエラー状況を割り出すことができます。また、成功するまで、一定の間隔でオープン操作を何度も試みることができます。

#### 021 ファイルの代りにディレクトリが指定されている (エラー021)

- (致命的)
- ファイルではなくディレクトリへWRITEを試みました。  
属性が、ファイルへのアクセスを許可するように設定されていません。
  - ディレクトリへではなく、ファイルへWRITEするようにプログラムを修正してください。ファイル・アクセスの属性を変更するか、または、現在の属性に違反しないようにプログラムを修正する必要があります。

#### 022 違法または不可能なアクセスモードでオープンしている (エラー022)

- (回復可能)
- ファイルを開こうとしているモードは、そのファイルの種類についてのCOBOLの一般的規則に従っていません。例えば、行順ファイルをI-Oモードで開こうとしています。

- そのファイルの種類に適合するモードでファイルを開いてください。

#### 023 違法または不可能なアクセスモードでクローズしている (エラー023)

- (回復可能)
- ファイルを閉じようとしているモードが、ファイルの種類に矛盾しています。
  - ファイルの種類に適合する呼出し法でファイルを閉じるか、またはSTOP RUN文を実行してプログラムを修正してください。

#### 024 ディスク入出力エラー (エラー024)

- (回復可能)
- WRITEのあとに読み込みを実行しているか、または、検証の失敗かパリティ・エラーがあります。
  - 状況によっては、このエラーは致命的となります。しかし、このエラーが読み込みのときに起きれば、STOP RUN文を実行する前に、エラーを割り出してそのファイルを閉じることができます。

#### 025 オペレーティング・システム・データエラー (エラー025)

- (致命的)
- 端末でない装置に対して、端末特性を設定しようとしています。
  - プログラムを修正してください。

#### 026 ブロックI-Oエラー (エラー026)

- (致命的)
- ディスクにアクセスしようとしているときエラーが発生しました。ディスクの破損が原因です。
  - ディスクが破損している場合は、バックアップコピーを使用してプログラムを再度実行してください。

#### 027 装置が使用できない (エラー027)

- (回復可能)
- マシンに接続されていないか、接続されていてもオンラインになっていない装置にアクセスしようとしています。
  - 装置をマシンに接続してオンラインになっていることを確認し、ファイル処理を行ってください。

#### 028 装置に空領域がない (エラー028)

- (致命的)
- 使用できる空間が不十分なディスク上で、WRITEのようなファイル処理をしようとしています。

- プログラム終了時に、現在ログインしているディスク上のファイルまたはディレクトリをいくつか削除しなければなりません。ファイルを削除して、ファイル処理を実行するための領域を十分に確保できたことを確認してください。

#### 029 オープンしているファイルを削除しようとしている (エラー029)

- (回復可能)
- 開いているファイルにDELETE FD処理を実行しようとしています。
  - DELETE FD処理を実行する前にファイルを閉じてください。

#### 030 ファイル・システムは読み専用である (エラー030)

- (回復可能)
- 使用中のファイル・システムは読み専用で、書き込み禁止になっていますが、ファイルを変更しようとした。例えば、ファイルに対してWRITEを試みたか、またはファイル中の情報をDELETEしようとした。
  - そのファイルの利用者専用のコピーを作成しようとするのであれば、ファイルを変更する試みをやめなければなりません。コピーの内容は変更できますが、元のファイルは変更できません。

#### 031 ファイルの所有者ではない (エラー031)

- (回復可能)
- ファイル処理をしようとしています。ファイルの所有者が処理に必要な許可を与えていません。例えば、ファイルの所有者だけができる、ファイルの呼出し法の変更をしようとしています。
  - ファイルの所有者が、実行したい処理に必要な許可を与えない限り、試みたファイル処理はやめなければなりません。

#### 032 索引ファイルが多すぎる。または処理の確認ができない (エラー032)

- (回復可能)
- 索引ファイルを開こうとしています。すでに、システムで制限している数のファイルを開いています。

あるいは、存在しないプロセスIDか、またはオペレーティングシステムが認識しないプロセスIDを使おうとしています。

- アクセスしない索引ファイルをいくつか閉じれば、必要なファイルを開くことができます。

プロセスIDに誤りがある場合は、システムが認識するプロセスIDを使用するようにプログラムを修正しなければなりません。

### 033      ハードウェアI-Oエラー (エラー033)

- (致命的)
- ある種のハードウェアエラーがあります。適切なドライブにディスクを挿入しなかったか、またはディスクにWRITEしようとした時に、プロセッサがハードウェア・インタフェースの故障を検出しました。
  - 必要なドライブにディスクを挿入するなど、ハードウェアの障害を修正しなければなりません。

### 034      アクセスモードかファイル記述項の指定に誤りがある (エラー034)

- (回復可能)
- 読み専用が開かれたファイルに書き込みをしようとしているか、または書き込み専用が開かれたファイルを読みようとしています。
  - ファイルを閉じて、正しい呼出し法で再度開く必要があります。このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますので、開いているファイルをすべて閉じてSTOP RUN文を実行し、プログラムを修正してエラーを取り除いてください。

COBOLシステムによってINPUT (読み専用) モードで開かれた共有ファイルを、一時的にロックするには、(オペレーティングシステムからの) 書き込み許可が必要です。

### 035      正当な許可なしにファイルをアクセスしようとしている (エラー035)

- (回復可能)
- 完全な実行許可のないファイル処理をしようとしています。例えば、読み属性だけが設定されたファイルヘータを書きようとしています。
  - ファイルの所有者であれば、読みようとしているファイル処理を実行するのに必要な許可を得るために、ファイルの属性を変更することができます。ファイルの所有者でなければ、ファイルをコピーして、コピーファイルだけを変更する以外には、その処理を実行することはできません。元のファイルを変更することはできません。

### 036      ファイルはすでに存在している (エラー036)

- (回復可能)
- すでに存在するファイルに不適切な処理をしようとしています。
  - このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますので、プログラムを修正する必要があります。

### 037      ファイル・アクセスが拒否されている (エラー037)

- (致命的)
- ファイルにアクセスする試みはオペレーティングシステムにより拒否されています。WRITEプロテクトされたファイルに書き込みをしようとしたか、または出力装置から読みようとしています。

- 関係するファイルのアクセス許可を変更してください。ファイルの内容を変更せずに読み込むだけならば、アクセス許可は読み専用となります。ファイルの内容を変更できるようにするならば、読み込みと書き込みのアクセス許可が必要です。

#### 038 ディスクに互換性がない (エラー038)

- (致命的)
- 現在のオペレーティングシステムのバージョンと非互換のディスクをロードしようとしています。ディスクを前のバージョンのシステムで作成したか、または別のオペレーティングシステムのもとで作成したことが原因です。すでにロードされたディスクとかち合った名前を持つディスクをロードしようとしたときもこのエラーを受け取ります。
  - 名前がかち合った結果エラーになったのであれば、ディスクの一方の名前を付け替えることにより、必要ならば、これらのディスクを一緒にロードできます。

#### 039 ファイルに互換性がない (エラー039)

- (致命的)
- 現在のソフトウェアのリリースのもとでのファイル構造と非互換のファイルをロードしようとしています。ファイルが、異なるオペレーティングシステムか、または前のバージョンのもとで作成されたことが理由としてあげられます。
  - コピーして正しい構造をもつファイルを作成する必要があります。

#### 040 言語の変形体が正しく環境設定されていない (エラー040)

- (致命的)
- 言語の変形体を使用しようとしていますが、言語の設定に必要な環境、またはサイド・ファイルが正しく設定されていません。または、存在しないか、無効です。

あるいは、COBNLS .DLL、またはCOBNLS .DLEがありません。

- 必要な環境、またはサイド・ファイルを、プログラムを再実行する前に設定してください。

COBNLS .DLLはUTILS .LBRの中に、またCOBNLS .DLEはCOBDIRの中にあることを確認してください。

#### 041 索引ファイルが破壊されている (エラー041)

- (回復可能)
- ランタイムシステムが、索引ファイルに関する制御情報を認識しません。また、索引が破損されているので、データをアクセスできません。このエラーは割り出せるという意味では回復可能ですが、エラーを受け取った時は、開いているファイルをすべて閉じ、プログラムの実行を止める以外に対処方法はありません。

- そのファイルのバックアップコピーを使用してプログラムを再度実行しなければなりません。バックアップを作成した後に、ファイルにたくさんの情報を追加している場合、Rebuildユーティリティを使用してファイルを再構築するほうがよいでしょう。このユーティリティは、（破損されていないければ）データを読み込んで新しい索引を作ります。『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

#### 042 壊れたパイプに書き込もうとしている (エラー042)

- (回復可能)
- プログラムはDD-論理ファイル名マッピング割当ての結果となる処理を作りました（例:ラインプリンタ・スプーラという処理）。処理が適切に作成されなかったか、またはすぐに止まってしまいました。エラーは、プログラムが書き込みをしようとするとき起こります。
  - 書き込み処理が返すエラー状況を割り出すことができます。そのあとに、ファイルを再度開くことができます。

#### 043 索引ファイルにファイル情報がない (エラー043)

- (致命的)
- 前回のプログラムの実行のときシステムは破壊されましたが、ファイルは開いています。ファイルの最後に、情報が付け加えられましたが、ディレクトリ情報は更新されませんでした。したがって、システムはデータにアクセスできません。あるいは、あるディスクから別のディスクへ索引ファイルを複写しましたが、ファイルのデータ部分だけが、または索引部分だけが複写しませんでした。
  - エラーが破壊によるものであれば、必要なデータにアクセスできるかできないかは、システムに依存します。誤った複写によるものであれば、ファイルの足りない部分を .DATファイル、または .IDXファイルから復元することができます。

#### 044 非NLSプログラムでNLSファイルをオープンしようとしている (エラー044)

- (致命的)
- 論理ファイル名の前に"%NLS%"を指定していますが、ファイルをオープンするプログラムをNSL指令を指定しないでコンパイルしました。そのため、オープンに失敗します。

#### 045 適合しないプログラムでNLSファイルをオープンしようとしている (エラー045)

- (致命的)
- プログラム内のファイルに関するNLS制御情報が、索引ファイルの見出しにある同じNLS制御情報と一致しません。あるいは、索引ファイルが破損されました。
  - 索引ファイルを再度作成するか、またはそのファイルのバックアップコピーを使用してプログラムを再度実行してください。バックアップを作成した後にファイルにたくさんの情報を追加している場合は、ファイルが破損されていないければ、データを読み込むことができるユーティリティを使用してファイルを再構築し、新しい索引を作成することができます。

#### 047 索引構造がオーバーフローしている (エラー047)

- (致命的)
- 索引ファイルの構造に誤りがあります。空領域がない時に、索引に別の項目を入れようとした可能性があります。

あるいは、CIS COBOLを使用して作成した旧形式の索引ファイルにアクセスしようとしています。

キーが64Kよりも大きく重複している可能性もあります。

- 索引に空領域がない場合、ファイルを再編成しなければなりません。

Rebuildユーティリティを実行して、この索引ファイルの一貫性を検査し、さらに古いファイルが破損されていることがわかったら、新しい索引ファイルを構築してください。Rebuildユーティリティの詳細は『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

IDXFORMAT "4"を指定して、プログラムを再度コンパイルしてください。

#### 048 ゼロで割ろうとしている (エラー048)

- (致命的)
- 固定小数点項目をゼロで割るプログラムを実行しています。

ON SIZE ERROR句を使用して、エラーを割り出すことができるようにプログラムを修正する、RTS の Oスイッチを設定しないでプログラムを実行する、CHECKDIV ( OSVS ) 指令を設定しないでプログラムを再度コンパイルする、の中のいずれかを行ってください。

#### 055 ルーチン・テーブルがオーバーフローしている (エラー055)

- (致命的)
- プログラムの数が多すぎて、同時にロードすることができません。
  - 使用しないプログラムをキャンセルするか、または、より少なく分割したプログラムを使用してください。

#### 065 ファイルがロックされている (エラー065)

- (回復可能)
- すでにロックされているか、または別の利用者が出力用に開いたファイルを開こうとしています。あるいは、別の利用者がすでに開いたファイルをロックするか、または出力用に開こうとしています。
  - ファイルにアクセスできないこと、および他の利用者がファイルの使用を終わって閉じるまで待たなければならないことを、オペレータにプログラムから知らせることができます。そうすれば、プログラムの実行を続けることができます。

#### 066 索引ファイルに重複レコード・キーを追加しようとしている (エラー066)

- (致命的)
- 重複指定を行っていないキーに対して、重複するキーを加えようとしています。

- このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますので、プログラムを修正する必要があります。

#### 067 索引ファイルがオープンしていない(エラー067)

(回復可能)

- まだ開いていない索引ファイルにアクセスしようとしています。
- 適切な呼出し法でファイルを開いてから、ファイル処理を再度試みてください。

#### 068 レコードはロックされている(エラー068)

(回復可能)

- 別の利用者がロックしているレコードにアクセスしようとしています。
- レコードが現在ロックされているので、他の利用者がこのレコードのロックを解除するまで待つ必要があることを、オペレータにプログラムから知らせることができます。そうすれば、関係するレコードにアクセスできます。アプリケーションが停止してしまうことがあるので、オペレータの介入がないままで、レコードに継続的にアクセスを試みてはなりません。

#### 069 ISAMモジュールに違法な引数を使用している(エラー069)

(致命的)

- 内部システムエラーによって生じるものです。
- エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 070 オープンできる索引ファイルの制限数を越えている(エラー070)

(回復可能)

- 索引ファイルを開こうとしていますが、一度に開くことができる数のシステム制限を超えてしまいます。
- 現在アクセスしていない索引ファイルをいくつか閉じてください。そうすれば、必要な索引ファイルを開いてプログラムの実行を続けることができます。

#### 071 索引ファイルの形式に誤りがある(エラー071)

(致命的)

- 破損されたファイルを使用しているか、または内部システムエラーがあります。
- 使用中のディスクが破損されている場合、バックアップ・ディスクを使用してプログラムを再実行してください。ほかにエラーの原因がある場合には、エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 072 索引ファイルの終りである(エラー072)

(致命的)

- 内部システムエラーによって生じるものです。
- エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートに問い合わせてください。

- 073 索引ファイルにレコードが見つからない (エラー073)**
- (致命的)
- 内部システムエラーによって生じるものです。
  - エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。
- 074 索引ファイルに最新レコードがない (エラー074)**
- (致命的)
- 内部システムエラーによって生じるものです。
  - エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。
- 075 索引データファイル名が長すぎる (エラー075)**
- (致命的)
- 索引ファイルを作成するときには、拡張子 .IDXが利用者定義名に加えられるので、ファイル名は、名前の最大長から4を引いた長さを超えてはいけません。詳細は、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。
  - ファイル名を短くしてください。
- 076 /ISAMディレクトリ内にロックファイルは作成できない (エラー076)**
- (致命的)
- システムがISAMディレクトリにロックファイルを作成できません。前の実行中に、プログラムが (電源の故障などで) 異常終了し、ファイルがロックされたままになっていることが、原因の1つとして挙げられます。
  - プログラムを実行するには、ISAMディレクトリから、ロックされたままのファイルをすべて手動で取り除かなくてはなりません。
- 077 ISAMモジュールの内部エラー (エラー077)**
- (致命的)
- 内部システムエラーによって生じるものです。
  - エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。
- 078 索引ファイルに違法なキーの記述がある (エラー078)**
- (致命的)
- 内部システムエラーによって生じるものです。
  - エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。
- 079 COBCONFIGの構文エラー (エラー079)**
- (致命的)
- 環境変数COBCONFIGを経てアクセスされるランタイム構成サイド・ファイルに、誤りがあります。

- 『COBOLシステムリファレンス』を参照して構文を確認してください。誤った構文を使用したか、または構成の調整が可能なRTSの種類と非互換の構文を使用しています（調整可能なRTSの環境変数に違法な値を割り当てていることも含まれます）。

**081 索引ファイルにキーが既に存在している（エラー081）**

(致命的)

- 内部システムエラーによって生じるものです。
- エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。

**082 CALL適用規則はサポートされていない（エラー082）**

(致命的)

- 指定したCALL適用規則はサポートされていません。
- CALL適用規則については『COBOLユーザーガイド』を参照してください。

**086 リモートファイルのシステム障害（エラー086）**

(致命的)

**099 SORT/MERGEモジュールでの不正な操作)**

- SORT/MERGEモジュールが、適切な入力または出力手続きではない所でRELEASE操作またはRETURN操作を受取りました。あるいは、入力手続きが正しく終了する前に、RETURN操作が試みられました。
- プログラムをコーディングし直してください。

**100 無効なファイル操作である（エラー100）**

(致命的)

- COBOLの一般規則に反するファイル処理をしようとしています。最も可能性のある原因は、I-O用に開いた順ファイルか、またはI-O用に開いた順呼出し法の相対ファイルに、先にREAD NEXTを行わないで書き換えを実行しようとしたことです。
- REWRITE文の前にREAD NEXTがくるようにプログラムを修正してください。

**101 索引ファイルに違法な操作を行っている（エラー101）**

(致命的)

- 内部システムエラーによって生じるものです。
- エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートにお問い合わせください。

**102 順ファイルのレコード数が非整数である（エラー102）**

(致命的)

- 順ファイルに対して誤ったレコード長を指定した、アクセスしようとしている順ファイルが破損している、指定したファイルが順ファイルでない、のいずれかです。

- 正しい種類のファイルを指定するようにプログラムを修正するか、または、ファイルが破損しているのであれば、そのファイルのバックアップコピーを使用してプログラムを再度実行してください。

**103 パラメータの形式はBY VALUEで引き渡すことができない(エラー103)**

(致命的)

**104 ファイル操作で空白のファイル名を使用している(エラー104)**

(致命的)

- ファイル名に定数の代わりにデータ名を指定したので、ファイルを開こうとした時、ファイル名が空白でした。
- 正しいファイル名を指定するように、プログラムを修正してください。

**105 メモリ割り当てエラー(エラー105)**

(致命的)

- ランタイムシステムは、試みようとしている処理の実行に十分なメモリ空間を割り当てることができません。システムにはメモリ空間が残されていません。
- プログラムを実行するためには、さらにメモリを獲得しなければなりません。メモリを獲得する方法について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

**106 ディクショナリ・エラー(エラー106)**

(致命的)

- ファイルやディスクの、読み込みまたは書き込みエラーの場合もありますが、内部システムエラーによる場合のほうが多いです。

あるいは、アプリケーションがプログラムをたくさんCALLし、使用後にそれらをCANCELしなかったため、アニメート中にメモリを使いきってしまった可能性もあります。

- エラーの原因と訂正方法についてテクニカル・サポートに問い合わせてください。

アニメートする時は、アクセスする必要がないプログラムをすべてCANCELして、できるだけ多くのメモリが使用できるようにしてください。

**107 このランタイムシステムでは操作を行えない(エラー107)**

(致命的)

- ランタイムシステムがサポートしていないファイル処理を実行しようとしています。
- その処理を行わないようにプログラムを修正するか、または、この機能をサポートするシステムのバージョンを使用しなければなりません。

- 108 データ部を初期化できない (エラー108)**
- (致命的)
- ランタイムシステムは、データ部を初期化するのに必要なデータが破損されているために、プログラムをロードできません。
  - 正しい中間コードを得るために、再度プログラムをコンパイルしなければなりません。
- 109 ランタイムシステムに無効な検査合計がある (エラー109)**
- (回復可能)
- ランタイムシステム中の内部情報が変更されています。ランタイムシステムが破損されているか、または内部情報の違法な変更を行おうとしています。
- 110 生成コードはこのRTSではサポートされていない (エラー110)**
- (致命的)
- エラーの原因と訂正方法をテクニカル・サポートに問い合わせてください。
- 111 クラスライブラリとランタイム環境のバージョンに互換性が無い**
- (致命的)
- これらのコンポーネント用のバージョン番号が一致しません。
  - COBOLの同じバージョンからClass Libraryとランタイム環境の全体をインストールしている場合、PATH、LIBPATH、COBDIR環境変数が、使用しているバージョンの適切なパスを指定するようにしてください。
- 112 要求されたセキュリティキーにロケート/アクセスできない**
- ランタイムシステムが、このアプリケーションを実行するのに必要なコード化されたセキュリティキー (ドングル) にロケートまたはアクセスできません。
  - COBOLシステムで提供されたセキュリティキーをご使用のコンピューターのパラレルポートに接続して、アプリケーションを再実行してください。
- 114 メモリ領域外の項目にアクセスしようとしている (エラー114)**
- (致命的)
- オペレーティングシステムが、記憶域アクセスの違反を検出しました。
- 115 予測しない信号を検出した (エラー115)**
- (致命的)
- ランタイムシステムが予測しなかった信号が見つかりました。
- 116 メモリの割り当てができない (エラー116)**
- (致命的)
- ランタイムシステムの一部が、プログラムの実行に十分な記憶域を割り当てることができません。

- 使用していないプログラムをキャンセルし、記憶域の使用量を減らしてから、処理を実行してください。

#### 117 文字の大小順序に誤りがある (エラー117)

- (致命的)
- 内部システムエラーによるものです。
  - エラーの原因と訂正方法をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 118 名前が見つからない (エラー118)

- (致命的)
- オブジェクト・ファイルをロードできません。COBPATH環境変数に指定されていないプログラムを呼び出そうとしています。

#### 119 名前が重複している

- (致命的)
- ランタイムシステムが、重複して定義されている記号を見つけました。同じ名前のモジュールあるいはデータ項目が、既に定義されています。
  - OO プログラムは、次のどちらかの理由によりこのエラーを引き起こすこともあります。
    - 1つのオブジェクトに同じメソッド名を重複して定義した。
    - Class-Control節で、異なるプログラムに異なるファイル名を持つ同じクラス名を定義した。ファイル名は、大文字小文字で区別されます。したがって、クラスファイル名は小文字にします。
  - アプリケーションを再度コーディングして、重複する記号の名前を変更します。または、COBOL以外の言語により作成されたオブジェクトとリンクしていない場合には、-eスイッチを使用します。-eスイッチの詳細については、「NTアップデトリファレンス」を参照してください。

#### 120 文字列テーブルがゼロ・サイズである (エラー120)

- (致命的)
- 誤った形式のオブジェクト・ファイルになっています。
  - プログラムが終了したら、オブジェクト・ファイルを修正する必要があります。それでもエラーになる場合は、エラーの原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 121 名前がTEXT部分にない (エラー121)

- (致命的)
- 実行可能でないサブプログラムを呼び出そうとしています。
- あるいは、呼ばれるプログラムに、前に定義したデータ項目と同じ名前を使用しています。

- 呼び出されるサブプログラムが、実行可能であることを確認してください。必要ならば、サブプログラムの名前を訂正した後、プログラムを再度コンパイルしてください。

プログラムが終了したら、プログラムを修正して重複した名前を取り除き、プログラムを再コンパイルしてください。

#### 122 CoblongjmpがCobsaveenvの下位レベルを呼び出している (エラー122)

- (致命的)
- CALL/PERFORM階層の中で、cobsaveenvが呼び出されたレベルより高いレベルへ制御を戻しています。coblongjmpは、CALL/PERFORM階層の中でcobsaveenvが呼び出されたレベルと同じか、またはそれより低いレベルから呼び出さなければなりません。cobsaveenvとcoblongjmpの詳細については、『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。
  - プログラムのロジックを確認し、訂正してください。そのあと、プログラムを再コンパイルしてください。

#### 123 再配置のタイプがわからない (エラー123)

- (致命的)
- 使用しているオブジェクト・ファイルとCOBOLランタイム・ライブラリに互換性がありません。
  - プログラムが終了したら、現在のバージョンのCOBOLランタイム・ライブラリと共にオブジェクト・ファイルを再度コンパイルしてください。それでもエラーになる場合は、エラーの原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 124 中央のファイル・ハンドラーへのI/O要求中に通信障害がおきた (エラー124)

#### 125 制限時間により全ロック/現在トランザクションをキャンセルする (エラー125)

#### 126 レコードサイズがシステム制限値を越えている (エラー126)

(致命的)

#### 129 相対ファイルのゼロ・レコードをアクセスしようとしている (エラー129)

- (回復可能)
- RELATIVE KEYデータ項目に指定された値が、ゼロになっています。
  - RELATIVE KEYデータ項目の値が、ゼロより大きくなるようにしてから、プログラムの実行を続けてください。

#### 135 ファイルが見つからない (エラー135)

- (回復可能)
- オペレーティングシステムが、プログラム中でアクセスしようとしたファイルを発見できません。

- 正しいディレクトリにいること、または関係するファイルへのパスが存在することを確認してください。そのあと、ファイル処理を再度試みてください。エラーの原因が、スペルの誤りであるならば、正しいファイルを要求するようにしてから、ファイル処理を再度試みてください。

**137 違法な装置指定-大容量記憶ではない(エラー137)**

**138 ファイルはロック・モードでクローズされている-オープンできない(エラー138)**

- (回復可能)
- 前にロックして閉じたファイルを開こうとしています。これは、COBOLプログラミングの一般規則に違反します。
  - 関連するファイルを開くことはできません。このエラーは、プログラムのロジックにエラーがあることを意味しますので、開いているファイルをすべて閉じて、STOP RUN文を実行し、プログラムを修正してください。

**139 レコード長かキー・データが矛盾している(エラー139)**

- (回復可能)
- 現在のプログラム中でのレコード長またはキーの指定と、最初に開いたプログラム中での定義との間に矛盾があります。
  - プログラムに誤りがありますので、プログラムを修正する必要があります。そのあと、プログラムを再度実行する前にコンパイルしてください。

**141 ファイルは既にオープンしている-再度オープンできない(エラー141)**

- (回復可能)
- すでに開いているファイルを開こうとしています。したがって、ファイルを開くことはできません。
  - 2度目にファイルを開こうとするのをやめて、ファイルが開かれている状態でよい場合は、プログラムの実行を続けてください。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますので、開いているファイルを閉じ、STOP RUN文を実行して、プログラムを修正する必要があります。

**142 ファイルをオープンしていない-クローズできない(エラー142)**

- (回復可能)
- 開いていないファイルを閉じようとしています。これは実行不可能です。
  - 関連するファイルを閉じようとするのをやめて、プログラムの実行を続けてください。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りがあることを意味しますので、開いているファイルを閉じ、STOP RUN文を実行して、プログラムを修正する必要があります。

**143 順呼出しでREWRITE/DELETEの前のREADが成功していない(エラー143)**

- (回復可能)
- 順呼出しのファイル上で、REWRITEまたはDELETEを試みたときに、読み込みに失敗しました。
  - 前のREADが成功しているならば、REWRITE処理またはDELETE処理を再度試す前に、ファイルに対してREADを実行してみてください。前のREADが成功していないならば、ファイルを閉じてSTOP RUN文を実行し、再実行する前にプログラムを修正してください。

**144 境界の違反である(エラー144)**

- (回復可能)
- 可変長ファイルにWRITE、またはREWRITEを実行しようとしています。レコードの長さが、そのファイルに対して定義された範囲内にありません。
  - プログラムを修正してください。

**146 順読み込みに対して現レコードが定義されていない(エラー146)**

- (回復可能)
- READ/START、またはINVALID KEYに誤りがあったために、ファイル内のファイル位置指示子が定義されていません。ファイル内の別レコードを読み込もうとしましたが、現レコードが定義されていないので、システムは要求されたレコードの開始点を発見できません。
  - START処理を試み、ファイル位置指示子が正しく更新されるまで、それを続けてください。

**147 READ/STARTのオープン・モードかアクセス・モードが誤りである(エラー147)**

- (回復可能)
- READまたはSTART処理を、INPUT用またはI-O用に開かれていないファイル上か、閉じているファイル上で実行しようとしています。
  - I-O用またはINPUT用にファイルを開けば、プログラムの実行を続けることができます。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りが含まれていることを意味しますので、開いているファイルを閉じて、STOP RUN文を実行し、プログラムを修正する必要があります。

**148 WRITEのオープン・モードかアクセス・モードが誤りである(エラー148)**

- (回復可能)
- OUTPUT用またはEXTEND用に開いていない順呼出し法のファイルに書き込みをしようとしているか、INPUT用またはI-O用に開いていない乱呼出し法、または動的呼出し法のファイルに書き込みをしようとしています。
  - ファイルを閉じて、ファイルの種類に対して正しいオープンモードで、ファイルを再度開いてください。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りが含まれていることを意味しますので、開いているファイルを閉じて、STOP RUN文を実行し、プログラムを修正する必要があります。

**149 REWRITE/DELETEのオープン・モードかアクセス・モードが誤りである (エラー149)**

- (回復可能)
- I-O用に関いていないファイルにREWRITEかDELETEを実行しようとしています。
  - ファイルを閉じ、I-O用に再び開いてください。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りが含まれていることを意味しますので、開いているファイルをすべて閉じて、STOP RUN文を実行し、プログラムを修正する必要があります。

**151 順ファイルを乱呼出ししている (エラー151)**

- (回復可能)
- 順編成ファイルで、乱読込みをしようとしています。
  - 正しい呼出し法でファイルを読込んでください。このエラーはプログラムのロジックに誤りが含まれていることを意味しますので、開いているファイルをすべて閉じてSTOP RUN文を実行し、プログラムを修正する必要があります。

**152 REWRITEしているファイルがI-Oモードでオープンされてない (エラー152)**

- (回復可能)
- I-O用に関いていないファイルにREWRITEを実行しようとしています。
  - 関連するファイルを閉じ、I-O処理用にファイルを開いてください。そうすれば、REWRITE処理を実行できます。しかし、このエラーはプログラムのロジックに誤りが含まれていることを意味しますので、開いているファイルをすべて閉じてSTOP RUN文を実行し、プログラムを修正する必要があります。

**153 添字が指定範囲外になっている (エラー153)**

- (致命的)
- プログラム中で使用した添字は、定義範囲外です。すなわち、添字が1より小さいか、または項目の反復の数より大きくなっています。
  - プログラムを修正する必要があります。

**154 PERFORMの入れ子が深すぎる (エラー154)**

- (致命的)
- このエラーは、範囲の終わりのEXIT文へ飛び越すためではなく、PERFORMの範囲の外へ出るためにGO TOを使用した結果です。
  - プログラムが終了したらプログラムを修正して、GO TOがPERFORM範囲の終わりのEXIT文へジャンプするようにしてください。

#### 155 コマンド行が違法である (エラー155)

(致命的)

- ランタイムシステムは、指定したコマンド行の形式を有効とは認識しません。

または、プログラムの正常実行のために必要な汎用コマンド行インタプリタが、システム上にありません。

または、COBSWに無効な値を設定しました。

- 有効なコマンド行を使用してアプリケーションを再度実行してください。

システムがコマンドを正しく取り込めるように、インタプリタが存在することを確認し、プログラムを再度実行してください。

COBSWに、有効な値を再設定してください。

#### 156 COMPUTE文に括弧が多すぎる (エラー156)

(致命的)

- COMPUTE文が複雑すぎて、システムが取り扱うことができません。
- プログラムを修正する必要があります。COMPUTE文を、いくつかの簡単な文に分解してください。

#### 157 十分なメモリがない:目的ファイルが大きすぎてロードできない (エラー157)

(回復可能)

- プログラムが大きすぎて、メモリ空間が足りないか、またはスタックがいっぱいです。
- 関連するCALL文でON OVERFLOW/EXCEPTION句を指定していれば、エラーは回復可能です。関連する無条件文があれば、次の命令の前に実行されます。

#### 158 行順ファイルにREWRITEしようとしている (エラー158)

(回復可能)

- 行順編成のファイルにREWRITE文を使用しています。REWRITE文は行順ファイルには使用できません。
- データを失わないように、STOP RUN文を実行する前にファイルを閉じてください。REWRITEを実行したいファイルを順編成、索引順編成、または相対編成ファイルにするようにプログラムを修正してください。

#### 159 行順ファイルが破壊している (エラー159)

(回復可能)

- アクセスしようとしている行順ファイルは、破損されています。
- そのファイルのバックアップ・コピーを使用して、プログラムを再度実行してください。

#### 160 オーバーレイ・ロード・エラー (エラー160)

- (回復可能)
- 独立区分に中間コードをロードしようとしてエラーが発生しました。区分がないか、あるいは破損されています。
  - 区分がなければ、その位置を指定してください。区分が見つからないか、または破損されているならば、プログラムを再コンパイルしてください。

#### 161 中間コードが違法である (エラー161)

- (致命的)
- 現在処理中の中間コードは有効ではありません。破損したファイルか、または正しくコンパイルされていないファイルを実行しようとしています。
  - 破損されていない中間コードを得るには、プログラムを再コンパイルしなければなりません。

#### 162 算術桁あふれまたは下位桁あふれしている (エラー162)

- (致命的)
- 浮動小数点データ項目をゼロで割ろうとしています。
  - プログラムを修正して、この違法な処理を取り除いてください。

#### 163 数字項目に違法な文字がある (エラー163)

- (致命的)
- 省略時解釈によって、数字フィールド、または数字編集のフィールドの入力値は、数字かどうか検査されます。これらのフィールドに、非数字文字か、または初期化されていない数字を入力しています。これらは自動的に空白で埋められるので、非数字項目として分類されます。
  - コマンド行で数字フィールド・チェック・スイッチを設定しなければ、ランタイムシステムは数字フィールド、または数字編集フィールドの値が数字かどうかを検査しません。したがって、プログラムを実行することができます。あるいは、数字、または数字編集項目を数値で初期設定しておけば、数字フィールド・チェック・スイッチの設定とは無関係にプログラムを実行できます。

#### 164 ランタイム・副プログラムが見つからない (エラー164)

- (致命的)
- ランタイムシステムの中で入口のアドレスが設定されていないサブルーチンを呼び出そうとしています。
  - サブルーチンの呼出しで、有効な呼出し番号を使用したかどうかを確認してください。有効でなければ、システムが認識できる呼出し番号を持つように、プログラムを変更してください。有効な呼出し番号を使用しているにもかかわらずこのエラーを受け取った場合には、テクニカル・サポートに連絡してください。

**165      バージョン番号に互換性がない (エラー165)**

- (致命的)
- 使用された中間コードは、現在使用中のランタイムシステムと互換性のないCOBOLシステムのバージョンで作成されたものです。RTSは、この中間コードから作成中の生成コード、またはすでに作成した生成コードを実行できません。
  - COBOLシステムの中間コードまたは生成コードのないファイルを実行してください。また、Win32プラットフォームで無効な形式のモジュールをロードしてください。

**166      再帰的なCOBOL CALLは違法である (エラー166)**

- (致命的)
- すでに起動されているCOBOLモジュールを呼び出そうとしています。
  - プログラムを修正する必要があります。

**167      USING句の項目が多すぎる (エラー167)**

- (致命的)
- CALL...USING文で指定した項目の並びが、ランタイムシステムが取り扱うことができる長さを超えています。
  - プログラムが終了したら、基本項目ではなく集団項目を使用するように修正してください。

**168      スタックオーバーフロー (エラー168)**

- (致命的)
- PERFORM文か、CALL文の入れ子が深すぎます。
  - PERFORMまたはCALL文の、入れ子レベル数を減らすようにプログラムを修正し、原始コードを再コンパイルしてください。

**169      構成情報が違法である (エラー169)**

- (致命的)
- マシンで構成されていない処理をしようとしています。最も可能性の高い原因としては、ADISが正しく構成されていないことが挙げられます。
  - ADISが正しく構成されているか確認してください。ADISの再構成の方法の詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。

**170      システム・プログラムが見つからない (エラー170)**

- (致命的)
- システム・プログラム (例:ADIS、またはEXTFH) が、現在のログイン・ドライブ上に存在しません。
  - すべてのシステム・プログラムがログイン・ドライブ上で使用できることを確認し、バックアップ用システムディスクを使用して、足りないプログラムをコピーしてください。必要なシステム・プログラムがすべて使用可能になれば、プログラムを実行できます。

**171 このRTSでは日本語操作は違法である (エラー171)**

- (致命的)
- 非日本語ランタイムシステムで日本語処理をしようとしているか、または非日本語ランタイムシステムで実行するコードを作成するために、日本語バージョンのCOBOLシステムを使用しています。
  - 非日本語ランタイムシステムでプログラムを再コンパイルするか、または、日本語処理をしたい場合には、日本語ランタイムシステムを用意しなければなりません。

**173 呼び出すプログラムがドライブ/ディレクトリ内に見つからない (エラー173)**

- (致命的)
- 現在ログインしているドライブかディレクトリ、あるいはCOBDIR環境変数が指示するディレクトリに存在しないプログラムを呼び出そうとしています。
  - プログラムが終了したら、ログインしているドライブまたはディレクトリに、関連するファイルを複写する必要があります。この時、十分なスペースが使用できなければ、プログラムから呼出しがあった場合に、ファイルが存在するディレクトリまたはドライブを検索するように、COBDIR環境変数を設定しておかなければなりません。COBDIR環境変数の詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。これらの処置が済んだら再度プログラムを実行してください。
  - ロードできないクラスによりエラーが引き起こされた場合には、( Class-Control節にリストされている )クラスのファイル名が個別の実行可能ファイルであるか、.dllファイルまたは.lbrファイルに含まれているかを確認してください。
    - 個別の実行可能ファイルの場合、上記のように解決してください。
    - .dllファイルまたは.lbrファイルの一部である場合、必ずクラスにメッセージを送る前にCALL文でロードしてください。
    - 見つからないプログラムがP2emgrである場合、CALL "APIGUI"文でGUIクラスライブラリをロードする必要があります。

**174 インポートしたファイルが見つからない (エラー174)**

- オペレーティングシステムが探索できない、別の(.DLL) ファイルを参照する(.DLL) ファイルをロードしようとしています。
- 必要なファイルをオペレーティングシステムの省略時の探索パスに置いてください。

**175 重大エラーがある中間コードプログラムを実行しようとしている (エラー175)**

- (致命的)
- ランタイム・スイッチEをオフにしてコンパイルした時に重大なエラーが発生したプログラムを、実行しようとしています。

ランタイムスイッチEをオンにしてプログラムを実行できますが、正しい結果にはなりません。

- 原始コードの重大なエラーを訂正してからプログラムを再コンパイルし、作成された中間コードを実行してください。

このスイッチの詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。プログラムをアニメートする時は、Animatorがこのエラーを報告し、プログラムの実行を続けることができます。

#### 176 違法な区分内参照である (エラー-176)

- (致命的)
- ファイルが破損されています。あるいは、コードに前方参照テーブルに対する区分参照が含まれていますが、これは違法です。
  - 原始コードを再コンパイルしてください。再度このエラーが起きた場合には、原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 177 実行中のプログラムをキャンセルしようとしている (エラー-177)

- (致命的)
- 記憶域から現在実行中のプログラムか親プログラム、またはさらにその親プログラムを取り除こうとしています。
  - プログラムが終了したら、実行中のプログラム (あるいは親プログラムか、その親プログラム) をキャンセルすることがないように、プログラムを修正する必要があります。

#### 179 連鎖中にエラーが発生している (プログラムが見つからない) (エラー-179)

- (致命的)
- システムが発見できないプログラムを別のプログラムへ連鎖しようとしています。
  - プログラムが終了したら、ログインしているドライブまたはディレクトリに、関連するファイルを複写する必要があります。このための十分な記憶域が使用できなければ、プログラムから呼出しがあったときに、ファイルが存在するディレクトリまたはドライブを検索するようCOBDIR環境変数を設定しておかなければなりません。COBDIR環境変数の詳細については『COBOLシステムリファレンス』を参照してください。これらの処置が済んだら、再度プログラムを実行してください。

#### 180 ファイルの終わりの標識にエラーがある (エラー-180)

- (致命的)
- ファイルの終わりに達したことを示すために使用されるファイル標識が、ファイルにありません。
  - プログラムを再コンパイルするか、またはデバッガを使用してファイルの終わりにEOF標識を付けてください。その後、プログラムを再度実行してください。

- 181 無効なパラメータを使用してエラーが発生している (エラー181)**
- (致命的)
- 使用したパラメータをシステムが認識できません。データ部の最初の64Kにないパラメータを、ランタイムシステムのサブプログラムに使用しています。
  - システムが認識できるパラメータを使うように、プログラムを変更してください。すなわち、パラメータがデータ部の最初の64Kの中にあるようにしてください。
- 182 画面から入力またはキーボードに出力しようとしている (エラー182)**
- (致命的)
- 画面からの入力の読み込みをしようとしているか、またはキーボードへ書込みをしようとしています。
  - プログラムを修正してください。
- 183 行順ファイルをI-Oモードでオープンしようとしている (エラー183)**
- (致命的)
- 行順ファイルを入出力モードで開こうとしています。このモードは、行順編成のファイルに対してはサポートされていません。
  - プログラムが終了したら、行順編成ファイルは入力、出力または拡張モードで開くようにプログラムを修正しなければなりません。そうすればコードを再実行できます。
- 184 ACCEPT/DISPLAYのI-Oエラー (エラー184)**
- (致命的)
- 画面からの入力を読み込もうとしているか、またはキーボードへ書込みをしようとしているか、あるいはADISモジュールが端末のチャンネルをI-Oモードで開けないかのいずれかです。
  - プログラムのロジックに誤りがあるので修正してください。
- 185 ファイルが壊れている (エラー185)**
- (回復可能)
- 186 誤ったモードでstdin, stdout, stderrをオープンしようとしている (エラー186)**
- (回復可能)
- 標準的な出力モードで標準的な入力ファイルを開こうとしているか、または、誤ったモードで他のファイルを開こうとしています。
- 188 ファイル名が長すぎる (エラー188)**
- (致命的)
- 使用したファイル名が、オペレーティングシステムで使用できる最大文字数を超過しています。

- ファイル名の長さに誤りがないか確認し、ファイル名を短く付け直すようにプログラムを修正してください。その後、プログラムを再度実行できます。

#### 189 中間コードのロード・エラー (エラー189)

- (致命的)
- 中間コードをロードできません。正しく作成できなかったか、または破損された中間コードをロードしようとしています。
  - 原始コードをコンパイルして、正しい中間コードを作成すると、コードをロードして実行することができます。

#### 190 CALLの引数が多すぎる (エラー190)

- (致命的)
- 引数の数が原因で、プログラムのCALLが実行できませんでした。
  - プログラムが終了したら、基本項目ではなく集団項目を使用するように、プログラムを修正してください。その後、プログラムを実行できます。

#### 191 端末のタイプが定義されていない (エラー191)

- (致命的)
- 端末が定義されていません。
    - 環境が設定されていないので、オペレーティングシステムは端末を動かすことができません。
  - 端末に必要な環境を設定してください。

#### 192 必要な端末の機能に関する記述がない (エラー192)

- (致命的)
- 必須の記述項、例えば、カーソルの移動または画面のクリアが、端末構成データベース ("termdec"、または"termcap") にありません。
  - 足りない記述項を、端末構成データベースへ加えてください。

#### 193 可変長カウントエラー (エラー193)

- (致命的)
- 現在処理中の中間コードは有効ではありません。破損されたファイルか、またはコンパイルされていないファイルを実行しようとしています。
  - 原始コードを再コンパイルしてください。

#### 194 ファイルのサイズが大きすぎる (エラー194)

- (致命的)
- プログラムがアクセスしているファイルが大きすぎて、実行を続けることができません。

- プログラムが終了したら、プログラムを修正して、データを複数のファイルに分散させ、どのファイルもオペレーティングシステムが扱うことができる大きさにしてください。そのあと、もう一度実行してください。

#### 195 DELETE/REWRITEの前にファイルをREADしていない(エラー195)

- (致命的)
- 順呼出し法において、DELETEまたはREWRITE文を実行するには、その前に、ファイルに対してREADを行わなければなりません。プログラムの中のDELETEまたはREWRITEは、READ文が先行していません。
  - プログラムが終了したら、DELETE、またはREWRITEの前に実行される最後の入出力文がREAD文になるように修正してください。

#### 196 相対または索引ファイルのレコード番号が大きすぎる(エラー196)

- (致命的)
- 相対レコードキーがシステムの制限を超えています。すなわち、ファイルが大きすぎてシステムが取り扱うことができません。
  - あるいは、指定されたレコードキーが大きすぎてシステムが扱うことができないか、または、レコードのポインタが破損されているので、レコードキーが大きすぎたりレコード長の倍数になっていません。

#### 197 画面操作システムの初期化エラー(エラー197)

- (致命的)
- このエラーは、次のいずれかによるものです。
    - 表示装置アダプタのモードが誤っています。
    - 端末が必要な機能を持たないため、画面処理インタフェースが正しく初期化されていません。
    - 記憶域が誤って割り当てられています。
  - モニターはグラフィック表示モードではなく英数字表示モードでなければなりません。

#### 198 ロードできない(エラー198)

- (致命的)
- システムはプログラムをロードできません。または、マルチスレッド・プログラムにおいて、新しいスレッドが開始されました。
  - CALL文は、次のような理由により失敗します。
    - DLLの場合に、指定されたエントリポイントがファイルにない
    - .intファイルまたは.gntファイルの場合に、ファイルが壊れている

- \$PROG形式の呼出しの場合に、名前のマッピングに失敗した
- call-by-numberライブラリ・ルーチン (CALL データ名。データ名には、x'80'よりも大きい値を指定する) の場合に、ルーチンが存在しない

スレッドを呼び出しても、呼び出そうとしても、保護侵害などにより内部構造が壊れていれば失敗します。

SET PROCEDURE POINTER TO ENTRY (エントリポイント) の形式の文は、エントリポイントがディスクまたは現在の実行単位で見つからなければ失敗します。

まれに、使用可能なメモリの不足またはランタイムシステムのバージョンが古すぎる、などの理由でCALL文が失敗するとこのエラーが発生することがあります。

- 目的の呼出しが存在し、壊れていないことを確認してください。また、次のように形式のコードをインクルードすることにより、手続きポインタが有効であることを実際に使用する前に確認してください。

```
set bad-pointer to entry 'just-not-there-ever'
...
set procedure-pointer to entry 'myentrypoint'
if procedure-pointer = bad-pointer
display error
end-if
```

#### 199 オペレーティング・システムが破壊されている (エラー199)

(致命的)

- システム・コールが、マニュアルに記載されていないエラー番号を返しました。
- エラーの原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 200 ランタイムシステムの内部論理エラー (エラー200)

(致命的)

- マシン上で使用できる記憶域が少ないので、ランタイムシステムを全部ロードできません。

あるいは、回復不可能な内部ロジック・エラーがあるためにランタイムシステムが停止しています。

- 記憶域の一部を解放すれば、プログラムを実行できます。

エラーの原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 201 ページング・システム内のI-Oエラー (エラー201)

(致命的)

- カレント・ディレクトリ、または使用中のフロッピーディスクに、ページングファイルのために使用できる領域がありません。

- プログラムが終了したら、不要なファイルをディレクトリからすべて削除してページングファイルのための空領域を作るか、または新しいフロッピーディスクを挿入してください。

#### 203 CALLパラメータが連絡節に定義されていない (エラー203)

- (致命的)
- 実行中のプログラムの連絡節 (Linkage Section) の中でアクセスしようとしている項目が、初期設定されていません。
  - プログラムが必要なパラメータをすべて含むように修正するか、または有効な呼出しであることを確認してください。

#### 206 書込まれていないデータをメモリから読んでいる (エラー206)

- (致命的)
- 書込まれていないデータをコア・ファイルから読み込もうとしています。

#### 207 マシンが存在しない (エラー207)

- (回復可能)
- ネットワークに接続されていないマシンにアクセスしようとしているか、またはマシンがオンラインになっていません。
  - マシンがネットワークに接続されてオンラインになっていることを確認してから、再度アクセスしてください。

#### 208 マルチユーザー・システム内のエラー (エラー208)

- (致命的)
- ネットワーク内またはファイル共有機能内での、予想外のエラーが原因です。破損されたネットワークもこのエラーを返します。
  - 失敗した処理をやり直してください。エラーが続くときは、原因をテクニカル・サポートに問い合わせてください。

#### 209 ネットワーク通信エラー (エラー209)

- (回復可能)
- 通信パケットの中に誤りのあるチェックサムを受け取ったことによるものです。
  - このエラーを受け取った後もプログラムの実行は続きますが、結果は定義できません。

#### 210 ファイルはロックモードでクローズされている (エラー210)

- (致命的)
- ロックして閉じたファイルを開こうとしています。
  - ロックして閉じたファイルを開くことがないように、プログラムを変更してください。

**213 レコードのロック数が多すぎる (エラー213)**

- (回復可能)
- 1つのファイルに対して可能な同時レコードロックの最大数を超えようとしたか、またはダイナミックメモリのようなオペレーティングシステムやネットワークの資源を使い切っています。
  - COMMITまたはUNLOCK処理を、関連するファイルについて実行してください。そうすればプログラムの実行を続けることができます。また、必要以上に長くレコードをロックしないでください。

**214 GO TOがALTERされていない (エラー214)**

- (致命的)
- COBOLプログラミングの一般規則に違反しています。
  - 開いているファイルをすべて閉じてSTOP RUN文を実行し、さらに、違法な処理をしないようにプログラムを変更してください。

**215 COMMUNICATIONSの実行中のプログラムをANIMATEできない (エラー215)**

- (致命的)
- 通信モジュールを使用するプログラムをアニメートしようとしています。Animatorと通信モジュールは共にCRTを全面的に使用するので不可能です。
  - Animatorを使わずにプログラムを実行しなければなりません。

**216 指定された通信装置が初期化できない (エラー216)**

- (致命的)
- デバイスドライバがありません。
  - 通信を実行する前に、すべての通信ドライバがロードされていることを確認してください。

**217 コンパイルされたコードファイルとホスト間に互換性がない (エラー217)**

- (致命的)
- ホストプロセッサに対して .GNTファイルが有効ではありません。
  - プログラムを再コンパイルしてください。

**218 複数リール/ユニットファイルに誤りがある (エラー218)**

- (致命的)
- ファイル見出しが正しい形式になっていないか、またはMULTIPLE REEL/UNITファイルを使用していません。
  - 関連するファイルのバックアップコピーを使用して、プログラムを再度実行してください。

**219 共有ファイルがオペレーティング・システムの制限数を越えている (エラー219)**

- (回復可能)
- 同時に開くことができる共有ファイルの数が、オペレーティングシステムの制限を越えています。この数はオペレーティングシステムに依存しますので、同時に開くことができる共有ファイルの数については『リリースノート』を参照してください。
  - アクセスする必要がない共有ファイルを閉じてから、ファイル処理を再度試みてください。

**220 同時に複数のSORTまたはMERGEを実行しようとしている (エラー220)**

- (致命的)
- 複数のSORT、またはMERGE処理を同時に実行するようにプログラムがコーディングされています。例えば、SORT文が別のSORT文の入力または出力の手続きの中にあります。これはANSI COBOLで禁止されている処理です。
  - 同時に複数のSORTまたはMERGEを実行しないように、プログラムを修正してください。

**221 SORT/MERGEエラー:状態キーを見ること (エラー221)**

- (致命的)
- SORT/MERGE処理に失敗しました。SORT/MERGE処理の際に、ファイルを開きすぎたか、またはアクセスしようとしているファイルがロックされています。
  - 対処方法は、エラーが起きた状況によって決まります。SORT文で (USING/GIVINGとして) 定義した各ファイルの状態を検査してください。

**222 SORT/MERGEエラー:状態キーを見ること (エラー222)**

- (致命的)
- SORT/MERGE処理に失敗しました。SORT/MERGE処理の際に、ファイルを開きすぎたか、またはアクセスしようとしているファイルがロックされています。
  - 対処方法は、エラーが起きた状況によって決まります。SORT文で (USING/GIVINGとして) 定義した各ファイルの状態を検査してください。

**223 SORT/MERGEエラー:状態キーを見ること (エラー223)**

- (致命的)
- SORT/MERGE処理に失敗しました。SORT/MERGE処理の際に、ファイルを開きすぎたか、またはアクセスしようとしているファイルがロックされています。
- あるいは、TMP環境変数を設定して、存在しないディレクトリを指示しています。
- 対処方法は、エラーが起きた状況によって決まります。
- 存在するディレクトリを指示するTMPを設定するか、またはTMPの設定を取り消してください。

224 外部言語の初期化ができない(エラー224)

225 動的ロード・エラー-プログラムの構成要素がない(エラー225)

(致命的)

- ランタイムシステムは、記憶域にロードされるプログラムのルートまたはオーバーレイの位置を決めることができません。

または、メモリ不足のためプログラムをロードできません。

または、ランタイムシステムがオープンするファイル操作を見つけれられません。そのため、コードをロードできません。

- プログラムが入っているライブラリがキャンセルされたか、またはプログラムが検索パス上で使用できません。プログラムがディスク、またはオープン・ライブラリで使用できることを確認してください。

また、メモリをいくらか解放するか、アプリケーションを再構築してメモリの使用量を減らしてください。

または、オペレーティングシステムが処理できるファイルの最大数を増やしてください。

226 外部ファイルの定義が矛盾している(エラー226)

- 複数のプログラムが同じ外部ファイルを異なる形式で定義しています。例えば、最大および最小のレコード長が各プログラムで違うかもしれません。
- すべてのプログラムで一貫性を持たせるため、外部ファイルを同じ形式で定義するようにしてください。COPYファイルを定義しておく役に立ちます。

227 外部データの定義に一貫性がない(エラー227)

(致命的)

- 複数のプログラムが、同じ外部データ項目を定義しています。しかし、最初にロードされたプログラムは、2番目以降にロードされたプログラムよりも小さいサイズで、定義しています。
- すべてのプログラムが、外部データ項目のサイズが同じになるように定義していることを確認してください。

228 外部データ項目に対してのメモリを割り当てられない(エラー228)

(致命的)

**229 SORT/MERGEでは外部ファイルに対するUSING/GIVING指定はできない(エラー229)**

- (回復可能)
- EXTERNALとして定義したUSING/GIVINGファイルのSORTまたはMERGE処理を行おうとしました。SORT/MERGEモジュールは、EXTERNALと定義したUSING/GIVINGファイルをサポートしません。
  - 呼出し可能なSORTモジュール (EXTSM) を使うようにして、プログラムを再コンパイルしてください。

**235 アニメート処理での通信チャンネル・エラー(エラー235)**

- (致命的)
- Animatorが、システムの制限または矛盾によって、通信エラーになりました。同じUNIXシステムへの2つのログインが、同じプログラム・ファイルにクロス・セッション・アニメートを行おうとしている可能性があります。
  - アニメートするプログラム・ファイルを、別のディレクトリへCOPYし、アニメートを行ってください。

**236 アニメートしたプログラムが正常終了していない(エラー236)**

- (致命的)
- アニメートしているプログラムが、ランタイムシステムの標準的な「シャット・ダウン」処理が行われずに終了しました。終了は、利用者によって行われたか、または、重大なランタイム・エラーによって起きた可能性があります。
  - プログラムが正常に実行できるかどうかを決定するために、アニメートをしないでプログラムを実行してください。正常実行できる場合は、クロス・セッション・アニメートやセッション内のアニメートを行わないで、プログラムのアニメートを行ってください。

**237 アニメートの初期処理を行うことができない(エラー237)**

- (致命的)
- Animatorが、プログラムの開始のときにシステムの制限を受けました。メモリーの不足か、または、UNIXシステム上で実行するプロセスが多すぎるために、プログラムを開始することができません。
  - システムの負荷が減ったときにプログラムをアニメートしてください。プログラムが正常に実行できるかどうかを決定するために、アニメートをしないでプログラムを実行し、正常実行が可能な場合は、クロス・セッション・アニメートやセッション内のアニメートを行わないで、プログラムのアニメートを行ってください。プロセス・スロットや仮想記憶ページ・マップの拡張を、システム管理者に依頼してください。

#### 238 GNTアニメート中STOP RUNに達した

- (情報)
- .gntコードのプログラムをアニメート中に、AnimatorがSTOP RUN文に達しました。
  - アニメートするプログラムをステップまたはズームすると、Animatorはプログラムを終了させて、現行のセッションに戻ります

#### 239 共有ランタイムシステムの初期化に失敗した

- (情報)
- COBOL以外のプログラムからCOBOLモジュールを呼び出していますが、共有ランタイムシステムを初期化していません。
  - COBOLモジュールの実行前に必ずアプリケーションでcobinit()関数を呼び出すようにしてください。cobinit()関数の詳細については、UNIX版のCOBOLシステムリファレンスを参照してください。

#### 240 不正なオブジェクト参照

- (致命的)
- 不正または存在しないオブジェクトハンドルを持つ参照オブジェクトを使用しようとした。
  - 参照オブジェクトが必ず現在のオブジェクトハンドルを使用するようにしてください。また、プログラムが以前に最終化メッセージを送ってそのオブジェクトを壊していないことを確認してください。

#### 241 抽象クラスの実体化に失敗した

- (致命的)
- ABSTRACTとして宣言されたクラスのインスタンスを作成しようとした。このようなクラスは実体化できません。
  - 正しいクラス名を指定したことを確認してください。代わりに使用できるサブクラスがないか見てください。

#### 242 DoesNotUnderstandメッセージを解決できない

- (致命的)
- ランタイムシステムがDoesNotUnderstandメッセージを解決できません。これは通常、このメソッドが見つからないものの中でクラスを定義しているためです。
  - プログラムのロジックをチェックして、オブジェクトによってサポートされるメソッドだけを起動するようにするか、またはオブジェクトがDoesNotUnderstandメソッドをサポートするようにしてください。

**243 クラスがロードされませんでした**

(致命的)

- オブジェクトクラスをロードしようとして、失敗しました。

これは、クラスが正しいClass-Control節を持っていなかったか、またはクラスが正しく定義されていないためです。

- クラスの定義を確認してください。

**254 ACCEPT中のANIMATORにキーボード割込みを行った(エラー254)**

(致命的)

- Animator使用中に、キーボードの割込みでプログラムを終了させました。

# 第5章： ファイル状態コード

## 5.1 概説

この章では、ファイル状態コードを説明します。ファイル状態コードとは、入出力操作を行った際に、FILE STATUS句を使用して定義してある各ファイルに関して返されるコードです。ANSI85に従う処理のためにロードされた標準システムを使用するならば、ANSI85ファイル状態コードは省略時設定として作成されます。ANSI74ファイル状態コードを作成するには、実行時にAスイッチを設定してください。

あるいは、NOANS85指令を指定してプログラムをコンパイルしてください。コンパイルの際に、NOANS85指令を指定しないとANSI85ファイル状態コードが作成されます。

ANSI85構文を使用するけれどもANSI74状態コードを作成する場合は、NOANS85指令ではなくANS85"SYNTAX"指令を設定するか、またはNOANS85指令を取り除いて、実行時にAスイッチを設定してください。

前述のファイル状態の表示法に加えて、さらに詳細な拡張ファイル状態コードを作成できます。拡張ファイル状態コードは次の形式で表示されます。

9/nnn

nnn:2進数 (COMP-X) で、ランタイムエラー番号に相当する値です。

ランタイムエラーについては、第4章「ランタイムシステム・メッセージ」を参照してください。

例えば、ファイルをディスクに書込んでいる時に、ディスクの空間が足りなくなった場合、ANSI74ファイル状態コードは"30"です。このコードは翻訳されて、エラーメッセージ「永続するエラー。これ以上の情報はありません。」となります。このエラーメッセージはとても一般的なもので、「永続するエラー」はディスクの故障か、またはディスク・ドライブが開かれたままになっていることを意味しています。そこで、このCOBOLシステムは一般的なファイル状態コードではなく9/007の拡張ファイル状態コードを返します。

ANSI74、またはANSI85ファイル状態コードを使用する場合、拡張ファイル状態コードのほうが、通常のコードより明確に表示されているならば、ランタイムシステムは拡張状態コードを返します。

ほかの指定がなければ、呼出し法やファイル編成に関係なくすべての入出力処理に対して、ファイル状態コードを受け取ることができます。

## 5.2 メッセージ

00 正常終了。

02 索引ファイルの場合だけ設定されます。

次の2つの可能性が考えられます。

- READ文の実行で、現在の参照キーの値が次のレコードの参照キーの値と等しくなっています。
- WRITE、またはREWRITE文の実行で、書き出されたレコードの、少なくとも1つの副レコードキーの値が重複しています。副レコードキーの重複は、許可されています。

04 処理しているレコードの長さは、このファイルのファイル固有属性に従っていません。

05 OPEN文が実行されたとき参照された不定ファイルは存在しません。

07 順ファイルの場合だけ設定されます。

REEL/UNIT指定のあるCLOSE文、またはOPEN文で参照されたファイルは、リール/ユニット媒体ではありません。

10 次の論理レコードがありません。

ファイルの終わりに達したことを意味します。

14 相対ファイルの場合だけ設定されます。

相対レコード番号の有効桁数が、そのファイルに対して記述された相対キーデータ項目の大きさより大きくなっています。

21 順呼出しのファイルの場合だけ設定されます。

順序の誤りを表します。一連のレコードキー値は昇順でなければいけないのに違反しているか、または主レコードキー値が、そのファイルに対する、正常終了したREAD文と次のREWRITE文の実行との間で、COBOLプログラムによって変更されています。

22 索引および相対ファイルの場合だけ設定されます。

重複キーの状態を示します。索引ファイル、相対ファイルに重複キーを作成することになるレコードを格納しようとしています。または、重複指定を行っていないのに、索引ファイルに、重複した副レコードキーを作成することになるレコードを格納しようとしています。

23 レコードが見つからなかったことを示しています。

キーで識別されるレコードにアクセスしようとしていますが、そのレコードはファイルに存在していません。

あるいは、存在しない不定入力ファイルに、STARTまたはREAD処理を行おうとしています。

24 相対および索引ファイルの場合だけ設定されます。

次の状態の中のどれかによって起きる、区域外書き出しを示しています。

- 外部で定義されたファイルの区域を越えて書き出しをしようとしています。
- 順次WRITE文を、相対ファイルに実行しようとしています。しかし、相対レコード番号の有効桁数が、そのファイルに対して記述された相対キーデータ項目の大きさより大きくなっています。

30 入出力文の実行が、不成功に終わりました。原因は、順ファイルに対する区域外書き出し、または、データチェック・パリティエラーや伝送エラーのような入出力エラーです。

34 入出力文の実行が、区域外書き出しのため失敗しました。

この状態は、順ファイルについて、外部で定義された区域を越えて書き出しが実行されようとしたことを示します。

35 I-O、INPUT、またはEXTEND句のあるOPEN文が、不定ファイル以外の存在していないファイルに実行されようとしてしました。

37 OPEN文で指定されたオープンモードをサポートしないファイルに、OPEN文を実行しようとしています。

38 前にロックをして閉じたファイルに、OPEN文を実行しようとしています。

39 ファイル固有属性と、プログラム中でそのファイルに対して指定した属性との間に矛盾があります。

41 すでに開いているファイルにOPEN文を実行しようとしています。

42 すでに閉じているファイルにCLOSE文を実行しようとしています。

43 順呼出しのファイルの場合に設定されます。

DELETE、またはREWRITE文の実行より前に、このファイルに対して最後に実行された入出力文が、READ文ではありませんでした。

44 区域外書出しがあります。

区域外書き出しには次のようなものがあります。

- 関連するファイルのRECORD IS VARYING句で定義した最大長よりも長いまたは最小長よりも短いレコードをWRITEまたはREWRITEしようとした。
- レコードをファイルにREWRITEしようとした。このレコードは、置き換えられるレコードのサイズとは異なります。

46 順呼出しのREAD文がINPUT、またはI-Oモードで開いているファイルに実行されようとしています。しかし、次の有効なレコードが確立されていません。

47 INPUT、またはI-Oモードで開かれていないファイルにREAD、またはSTART文を実行しようとしています。

48 OUTPUT、I-O、もしくはEXTENDモードで開かれていないファイル、または順呼出し法のI-Oモードで開いているファイルにWRITE文を実行しようとしています。

49 I-Oモードで開いていないファイルにDELETE、またはREWRITE文を実行しようとしています。

### 5.3 拡張ファイル状態コード

ANSI74、またはANSI85ファイル状態コードを使用する場合、拡張ファイル状態コードのほうが、通常のコードより明確に表示されているならば、ランタイムシステムは拡張状態コードを返します。

拡張ファイル状態コードは次の形式で表示されます。

9/nnn

以下に、各コードについて説明します。

001 バッファ空間が不十分です。OS/2上では、SWAPPATHが正しく設定されていないか、またはSWAPPATH上のドライブがいっぱいであることを示します。また、記憶域が不足している状況も示します。

002 アクセスしようとしたときに、ファイルが開いていませんでした。

003 順次モードエラーです。

004 違法なファイル名です。

005 違法な装置指定です。

006 入力用に開かれたファイルに書込もうとしています。

- 007 ディスク空間が足りません。
- 008 出力用に開かれたファイルから入力しようとしています。
- 009 ディレクトリに空間がありません (ディレクトリが存在しません)。
- 010 ファイル名が与えられていません。
- 012 すでに開いているファイルを開こうとしています。
- 013 ファイルが見つかりません。
- 014 同時に開かれているファイルの数が多すぎます。
- 015 開いている索引ファイルの数が多すぎます。
- 016 開いている装置ファイルの数が多すぎます。
- 017 レコードのエラーです。レコード長がゼロの可能性があります。
- 018 レコードの部分読みエラーです。EORの前にEOFがあるか、または誤りのあるモードでファイルが開かれています。
- 019 書き換えエラーです。ファイルを開くモードか、または呼出し法に誤りがあります。
- 020 装置、または資源を使用中です。
- 021 ディレクトリをファイルにしています。
- 022 OPENに対して違法、または不可能な呼出し法です。
- 023 CLOSEに対して違法、または不可能な呼出し法です。
- 024 ディスク入出力エラーです。
- 025 オペレーティングシステムのエラーです。
- 026 ブロックの入出力エラーです。
- 027 装置が使用できません。
- 028 装置に空間がありません。
- 029 開いているファイルを削除しようとしています。
- 030 ファイルシステムが読み込み専用です。
- 031 ファイルの所有者ではありません。

- 032 インデックスファイルが多すぎるか、またはそのような処理はありません。
- 033 物理的な入出力エラーです。
- 034 モードまたはファイル記述子に誤りがあります。
- 035 誤った許可を持ってファイルにアクセスしようとしています。
- 036 ファイルはすでに存在しています。
- 037 ファイルへのアクセスは拒否されました。
- 038 ディスクに互換性がありません。
- 039 ファイルに互換性がありません。
- 040 言語の初期設定が正しく行われていません。
- 041 インデックスファイルが破損されています。
- 042 破壊されたパイプに書き出そうとしています。
- 043 インデックスファイルに対するファイル情報がありません。
- 045 非互換のプログラムを使用してNLSファイルを開こうとしています。
- 047 インデックス構造の桁あふれです (重複キーの最大数に達したことを示します)。
- 065 ファイルはロックされています。
- 066 重複レコードキーをインデックスファイルに加えようとしています。
- 067 インデックスファイルが開かれていません。
- 068 レコードがロックされています。
- 069 ISAMモジュールに対する引数が違法です。
- 070 開かれたインデックスファイルが多すぎます。
- 071 インデックスファイルの形式に誤りがあります。
- 072 インデックスファイルの終わりです。
- 073 インデックスファイルにレコードが見つかりません。
- 074 インデックスファイルに現在レコードがありません。

- 075 索引ファイルの名前が長すぎます。
- 077 内部ISAMモジュールの故障です。
- 078 索引ファイルのキー記述が違法です。
- 081 索引ファイルのキーはすでに存在します。
- 100 ファイル処理が無効です。
- 101 索引ファイルに対する処理が違法です。
- 102 順ファイルのレコード数が非整数です。
- 104 ファイル処理でヌルのファイル名が使用されています。
- 105 記憶域の割当てエラーです。
- 129 相対ファイルで、0番目のレコードにアクセスしようとしています。
- 135 ファイルが存在しません。
- 138 ファイルはロックされて閉じられているので、再度開くことはできません。
- 139 レコード長、またはキーデータが一致していません。
- 141 ファイルはすでに開かれているので、開くことはできません。
- 142 ファイルは開かれていないので、閉じることはできません。
- 143 順呼出しのREWRITE/DELETEの前に、READが成功していません。
- 146 順読込みに対して、現在レコードが定義されていません。
- 147 READ/STARTに対してファイルを開くモードか、または呼出し法に誤りがあります。
- 148 WRITEに対してファイルを開くモードか、または呼出し法に誤りがあります。
- 149 REWRITE/DELETEに対してファイルを開くモードか、または呼出し法に誤りがあります。
- 150 ユーザーの要求により、プログラムの実行を放棄しました。
- 151 順ファイルで乱読込みをしています。
- 152 I-Oモードで開いていないファイルに、REWRITEを実行しています。
- 158 行順ファイルにREWRITEを実行しています。

- 159 行順ファイルの形式に誤りがあります。
- 161 ファイルの見出しが見つかりません。
- 173 呼ばれたプログラムが見つかりません。
- 180 ファイルの終わりを示す標識に誤りがあります。
- 182 コンソールへの入出力を誤ったモードで開いています。
- 183 行順ファイルをI-Oモードで開こうとしています。
- 188 ファイル名が長すぎます。
- 193 可変長の総数にエラーがあります。
- 194 ファイルサイズが大きすぎます。
- 195 DELETE/REWRITEの前に、READがありません。
- 196 相対、または索引ファイルのレコード番号が大きすぎます。
- 210 ファイルはロックして閉じられています。
- 213 ロックが多すぎます。
- 218 MULTIPLE REEL/UNITファイルの形式に誤りがあります。
- 219 オペレーティングシステムの共有ファイル制限を超えています。

## 5.4 Microsoft COBOL V2のファイル状態コード

状態キー-1	状態キー-2	説明
0	0	正常終了。
	2	重複キーおよび重複指定は、許可されています。
1	0	ファイルの終わり。
2	1	順呼出しのファイルを書く順序に誤りがあります。
	2	重複キーおよび重複指定は許可されていません。
	3	キーが見つかりません。

	4	ディスク空間がいっぱいです。
3	0	永久エラー、またはファイルが見つかりません。
	4	ディスク空間がいっぱいです。
9	1	ファイル構造のエラーです。
	4	ファイルまたはレコードがロックされています。
	5	索引ファイルシステムが使用できません。

## 5.5 ファイル状態コードの表示方法の例

次の例は、ファイル状態を表示するためにファイル状態コードの第2バイトの値を取り出す方法です。10進数を4桁まで保存できる1つの数字データ項目（長さは2バイト）として2つの状態バイトを再定義することにより、どのように切り捨てを避けているかに注意してください。

```

select fd-name
       assign "user.dat"
       status is fd-name-stat.
...
data division.
file section.
fd fd-name.
01 fd-rec                               pic x(80)
...
working-storage section.
01 fd-name-stat.
   03 sk1                               pic x.
   03 sk2                               pic x.
   03 stat-bin redefines sk2 pic 9(2) comp-x.
01 displ-stat.
   03 sk1-displ                         pic x.
   03 filler                             pic x(3).
   03 sk2-displpic                       pic zz9.
...
procedure division.
start-test.
open input fd-name
move sk1 to sk1-displ
if sk1 not= 9
   move sk2 to sk2-displpic
else
   move stat-bin to sk2-displpic
end-if
display displ-stat
close fd-name
stop run.

```

## 5.6 ファイル状態コードのチェック方法の例

次の例は、ファイル状態をチェックする方法です。まず、先頭バイト（状態キー-1）を取り出します。より詳細な情報が必要であれば、次に第2バイト（状態キー-2）を取り出します。

```
select recseq
    assign to "recseq.dat"
    file status is ws-file-status
    organization is record sequential.
...
file section.
fd recseq
record contains 80 characters.
01 recseq-fd-record    pic x(80).
...
working-storage section.
01 ws-file-status.
    05 status-key-1    pic x.
    05 status-key-2    pic x.
    05 binary-status  redefines status-key-2 pic 99 comp-x.
...
procedure division.
...
perform check-status.
...
check-status.
    evaluate status-key-1
        when "0" next sentence
        when "1" display "end of file reached"
            perform check-eof-status
        when "2" display "invalid key"
            perform check-inv-key-status
        when "3" display "permanent error"
            perform check-perm-err-status
        when "4" display "logic error"
        when "9" display "run-time-system error"
            perform check-mf-error-message
    end-evaluate.
...
check-eof-status.
    if status-key-2 = "0"
        display "no next logical record"
    end-if.
...
check-inv-key-status.
    evaluate status-key-2
        when "2" display "attempt to write dup key"
        when "3" display "no record found"
    end-evaluate.
...
check-perm-err-status.
    if status-key-2 = "5"
        display "file not found"
    end-if.
...
check-mf-error-message.
    evaluate binary-status
        when 002 display "file not open"
```

```

        when 007 display "disk space exhausted"
        when 013 display "file not found"
        when 024 display "disk error      "
        when 065 display "file locked     "
        when 068 display "record locked   "
        when 039 display "record inconsistent"
        when 146 display "no current record "
        when 180 display "file malformed  "
        when 208 display "network error   "
        when 213 display "too many locks  "
        when other display "not error status "
        display binary-status
end-evaluate.

```

## 5.7 拡張ファイル状態コードの例

次の例は、標準ファイル状態を拡張ファイル状態として使用できるように再定義する方法です。この例では、入力ファイルが存在しない場合を想定しています。したがって、OPEN INPUT文が実行されると、拡張ファイル状態コード9/013 ("ファイルが見つかりません") が返されます。

```

select in-file
    assign to "user.dat".
    file status is file-status.
...
working-storage section.
01 file-status.
    05 status-key-1          pic x.
    05 status-key-2          pic x.
    05 status-key-2-binary redefines status-key-2 pic 99 comp-x.
...
procedure division.
open input in-file
    if file-status not = "00"
        if status-key-1 = "9"
            if status-key-2-binary = 13
                display "File not found"
...

```

拡張ファイル状態コードを表示する場合には、255バイトまで格納できる表示フィールドにファイル状態データ項目の第2バイトを移動する必要があります。

```

select in-file
    assign to "user.dat"
    file status is file-status.
...
working-storage section.
01 ans74-file-status.
    05 status-key-1          pic x.
    05 status-key-2          pic x.
    05 status-key-2-binary redefines status-key-2 pic 99 comp-x.
01 display-ext-status
    05 filler                pic xx value "9/"
    05 display-key 2         pic 999
...
procedure division.
open input in-file
if file-status not = "00"

```

```
display "Error. File status =" with no advancing
if status-key-1 = "9"
    move status-key-2-binary to display-key-2
    display display-ext-status
else
    display file-status
end-if
...
```